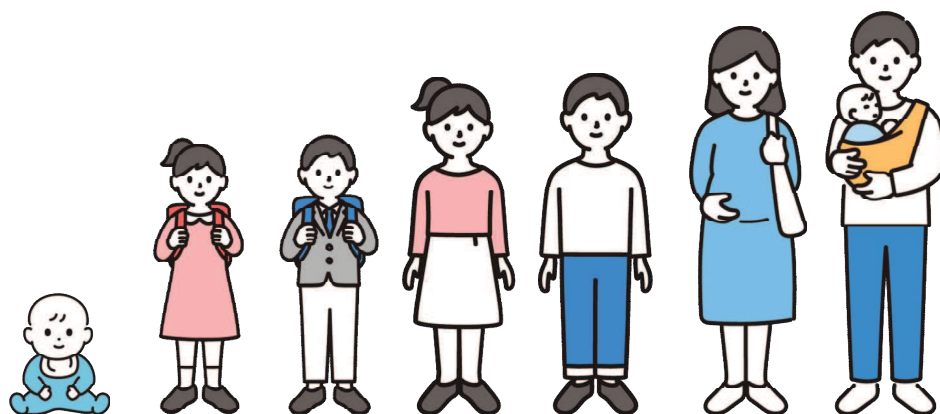


大野市こども・若者計画（案）



令和7年3月
大野市

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の期間と位置づけ	1
3 こども・若者の定義	3
4 計画策定に向けた取組	3
5 計画の推進体制と視点	4
6 伝える・伝わる情報発信と意見聴取	4
7 計画の進行管理	3
第2章 計画の基本的な考え方	5
1 基本理念	5
2 こどもまんなか社会の実現	5
3 基本方針	5
第3章 計画の体系	6
施策の柱 1 「こども」から「若者」までの共通する支援	7
施策の柱 2 結婚支援	16
施策の柱 3 妊娠・出産支援	19
施策の柱 4 乳・幼児期の支援	22
施策の柱 5 学童期の支援	25
施策の柱 6 保護者への支援	29
施策の柱 7 配慮を必要とする支援	33
第4章 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策	36
参 考 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果	45

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

令和5年の国内の出生数は約73万人と8年連続減少し、過去最低となり、少子化、人口減少に歯止めがかかっていません。また、平均初婚年齢は妻が約30歳、夫が約31歳となっており晩婚化や未婚化が進んでいます。

大野市では平成24年8月に制定された「子ども・子育て関連3法」に基づき、幼児期の質の高い教育・保育の総合的提供や地域の子育て支援事業の提供体制の確保に向け、平成27年度から令和元年度を計画期間とする「大野市子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。その後、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「第2期大野市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て世代が安心して子育てできる環境づくりと、全てのこどもが健やかに育ち、保護者が子育ての喜びを実感できるまちづくりを目指してきました。

このような中、国では全てのこども・若者が個人として尊重され、多様性が認められ、夢や希望を持って成長できる「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組を進め、令和5年4月に「こども基本法」を施行し、同年12月に「こども大綱」「こども未来戦略」を閣議決定するなど、こどもの権利を包括的に保障する法整備を行いました。

この度、第3期子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、こども基本法に基づき国の「こども大綱」と県の「こども計画」を勘案し、子ども・若者育成支援推進法や子どもの貧困対策推進法に基づく計画を含めた「大野市こども・若者計画」を策定し、全てのこどもや若者、子育て世代の多様な夢や希望を尊重し、ウェルビーイング（個人や社会のよい状態、心身ともに満たされた状態）な生活を送ることができる社会の実現に向け、人のつながり、地域のつながり、社会のつながりにより、こどもや若者、子育て世代への支援を行います。

2 計画の位置づけと計画期間

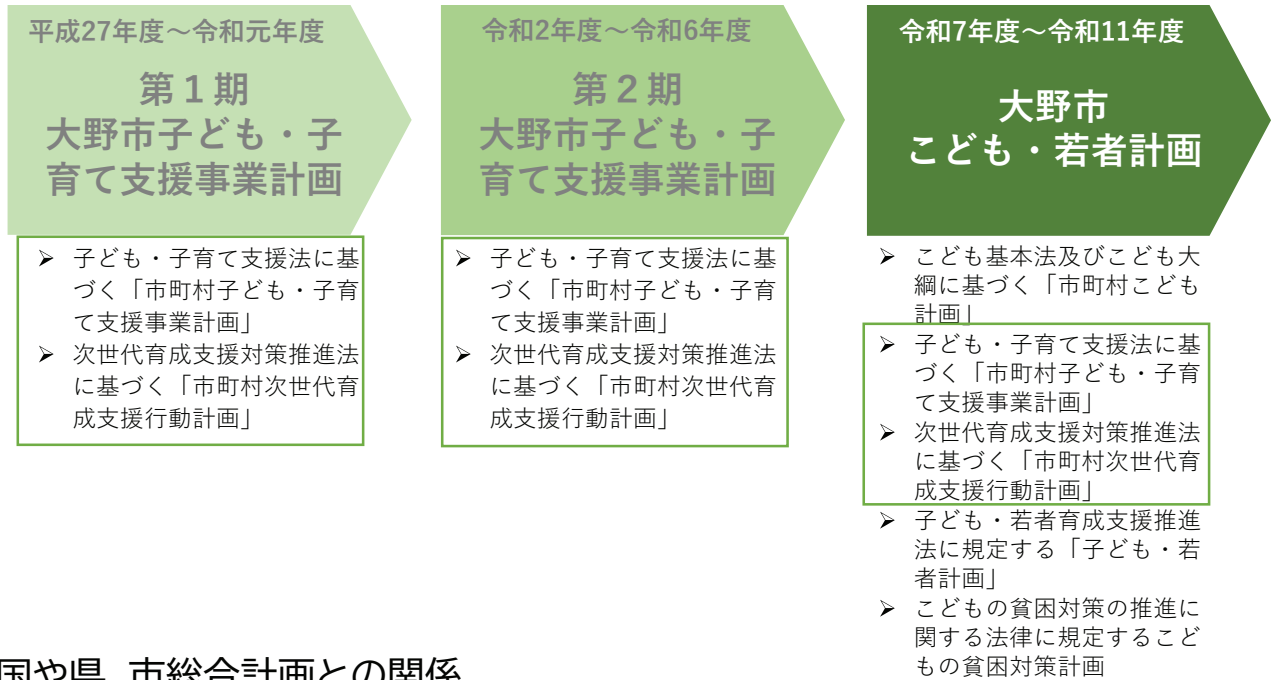
「第六次大野市総合計画」は、将来像である「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結いのまち」の実現に向けて、「こども」「健幸福祉」「地域経済」「くらし環境」「地域づくり」「行政経営」の6つの分野ごとにまちづくりの目標となる基本目標を定め、施策を組み、事業を実施しています。

「大野市こども・若者計画」は、本市の最上位計画である「第六次大野市総合計画」を推し進める中で、こども分野を主としながら、こどもや若者、子育て世代に関連するその他の分野にも関係する計画として取組を進めていきます。

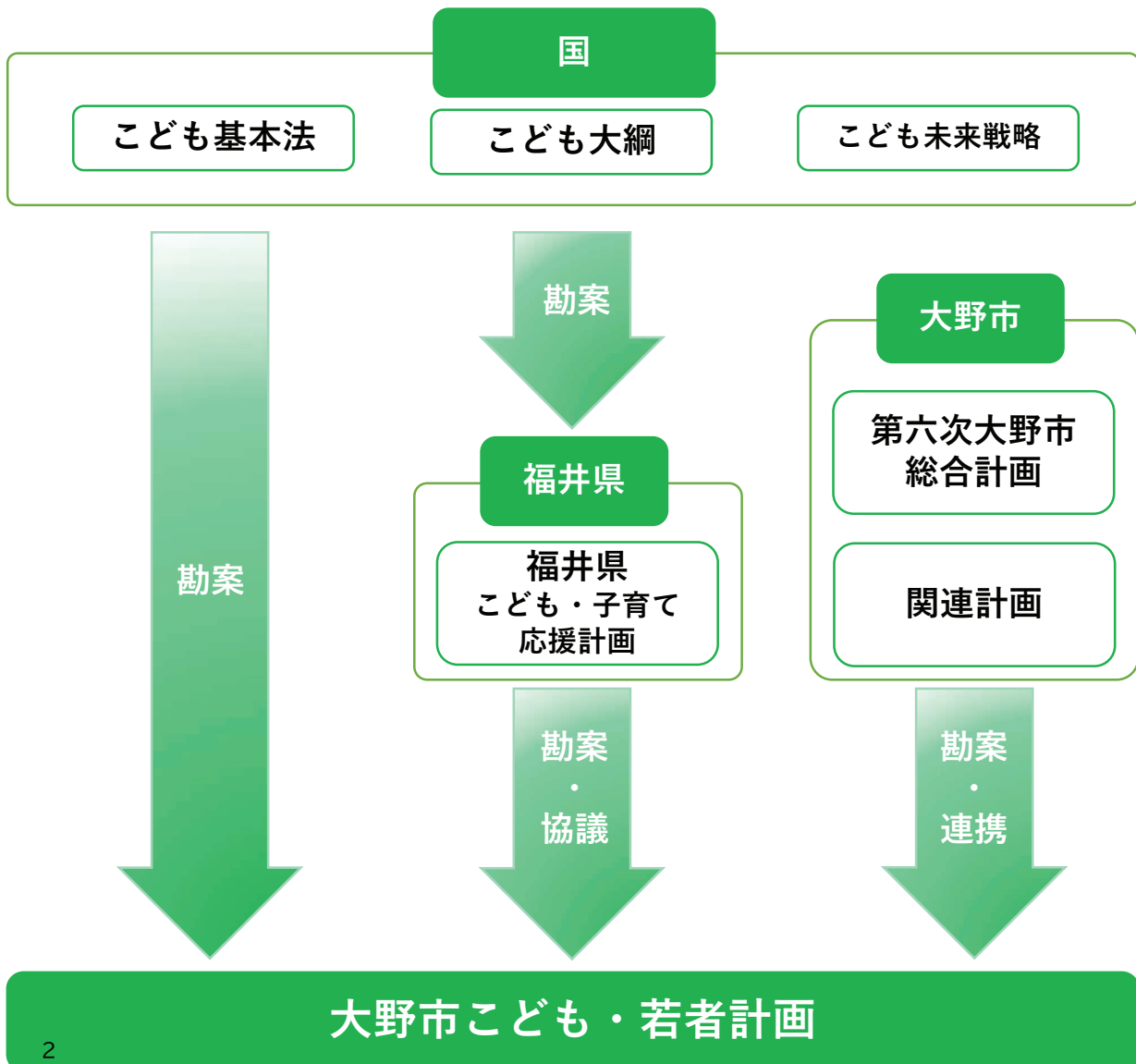
また、本計画の期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間としています。

「第六次大野市総合計画後期基本計画」が今後策定されることから、上位計画との整合性や、こども・若者と子育て当事者に関する様々な課題やニーズに対応するため、必要に応じた見直しを図るものとし、令和9年度においては中間見直しを行います。

これまでの計画との関係



国や県、市総合計画との関係



3 こども・若者の定義

こども基本法において、「こども」とは、「心身の発達の過程にある者」と定義されており、同法の基本理念として、全てのこどもについて、その健やかな成長が図られる権利が等しく保障されること等が定められており、それぞれのこども・若者の状況に応じて必要な支援が18歳、20歳といった特定の年齢で途切れることがないようにすることが求められていることから、本計画においては法令や固有名詞に用いられるなどの特別な場合を除き「こども」と表記します。

若者については、法令上の定義はありませんが、本計画においては、主に青年期（おおむね18歳以上からおおむね30歳未満）を示す場合には、「若者」の用語を用います。

4 計画策定に向けた取組

令和6年2月

子ども・子育て支援に関するニーズ調査実施（以下「ニーズ調査」）

- 住民登録のある就学前児童の保護者（無作為抽出500人）
- 住民登録のある小学生の保護者（全数調査）

令和6年5月

大野市公立保育園保護者連合会意見交換会（5/27）

- 子育てをするうえでの『喜び』『期待』『不安』『悩み』
- 子育てと仕事の両立（家庭のこと、職場のこと、制度のこと）
- 子育てをしながらの私らしさの発揮

大野市子ども・子育て会議（5/28）

- 子ども・子育て支援に関するニーズ調査（分析）
- 令和5年度「大野ですくすく子育て応援パッケージ」実績報告
- 計画施策の体系（案）説明

令和6年8月

高校生・大学生と語ろう！の会（若者から意見聴取）（8/8）

- 小学校・中学校・高校の頃、放課後の居場所は？
- 将来結婚したり子育てして大野に住むには何が必要？
- コミュニティが少なくなってきたことをどう思う？
- 保育士の仕事についてどう思う？

こどもの意見を聞く会（小学生から意見聴取）（8/29）

- 学校が始まったら何にチャレンジする？
- 放課後は何をしたい？

令和6年10月

若者支援に関する関係団体（大野商工会議所青年部）ヒアリング（10/30）

- 結婚を希望する若者にとって必要なもの
- 子育てと仕事を両立のために必要なもの
- 希望する数の子を産むのに障害になっているもの

令和6年11月

『若者から話を聞く会』（11/4）※主催：地域おこし協力隊員

- 移住するきっかけと、実際に移住を決めた理由は？
- 今、大野市で暮らしていて感じることは？
- 今後も大野市で暮らしているイメージはあるか？

大野市子ども・子育て会議（11/22）

- こども・若者計画（骨子案）作成のための課題整理
- 若者支援について（グループワーク）

令和6年12月

総合教育会議(12/24)

○こども・若者計画に定める若者育成支援について

令和7年1月

大野市子ども・子育て会議(1/10)

○(仮称)大野市こども・若者計画(素案)について

教育委員会定例会(1/24)

○大野市こども・若者計画(素案)について

パブリックコメント(1/27~2/21)

○提出意見:2件、提出者:2人

令和7年3月

大野市子ども・子育て会議(3/17)

○大野市こども・若者計画(案)について

5 計画の推進体制と視点

大野市こども・若者計画の施策を着実に実行し、国や県との連携を強化するとともに、子ども・子育て支援事業者や教育関係者と連携を深め、計画の方向性や考え方を共有し、市民や各種団体、事業所などの協力を得ながら取組を進めます。

また、取組の推進に当たっては、個人や社会のよい状態、心身ともに満たされた状態であるウェルビーイングな生活の実現、モノや場所、スキルなどの資源を共有するシェアリング・エコノミーの考え方や、家事・子育ての負担感の偏在を解消するジェンダーギャップの緩和の視点を取り入れます。

6 伝える・伝わる情報発信と意見聴取

今後も、大野市のこどもや若者、子育て世代に対する応援を分かりやすく取りまとめた「大野ですくすく子育て応援パッケージ」や「結婚・子育てハンドブック」、市公式LINEやウェブサイトなどを活用し、「不安を取り除くためのサービスを伝える情報発信」、「支援を必要とする人に伝わる情報発信」を行います。

また、計画策定時だけでなく、こどもや若者、子育て世代が市のこども・若者の育成支援や子育て支援施策に関心が持てるよう、意見を表明する機会を設け、その意見に対して市として責任を持ってアクションを起こしていきます。

7 計画の進行管理

大野市子ども・子育て会議において毎年度、本計画に基づく取組の進行管理を行うとともに、次の事務においても実績の確認や評価を行います。

- (1) 第六次大野市総合計画基本計画に基づく施策評価
- (2) 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価
- (3) 大野ですくすく子育て応援パッケージの進捗及び実績確認

第2章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

こどもイキイキ 若者ワクワク 子育てキラリ 結のまち

「こどもイキイキ」は、全てのこどもが明るく健やかに育つことができるまちを目指すことを表しています。こどもたちがのびのびと成長し、イキイキと過ごせる環境をつくれます。

「若者ワクワク」は、若者が希望と夢を持って前向きに取り組むことができるまちを目指すことを表しています。社会で活躍する若者を応援し、ワクワクするような機会を提供します。

「子育てキラリ」は、子育てをしている人が喜びや生きがいを感じられるまちを目指すことを表しています。子育て世代を応援し、明るく前向きな子育てができるように支援します。また、大野市のこども・若者育成支援や子育て支援が「キラリ」と輝く様子を表しています。

2 こどもまんなか社会の実現



大野市は、県内の市町では一番最初に、県と同時となる令和5年8月3日に「こどもまんなか応援サポーター」宣言を行い、さまざまなこども・子育て支援施策に取り組んでいます。宣言後も「結婚・子育てハンドブック」の協賛事業所や市制施行70周年記念事業「こどもまんなかフェス」の協力団体、「こども連れで利用しやすい飲食店」などの「こどもまんなか応援サポーター」の市内展開を図ってきました。

今後も、「こどもまんなか応援サポーター」の市内展開を図ることで、市全体で子育てを応援する機運を高め、こどもまんなか社会の実現、本計画の策定趣旨にあるようにウェルビーイングな生活を送ることができる社会の実現につなげていきます。

3 基本方針

計画策定に当たり、ニーズ調査や意見を聞く機会を設けたところ「大野市の子育て支援は充実している」「大野市の支援はかゆいところに手が届く支援だ」などの意見をいただきました。一方で、将来の子育てなどに不安を感じている人や、市が既に提供しているサービスの情報が十分に伝わっていない人がいました。

「こどもイキイキ」な社会を実現するためには、こどもの健康と安心安全の確保や困難を有するこどもへの支援、放課後の居場所づくりなどの社会環境の整備を行います。

「若者ワクワク」な社会を実現するためには、若者の交流と活動の促進や結婚を希望する若者への後押しを行います。

「子育てキラリ」な社会を実現するため、「子育ては楽しいもの」「地域で子育てを応援している」といったメッセージを発信する「大野ですくすく子育て応援パッケージ」に取りまとめられた取組を継続します。

結婚、出産、子育てに対する考え方が多様化する今、全ての人が100%満足する支援を提供することは難しいことから、市としては、次の基本方針で、**個人の選択を尊重し、自己決定・自己実現（夢や希望を叶えること）**を後押ししていきます。

- 1 将来の見通しを立てられる相談支援
- 2 必要とする人に伝わる適時適切な情報発信
- 3 こどもや若者、子育て家庭を主体とした支援の提供

第3章 計画の体系

基本理念

こどもイキイキ 若者ワクワク 子育てキラリ 結のまち

視 点

シェアリング
エコノミー

モノや場所、スキルなどの
資源を共有

ウェル
ビーイング

個人や社会のよい状態、心
身ともに満たされた状態な
生活を送る社会の実現

こども
まんなが

ジェンダー
ギャップの
緩和

家事・子育ての負担感の偏
在を解消

基本方針

個人の選択を尊重し、自己決定・自己実現（夢や希望を叶えること）を後押しします

- 1 将来の見通しを立てられる相談支援
- 2 必要とする人に伝わる適時適切な情報発信
- 3 こどもや若者、子育て家庭を主体とした支援の提供

施策の柱

1
こどもから若者まで
共通する支援

施策の方向性

- (1) こども・若者の健康と安心安全の確保
- (2) 困難を有するこども・若者やその家族への支援
- (3) こども・若者の成長のための社会環境の整備
- (4) 若者の定住と就業支援
- (5) 若者の交流・活動の促進

2
結婚支援

施策の方向性

- (1) 結婚を希望する若者への支援
- (2) 地域全体で結婚を応援するまちづくり
- (3) 若者の出会いの創出

3
妊娠・出産支援

施策の方向性

- (1) 妊娠を希望するカップルへの支援
- (2) 妊娠期から育児期までの切れ目ない支援
- (3) 母子保健対策の充実

4
乳・幼児期の支援

施策の方向性

- (1) 乳幼児期の健康増進と相談支援の充実
- (2) 教育・保育サービスの提供
- (3) 地域における子育て支援

5
学童期の支援

施策の方向性

- (1) 児童・生徒の生きる力の育成に向けた教育環境の向上
- (2) 不登校、いじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応
- (3) 放課後の居場所づくり

6
保護者への支援

施策の方向性

- (1) 経済的・精神的負担の軽減
- (2) 子育てと仕事の両立支援
- (3) 共家事・共育児、男女共同参画の推進

7
配慮を必要とする支援

施策の方向性

- (1) 障がい児（配慮を必要とするこども）に対する支援
- (2) ひとり親に対する支援
- (3) 生活困窮者（世帯）に対する支援



令和2年度からの取組
計画を具現化するため、年度ごとに取組を取りまとめて情報発信

施策の柱 1 「こども」から「若者」までの共通する支援

施策の方向性

(1) こども・若者の健康と安心安全の確保

現 状

- 産科、小児科の医療機関や産後ケアの専門施設・医療機関が不足しており、かかりつけの病院がいつまで診療してもらえるかが心配です。
- 日曜日の休日急患センターで小児科の受診ができて安心です。
- こどもは色々な病気にかかるので、おすすめの病院が知りたい。病院選びが大変です。
- こどもが自分で身を守れるような防犯や性への学びの場をしっかりと持つべきです。
- 防犯隊 や安全で安心なまちづくり推進会議の委員による夜間防犯パトロールや量販店での街頭啓発を継続して実施することで犯罪を抑止しています。

課 題

- 現在の医療体制(休日急患診療所を含む)を維持するために、市内外の医療機関間の連携を図り、市民に対し、福井県子ども救急医療電話相談(ダイヤル#8000)や福井県こども急患センター、小児救急夜間輪番病院に関する情報発信を強化する必要があります。また、かかりつけ医による受診を推進する必要があります。
- 性や飲酒、喫煙、薬物についての正しい知識を身につけることが必要です。これは健康的な生活管理や心身の健康を守るために重要です。こどもたちは小中学校の保健の授業で、若者は福井県奥越健康福祉センターや事業所と連携し、健康に関する意識啓発を行う必要があります。
- 思春期は心と体の急激な変化により不安定な状況に陥りやすく、うつ病などの精神疾患の発症期でもあるため、悩みごとを抱えることが増える思春期の保健対策の充実が必要です。
- インターネット環境に関する防犯対策について、スマートフォンやインターネット、特にSNSの健全な利用方法を親子で学ぶことが必要です。これは、トラブルや危険に巻き込まれないためであり、学校、家庭、社会のそれぞれの場で取り組む必要があります。
- こどもや若者が災害などから自分と他者の生命を守ることができるよう、体験的な学びを含め、成長に応じた防災教育の推進が必要です。

取 組

● 小児医療の充実 【健康長寿課】

これまで大野市医師会の協力を得て、市内医療機関の小児科の診療体制を維持し、休日急患診療所の小児救急診療について医師や看護師の確保など診療体制の整備に努めてきました。

ニーズ調査でも小児科の充実を求める声が多いことから、**これから**もこどもが休日や夜間に安心して受診できるように、休日急患診療所における小児救急医療体制の確保を継続します。加えて、子ども救急医療電話相談事業(ダイヤル#8000)や福井県こども急患センター、小児救急夜間輪番病院などの情報を広く周知し、県や他自治体と連携して取り組みます。また、診療体制の確保及び夜間休日の急な病気に対応するため、かかりつけ医の普及・啓発を推進します。

取 組

● こどもから若者の保健対策の充実 【教育総務課・健康長寿課】

これまで小中学校において保健や保健体育の授業で性や性感染症、飲酒・喫煙・薬物乱用防止に関する学習を推進してきました。

これからも小中学校において性や性感染症、薬物乱用防止教育を推進し、心の健康に関する教育を充実させるとともに、未成年者の喫煙及び飲酒の防止に関する取組を継続します。加えて、若者に対しては福井県奥越健康福祉センターが行うエイズ、肝炎・性感染症相談や各事業所が行う健康管理と連携しながら、若者の健康に関する意識啓発を行います。

● 就学児童・生徒に対する相談体制の充実 【教育総務課】

これまでフレッシュハウス(適応指導教室)において、学校・家庭以外に安心して過ごせる場所と時間を提供し、悩みごとの相談に対応してきました。**これからも**フレッシュハウスでの悩みごとの相談対応を継続するとともに、小中学校にスクールカウンセラーや結の故郷教育相談員を配置し、相談体制の充実を図っていきます。

● こども・若者を守る地域力の強化 【生涯学習・文化財保護課、こども支援課】

これまで小学校の校区運営協議会や保育所・認定こども園（以下「認定こども園等」といいます。）、民生委員児童委員協議会、警察などの関係機関との連携により、こどもの安全を確保するとともに、こども食堂による地域ぐるみで見守り活動を促進してきました。あわせて、こどもの健全育成につなげるため、認定こども園等の保護者組織の活動を支援してきました。

これからも保護者組織をはじめとする地域組織活動を支援するとともに、小学校の校区運営協議会における「児童生徒の見守り」や「こども110番の家」の取組を継続します。また、こども食堂などの第三の居場所（自宅や学校以外の子どもたちが安心して過ごせる居場所）により、こどもや若者の居場所が増え、地域全体で見守る活動ができるよう、**新たに**居場所づくりに取り組む団体などを増やします。

● 情報モラル教育の推進 【教育総務課】

これまで学校や地域、家庭において、インターネットやスマートフォンの利用について情報を正しく取り扱う方法の普及啓発やトラブルに巻き込まれないよう意識啓発に取り組んできました。

これからもインターネット利用の低年齢化が進む中、児童生徒へのインターネットを利用できる能力や情報リテラシーの習得支援、保護者へのフィルタリングの利用促進などの意識啓発を推進し、こどもがインターネットを安心して利用でき、犯罪被害の未然防止につながる取組を継続します。

● 消費者教育の推進 【市民生活・統計課】

これまで放課後児童クラブや放課後こども教室、高校、若者に対して消費者教育を行い、商品の購入やサービスの提供に関して生じるトラブルの防止に努めてきました。**これからも**こども・若者が消費者として自ら判断し、責任を持って行動できるよう、教育機関や関係団体との連携・協働による消費者教育を推進します。特に、スマートフォンやタブレット端末での未成年者の無断課金に関する相談が増加傾向にあることから、こどもやその保護者に対する意識啓発を行います。

● 交通安全の推進 【市民生活・統計課】

これまで小中学校や認定こども園等と連携し、こどもの交通安全教育の充実を図ってきました。あわせて、チャイルドシートや自転車用ヘルメット購入に対する助成を行ってきました。また、登下校中の交通事故を防止するため、大野市交通指導員や大野市交通対策協議会による街頭指導や啓発活動を実施してきました。

これからも小中学校や認定こども園等、関係団体などと連携して交通安全意識の啓発活動に取り組むとともに、チャイルドシートや自転車用ヘルメットの購入助成を継続することで、交通安全意識の向上と交通事故の防止に努めます。

取 組

● 通学路と公園の安全確保 【建設整備課】

これまで大野市通学路等交通安全プログラムに基づき、関係機関が合同で小中学校の通学路や認定こども園等の園外活動の現場点検を実施し、点検結果の共有や危険箇所の改善に努めてきました。また、公園の遊具については老朽化した施設の更新を行い、安全性の確保に努めてきました。**これからも**大野市通学路等交通安全プログラムに基づき、通学路等の安全を確保するとともに、公園の遊具については毎年点検を実施し、地域住民の協力による維持管理と美化活動に取り組み、利用者の安全を確保します。

● 安全で安心なまちづくりの推進 【防災防犯課】

これまで犯罪や事故を未然に抑止するため、防犯隊や安全で安心なまちづくり推進会議による夜間の防犯パトロールや啓発活動を実施してきました。

これからも小学校区内の夜間パトロールや街頭啓発を継続していきます。また、災害が頻発化、激甚化する中、親子で防災について考えるイベントや地区の避難訓練を通じた啓発活動を推進するとともに、犯罪、事故、災害等から自らと他者の安全を守ることができるよう、こどもの発達の程度に応じた体系的な安全教育を実施していきます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 休日急患（小児科）
- チャイルドシート購入費の半額助成
- 自転車用ヘルメット助成
- 体験型防災教室【新】
- 「児童生徒の見守り」や「こども110番の家」の実施
- こども食堂の実施

現 状

- ニーズ調査において、子育て支援策に期待すること、重要なことの回答として「児童虐待やいじめなどの対策の充実」との声が多くなっています。
- 子どもや若者、その家族の困難さを感じる背景には「離婚」「貧困」「疾病」「障がい」などの様々な要因があります。
- 障がいのある人と子どもに行ったアンケートでは、半数以上が差別を経験しており、差別を経験した場所として「学校、会社」をあげています。

課 題

- 誰もが自殺に追い込まれることのないよう、SOSの出し方や心の危機に陥った友人等からのSOSの受け止め方を知ることが必要です。また、小中学生1人1台に配布されているタブレット端末を活用し、自殺に関するSOSなどをいち早くキャッチする取組が必要です。
- 児童虐待に関し、子どもや保護者、家庭全体の困り感や不安に寄り添った、包括的な対応が必要です。
- 困難を有する子どもや若者、その家族への支援を継続するため、児童福祉と教育・保育が教育委員会内に組織されている本市の特徴を活かしながら連携の維持が必要です。
- 障がいや障がいのある人を理解するための取組が必要です。

取 組

● 小中学生の自殺対策 【教育総務課】

これまで週に一度、臨床心理士による教育相談を行うとともに、いじめに関しては未然防止、早期発見、早期対応のため、スクールソーシャルワーカーや結の故郷教育相談員を配置し相談体制の整備に取り組んできました。

これからも引き続き教育相談などの相談体制を確保するとともに、SOSの出し方や受け止め方に関する教育を含む自殺予防教育、1人1台のタブレット端末を活用した自殺リスクの早期発見、全国的に自殺増加傾向のある長期休業前後の集中的啓発活動など、体制を強化します。

● 若者の自殺対策 【福祉課】

これまで成人に対しては月に一度、専門のカウンセラーによるストレス相談を行い、さまざまな悩みに対して相談支援を行ってきました。

これからもストレス相談を継続し、相談体制を確保しつつ、若者に対して相談窓口の存在を十分に周知します。

● 児童虐待の防止と養育支援 【子ども支援課】 **重点取組**

これまで関係機関が連携を図り、虐待防止の啓発に努めるとともに、要保護児童や要支援児童などの早期発見、適切な支援や保護を図るため要保護児童対策地域協議会を基盤として子どもやその保護者に対する具体的な支援について検討してきました。

これからも継続した意識啓発、こども家庭センターにおける児童福祉、母子保健、教育分野の連携強化、要保護児童対策地域協議会を基盤とした児童虐待防止の強化やヤングケアラーの対応に取り組むとともに、児童虐待の未然防止につながる予防的支援体制を強化します。

新たな取組として、支援が複雑化、困難化するケースについては、こども家庭センターで作成するサポートプランに基づき、家庭ごとに切れ目なく、漏れなく、効果的な支援を講じます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 要保護児童対策地域協議会による虐待対応
- こども家庭センターによる総合相談窓口の設置
- 障がい理解のための啓発
- くれよん教室での療育の利用者負担を支援

施策の方向性

(3) こども・若者の成長のための社会環境の整備

現 状

- 地域ぐるみで子育てをする行事が増えると、子育て環境が改善する可能性があります。
- 子ども・子育てに関するニーズ調査において、小学校低学年の放課後の希望では、自宅や祖父母宅を希望するが41%、児童センター、放課後児童クラブ、放課後子ども教室を希望するが同じ割合の42%となっています。
- 高学年における放課後の過ごし方の希望については、自宅や祖父母宅を希望するが48%、児童センター、放課後児童クラブ、放課後子ども教室を希望するの合計が26%となっています。
- 放課後等デイサービスの施設が少なく、放課後や夏休みなどの長期休みに困難を抱える子どもたちが利用できる施設が必要です。
- 公共の場所で中高生が放課後に勉強できるスペースがあることはありがたい。
- 若者の多様なニーズや関心に合わせた居場所が不足しています。

課 題

- 子育て中の親子を孤立させないためにも、地域における「こどもの見守り」が必要です。
- 「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の実施に当たっては、安全性の向上と人材確保、サービスの質の向上が必要です。
- 屋内型こどもの遊び場の円滑な施設運営と何度も利用してもらえる仕掛けが必要です。
- 中高生の居場所については、自主的な活動やコミュニケーションを図る場やスポーツや音楽を楽しむ環境も必要です。
- 中学校の休日部活動の地域移行に伴い、部活動をしないことを選択する生徒がコミュニティとの関わりをなくさない対応も必要です。
- 若者が気軽に集い、交流が図られる環境づくりが必要です。
- 障がいのあるこどもの居場所(預かり型の放課後等デイサービス)の受け皿を確保(人材確保を含む)し、日中一時支援事業により日常的に介護している家族の一時的な負担を軽減することが必要です。
- こども食堂の取組を市内全域に拡大するなど、こどもや若者の居場所づくりが必要です。

取 組

● 地域で支えるこどもと子育て社会 【地域文化課】

これまで各地区の公民館を地域の拠点として地域の活性化や世代間交流など、区長会と連携し世代を超えた交流の促進や公民館事業を通じた学習や体験活動の中でこどもたちを見守ってきました。

これからは「こどもの見守り」「地域で子育て」を地域課題のひとつとして捉え、若者や女性など多様な人材が参画した地域づくりに取り組むことで、活力のある地域を次世代につなげていきます。

取 組

● 安全・安心な放課後の居場所づくり 【こども支援課、生涯学習・文化財保護課、教育総務課、地域文化課】

重点取組

これまで市街地の小学校の児童のうち保育を必要とする児童については児童センターにおける放課後児童クラブで放課後の居場所を確保し、市街地郊外の小学校の児童については保育の必要性にかかわらず公民館などにおける放課後子ども教室で放課後の居場所を確保してきました。また、夏季休業中においてはエキサイト広場や図書館において学習やスポーツ、読書などのカリキュラムにより居場所づくりにも取り組んできました。

これからは現在の放課後児童クラブと放課後子ども教室による放課後の居場所づくりを継続しつつ、児童の安全性の向上と環境の充実を図るとともに、学校施設を活用した放課後の居場所づくりを進めます。また、図書館や公民館を活用した長期休業中の居場所づくりやこども食堂を活用した高校生までの居場所づくりを継続していきます。

新たに放課後児童クラブと放課後子ども教室に携わる人材のスキルアップを図り、放課後支援に係る質の向上につなげるため、指導員や安全管理員の交流を図ります。

こどもの居場所となる屋内型こどもの遊び場は、天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる施設であり、こどもの健やかな成長や父親の育児参加を促す役割を果たすため、指定管理者と連携を図り、安全性の確保と利用促進を図ります。

こども食堂は地域における見守りの拠点になることから、未実施地区への拡大を目指します。

● 若者の交流促進 【生涯学習・文化財保護課】

重点取組

これまで地域づくりやイベントの実施に関する若者の自主的な活動を支援することで、自然な出会いの場を提供してきました。

これからも青年団体に対する活動支援を継続するとともに活動情報を発信し、青年活動の活性化を通して若者の自然な出会い、交流の拡大を図ります。

新たにサークルやクラブなどのコミュニティの情報と活動場所になりうるコワーキングスペースなどの情報を発信することで、コミュニティ活動の広がりにつなげるとともに、青少年の健全育成につながる活動やボランティア活動、社会貢献活動を通じて、若者の活動を促進し、郷土愛を育んでいきます。

● 障がい児（者）の居場所づくり 【福祉課】

これまで障がいのあるこどもに対し、放課後等デイサービス事業や日中一時支援事業により個々の障がいの特性に応じた療育で発達を促しながら、こどもの放課後の居場所を確保してきました。また、送迎サービスを確保することで、家族の負担軽減に取り組んできました。

これからは必要なサービスを適切な時期に円滑に提供できるよう、サービス等利用計画作成の弾力的な運用とサービス提供事業者の確保に努めるとともに、認定こども園等や学校とサービス提供事業者との連携など、教育と福祉が連携した切れ目のない支援を行います。また、障がい理解を進めるため、啓発活動などの取組を進めます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 放課後児童クラブの実施
- 放課後子ども教室の実施（長期休業中：学びと遊びと体験の広場）
- 長期休業中の小学生の活動支援（こどもチャレンジ教室、図書館宿題支援、B G 塾）
- 長期休業中の居場所づくり（公民館無料開放）
- 集落の集会所などを利用した世代間交流事業
- 障がいのあるこどもの移動を支援（日中一時支援事業所などへの移動）
- おおの天空パークO S O R A の運営【新】
- こども食堂の実施
- 若者が好む地域コミュニティ情報と活動場所を情報発信【新】

現 状

- 大野市内の賃貸住宅はファミリー向けが多く、単身用の賃貸住宅が少なくなっています。
- 地元で就職を希望するが職種が限られているため、自分の希望する職種には就けずに、市外での就職を選んでいきます。
- 地元企業の情報が発信されているようですが、十分に情報が得られていません。企業の雰囲気、どのような人が働いているかといった情報を必要とする声もあります。
- 実際に企業説明会のような機会に、人事担当者と話し、その人に惹かれて就職しました。情報だけでは伝わらない部分もあります。情報だけだと良い面があっても、逆に悪い情報ばかりが広く伝わってしまう傾向にあります。

課 題

- UIターンについては、移住候補地として全国的に大野市の知名度を上げることが必要です。
- 地元での就労率を向上させるためには、学生と企業のマッチングを向上させることが必要であり、そのために市内企業の魅力を伝える情報発信や、若者にとって魅力ある企業の誘致を行うことが必要です。
- 大野市内にある世界や全国規模で事業展開する企業情報を若者にしっかりと伝えることが必要です。
- フリーランスとしての就労形態が若者や子育て世帯の働き方の選択肢となっていることから、起業や創業に対する支援や家庭で取り組める仕事の紹介などが必要です。
- 生活様式の変化や移住により増加する単身世帯への住宅支援の可否についての検討が必要です。

取 組

● 移住・定住の促進 【地域文化課】

これまでUIターン者を対象にした移住活動に対する支援や県外からの移住者に対する移住支援金(こどもの数に応じた市独自加算を含む)を支給することで、移住・定住を促進してきました。

これからも移住・定住を促進するために移住支援金と市独自の加算金の支給を継続します。

新たに本市の充実したこども・子育て支援の取組、自然など大野ならではの良さをアピールし、子育て移住を推進します。

● 若者や子育て世代の定住につながる就労環境の整備 【産業政策課】

これまで市内での就業を促進するために働きやすく魅力ある職場環境づくりを推進するとともに、子育てと仕事が両立できる職場環境づくりに取り組んできました。

これからも働きやすく、子育てしやすい職場環境づくりを推進するため、在宅勤務態勢の導入、勤務時間の選択化、時間単位での有給休暇取得制度といった、働く人・子育て世代にやさしい企業の取組を紹介するなどの情報発信を継続します。また、IT関連など若者にとって魅力ある企業の誘致に努めます。さらに、若者や子育て世代に対し、世界や全国規模で事業展開する企業情報などのアピールポイントや、そこで働く人など、若者にとってワクワクする、ポジティブに捉えられる情報を積極的に発信し、若者の雇用の拡大に努めます。

取 組

● 若者や子育て世代のニーズにあった住環境の支援【交通住宅まちづくり課】

拡充

これまで子育て世帯や新婚世帯の定住を促進するとともに、住宅の取得に係る経済的負担を軽減するため、中古住宅の購入やリフォームに係る費用、持ち家で新たに多世代同居するための住宅のリフォーム費用の助成を行ってきました。

これからも優良な空き家の効果的な利活用を促し、住宅取得に係る経済的負担の軽減を継続することで、子育て世帯への支援を充実させていきます。

新たに中古住宅の購入については、子育て世帯の支援を拡充します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 移住、県内企業への就職した者に支援金を支給(こどもの数に応じた市独自加算あり)
- 働く人にやさしい企業を認定
- 子育て世代にやさしい企業を認定
- 起業・創業を支援
- 子育て世帯の住宅取得支援(中古住宅の購入費用やリフォーム費用を助成)
※中古住宅の購入に限り子育て世帯への支援を拡充【新】
- 多世代同居に必要な既存住宅のリフォーム費用を助成

施策の方向性

(5) 若者の交流・活動の促進

現 状

- 若者の交流や活動を促進するためには、同じ趣味、目的など集まりやすいコミュニティが有効です。
- 仕事から帰宅し、友達と語り合おうとしたときに開いている店舗が限られており、気軽に集える場所がない。
- 若者同士のコミュニティがあるが、リーダー的存在がなく単発で終わっています。仲間内からの広がりが少ない。いつも同じメンバーのように感じます。
- イベントスペースや気軽に集まれる場所に関する情報があるとよい。

課 題

- 若者と女性の参画につながる住民自治のあり方の検討が必要です。
- 青年団体に対する活動補助を行っているが、若者の交流拡大につながっていません。
- サークルやクラブなどの若者が集まる情報と若者が集まる場所の情報の提供が必要です。

取 組

● 地域コミュニティへの若者の参加 【地域文化課】

重点取組

これまで地域の自主性による地域の活性化や課題解決に向けた取組の中で若者の参画を得て取り組む地区が出てきました。

これからは地域の活性化や地域課題解決に向けた取組に若者や女性が参画する地区を増やすために、住民自治の進め方を検討していきます。

取 組

● 若者の交流促進 【生涯学習・文化財保護課】

再掲

これまで地域づくりやイベントの実施に関する若者の自主的な活動を支援することで、自然な出会いの場を提供してきました。

これからも青年団体に対する活動支援を継続するとともに活動情報を発信し、青年活動の活性化を通して若者の自然な出会い、交流の拡大を図ります。

新たにサークルやクラブなどのコミュニティの情報と活動場所になりうるコワーキングスペースなどの情報を発信することで、コミュニティ活動の広がりにつなげるとともに、青少年の健全育成につながる活動やボランティア活動、社会貢献活動を通じて、若者の活動を促進し、郷土愛を育んでいきます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

● 若者が好む地域コミュニティ情報と活動場所を情報発信 【新】 【再掲】

施策の柱 2 結婚支援

施策の方向性

(1) 結婚を希望する若者への支援

現 状

- 若者の出会いがない訳ではないが、結婚に対して一步を踏み出せない者もいます。
- タイムパフォーマンスを考えると、AIによるマッチングアプリの活用も有効であり、自然な出会いと言われるようになっていきます。
- 地域の縁結びさんの支援も有効です。

課 題

- 結婚に関する考え方が多様化している中、若者の結婚の希望が叶えられるよう、経済的支援や就労環境の整備、住宅支援などの結婚を後押しする取組が必要です。
- 結婚に対するお節介を希望する若者もいることから、ハラスメントに配慮したお節介ができる仕組みが必要です。
- 大野で結婚する「良さ」や「イメージ」、手厚い子育て支援をPRし、結婚や結婚後の将来を見通せる効果的な情報発信も必要です。

取 組

● 結婚を後押しする経済的負担の軽減 【こども支援課】

これまで結婚に伴う新生活を経済的に支援するため、39歳までに結婚する夫婦に対して賃貸住宅や引越し費用の負担軽減を行ってきました。また、早婚を支援するため、29歳までに結婚する夫婦に対して祝金を支給してきました。

これからも結婚に伴う新生活を経済的にサポートするとともに、29歳までに結婚する夫婦には引き続き祝金を支給することで、早婚を促進していきます。併せて、経済的支援などの取組を掲載する「結婚・子育てハンドブック」や「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を活用して、結婚支援や充実した子育て支援をPRすることで、結婚を後押しします。

● 結婚を後押しする就労環境の整備 【産業政策課】

これまで市内での就業を促進するために、働きやすく魅力ある職場環境づくりを推進するとともに、子育てと仕事が両立できる職場環境づくりに取り組んできました。

これからは働きやすく、子育てしやすい職場環境づくりを推進するため、「働く人にやさしい企業」「子育て世代にやさしい企業」の認定企業の取組が充実するよう、各種補助支援を行います。

● 結婚を後押しする住宅支援 【交通住宅まちづくり課】

これまで新婚世帯の定住を促進するとともに住宅の取得に係る経済的負担を軽減するため、中古住宅の購入やリフォームに係る費用の補助や持ち家で新たに多世代同居するための住宅のリフォーム費用の助成を行ってきました。

これからも住宅取得に係る経済的負担の軽減を継続し、補助制度が結婚を希望する者の後押しとなるよう情報発信を強化していきます。

取 組

- 職場のつながりを活かした結婚の後押し 【こども支援課】 **重点取組**

これまで県（ふくい婚活サポートセンター）が運営するA Iマッチングシステムの利用登録を推進するとともに、恋愛や結婚につながる出会いづくりを目指して、年間50回程度の結婚相談を実施してきました。

これからもA Iマッチングシステムを含む出会いづくりの取組を継続します。

新たに企業などと協力し、職場などのコミュニティを活用した「職場の縁結びさん」による結婚支援を行い、より多くの結婚に繋がる機会を提供します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 結婚新生活を応援（住宅賃貸費用又は引越費用助成）
- 若者夫婦に祝金（29歳以下30万円、25歳以下には10万円加算）
- 働く人にやさしい企業を認定
- 子育て世代にやさしい企業を認定
- 新婚世帯の住宅取得支援（中古住宅の購入費用やリフォーム費用を助成）
- 結婚相談（大野市婦人福祉協議会）
- A Iマッチングシステムによる婚活（県（ふくい婚活サポートセンター））
- 職場の縁結びさんによる結婚支援【新】

施策の方向性

(2) 地域全体で結婚を応援するまちづくり

現 状

- 結婚を機に転出する女性が多くなっています。
- 家事や育児に関する負担が女性に偏っています。

課 題

- 結婚に対するお節介を希望する若者もいることから、ハラスメントに配慮したお節介ができる仕組みが必要です。
- 結婚支援に関する情報と子育て支援に関する情報をセットにし、市全体で結婚から子育てまでを応援することを若者にしっかりと伝えることが必要です。
- 市全体で男女共同参画の推進やジェンダーギャップの緩和を推進し、家事や育児などにおける男女の役割分担を促進することで、地域全体で結婚をサポートする機運を高めることが必要です。

取 組

- 職場のつながりを活かした結婚の後押し 【こども支援課】 **再掲**

これまで県（ふくい婚活サポートセンター）が運営するA Iマッチングシステムの利用登録を推進するとともに、恋愛や結婚につながる出会いづくりを目指して、年間50回程度の結婚相談を実施してきました。

これからもA Iマッチングシステムを含む出会いづくりの取組を継続します。

新たに企業などと協力し、職場などのコミュニティを活用した「職場の縁結びさん」による結婚支援を行い、より多くの結婚に繋がる機会を提供します。

取 組

重点取組

● 多様な選択を可能とする男女共同参画の推進 【総務課】

これまで男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画推進プランに基づいた取組を進めてきました。

これからも男女共同参画プランを積極的に推進し、女性に偏る家事や子育ての負担感を軽減し、ジェンダーギャップを緩和する取組を進めます。

新たに企業や団体と連携して男女共同参画やジェンダーギャップの緩和に向けた機運の醸成に取り組むとともに、将来、結婚し、子育ての当事者となる若者による若者を対象とした取組を始めます。

● 事業所が結婚を応援 【こども支援課・産業政策課】

これまでは働きやすく魅力的な職場環境づくりを推進してきました。

これからも引き続き、働きやすく魅力的な職場環境づくりに取り組むとともに、職場のつながりを活かした縁結びを促進し、社会全体で出会いと結婚を応援する機運を高めます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 働く人にやさしい企業を認定
- 子育て世代にやさしい企業を認定
- 職場の縁結びさんによる結婚支援【新】（再掲）
- 男女共同参画の推進（共家事・共育児）

施策の方向性

(3) 若者の出会いの創出

現 状

- 若者の出会いがない訳ではないが、結婚に対して一步を踏み出せない者もいます。(再掲)
- タイムパフォーマンスを考えると、AIによるマッチングアプリの活用も有効であり、自然な出会いと言われるようになっていきます。(再掲)
- 地域の縁結びさんの支援も有効です。(再掲)

課 題

- 若者の出会いやコミュニティへの参加を促すための情報発信が必要です。
- 効率的で、現代の自然な出会いの一つである、AIマッチングシステムの活用促進は必要です。

取 組

● 結婚を希望する若者の出会いの創出 【こども支援課】

重点取組

これまで若者の意識を考慮し、行政による婚活イベントを実施することなく、公民館講座やスポーツ教室など、若者が参加しやすい事業を実施することで自然な出会いの場を提供してきました。

これからは現代の若者がタイムパフォーマンスを重視する考え方や、マッチングアプリによる出会いが一般的になってきたことを踏まえ、ふくい婚活サポートセンターが運営するマッチングシステムを活用した出会いの創出を促進するとともに、地域のイベントやボランティア活動などの共同の目標や活動に取り組む仲間との出会いの創出に取り組みます。

新たに職場や地域のつながりを活かした結婚支援ができるよう、市内事業所や団体と連携した出会いの創出に取り組みます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 職場の縁結びさんによる結婚支援【新】(再掲)

施策の柱 3 妊娠・出産支援

施策の方向性

(1) 妊娠を希望するカップルへの支援

現 状

- 妊娠を希望するが、晩婚化等により不妊の悩みをもつカップルが増えています。

課 題

- 妊娠と出産に関する正確な情報を提供し、カップルが自己選択と自己決定に基づいて妊娠につながる支援を行います。
- 不妊治療は精神的、経済的負担が大きい傾向にあります。不妊についてはデリケートな問題ですが、必要な情報を必要なタイミングで提供するために、積極的な情報発信を行います。

取 組

● 妊娠に向けた支援 【こども支援課】

これまで妊娠を希望するカップルの精神的・経済的な負担を軽減するために、不妊治療費の助成や相談対応を行ってきました。

これからも相談対応や県が行っている特定不妊治療費助成事業や不妊検査・一般不妊治療費助成事業などの助成事業を優先的に活用し、保険診療に該当しない治療費について市独自の助成を継続します。

新たに不妊に関する正しい知識や情報を提供し、社会全体で理解を深めサポートを行えるよう啓発活動に取り組みます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

● 不妊治療費助成

施策の方向性

(2) 妊娠期から育児期までの切れ目ない支援

現 状

○気がかりな母子（予期せぬ妊娠、精神的に不安定な妊婦、家庭の養育能力が高くない妊婦など）が一定数おり、こども家庭センターによる伴走型支援を行っています。

課 題

- 産前・産後の正しい情報を丁寧に伝え、安心して出産育児を見通せる支援が必要です。
- こども家庭センターにおける相談支援体制を維持し、早い段階で不安や困難に寄り添うことが必要です。
- こども家庭センターにおいて、母子保健と児童福祉が連携し、産前産後から子育て期を通じた切れ目のない継続的な支援の提供が必要です。

取 組

● 伴走型の相談支援と経済的支援 【こども支援課】 **重点取組**

これまで母子健康手帳の交付時面談、妊婦アンケート・訪問、乳児家庭全戸訪問による相談支援と、出産・子育て応援給付金による経済的支援を行ってきました。

これからも母子保健と児童福祉が連携した相談支援をこども家庭センターで行います。妊娠期から育児期にわたる切れ目のない支援を提供し、妊婦支援給付金による経済的支援も継続します。

産前・産後に関わる関係機関との連携を密にし、気がかり母子の早期把握・支援を行います。また、子育てライフサポートの受託事業所とも連携し、親子の健やかな育ちを応援します。

大野ですくすく子育て応援パッケージ

- 妊婦支援給付金
- 妊婦救急車利用登録制度
- 乳児家庭全戸訪問
- 子育てライフサポート事業

施策の方向性

(3) 母子保健対策の充実

現 状

- 妊娠届出時のアンケートにより、現在の様子、健康状態、協力してもらえる人の有無、不安や悩みなどの状況把握を行うことで支援に関するニーズを把握しています。
- 母乳育児に関する悩みが多いことに対応して、母乳外来の費用助成を行っています。

課 題

- 母子の孤立化や産後うつ予防のため、産婦のニーズに応じた産後ケアの充実が求められています。
- 支援を必要としないケースであっても、母子の孤立化や産後うつを防ぐためには、乳児健康診査や乳児家庭全戸訪問、育児相談会などの様々な機会を通じて、継続的な相談支援を行うことが必要です。
- 母乳外来（通所型・訪問型）の費用助成を行っていますが、今後は宿泊型を含む産後ケア事業の整備が必要です。

取 組

● 妊産婦の健康と産後ケアの充実 【こども支援課】

重点取組

新規

これまで妊婦健康診査、乳児健康診査、乳児家庭全戸訪問、育児相談会などの様々な機会を通じて、継続的な相談支援を行ってきました。また、本市独自の産後ケアとして母乳外来の助成も行ってきました。

これからはこれまでの取組に加えて、**新たに**県全体の体制の下で訪問型、通所型、宿泊型の産後ケア事業にも取り組みます。これにより、産後うつの予防を強化し、これからの育児に関する見通しを立てられるようにします。

また、市外の産前・産後ケア専門施設への移動に掛かる経済的負担を軽減するため、産後ケア事業利用時の利用者負担を軽減する取組を行います。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 妊産婦健診
- 母乳外来費用助成
- 産後ケア（訪問型、通所型、宿泊型）の実施と利用者負担の軽減【新】

施策の柱 4 乳・幼児期の支援

施策の方向性

(1) 乳幼児期の健康増進と相談支援の充実

現 状

○乳幼児健診による疾病の早期発見と早期治療の推進、乳児家庭全戸訪問や育児相談会などによる発育や発達、子育てに関する相談支援を行っています。

課 題

- 母子保健は伴走型の相談支援と包括的な支援が必要です。
- 家族支援を必要とする家庭を見逃さないように専門職の確保と質の向上が求められます。
- 感染症の発生やまん延を防止するためには、予防接種に関する周知や接種勧奨が必要です。
- こどもの健全な発達を促すために、食育の推進は必要です。

取 組

● 乳幼児健康診査と相談支援体制の充実 【こども支援課】

これまで1歳6か月児健診、2歳児健診（希望者のみ）、3歳児健診を実施してきました。これによって、発育や発達の確認、疾病の早期発見、早期支援につなげてきました。また、認定こども園等への保育カウンセラー派遣による発達支援の助言を実施しました。乳児家庭全戸訪問や育児相談会を通じて、不安や悩みを持つ保護者に相談支援を行いました。さらに、地域子育て支援センターや子育て交流ひろばちっく・たっくでは、保護者同士の交流の場を提供しました。

これからも健康診査や育児相談、乳児家庭全戸訪問など、直接アドバイスができる大切な機会を活用し、伴走型の相談支援を行います。地域子育て支援センターや子育て交流ひろばちっく・たっくでは、保護者同士の交流や気軽な相談が可能な体制を維持します。また、支援が必要な児童に対しては、認定こども園等への巡回発達相談を活用し、早期に必要な発達支援を実施できるように、事業の継続と関係機関との包括的な連携に取り組みます。加えて、こどもの身体的・社会的発達状況を確認し、就学に向けて適切な支援につなぐため、5歳児健診実施に取り組みます。

● 予防接種の接種勧奨及び食育の実践 【健康長寿課】

これまで乳幼児を感染症などの疾患から守るために、予防接種の必要性などの周知を行い、接種率の向上に取り組みました。また、こどもの食育への関心を高めるため、親子を対象として食生活改善推進員による料理教室も実施しました。

これからも予防接種未接種者への接種勧奨やインフルエンザの予防接種の助成を継続するとともに、食育を推進するために食生活改善推進員による親子料理教室を実施します。

● 食育に関する意識啓発の向上 【農業林業振興課】

これまで「越前おおの食守フェスタ」の実施によって意識啓発を図り、大野産米を使用した米飯給食や、地域産の農林水産物を材料とした給食を推進しました。

これからも「越前おおの食守フェスタ」と地場産農林水産物を取り入れた給食の実施を継続し、食育や地産地消に関する意識啓発を促進します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 乳幼児健康診査
- 新生児聴覚検査
- 地域子育て支援センターの開設
- 子育て交流ひろばちっく・たっくの開設
- 認定こども園等園巡回発達相談
- 予防接種助成
- 歯の健康（フッ素塗布）
- 乳児家庭全戸訪問

施策の方向性

(2) 教育・保育サービスの提供

現 状

- 育児休業中でも通常の保育時間での対応を望む声があります。
- 保育士、保育教諭、子育て支援員（以下「保育士等」といいます。）が余裕をもってこどもに対応できるよう、人員確保と処遇改善を望む声があります。
- 市外からの転入者から、保育の質や教員のこどもへの関わり方が市外より手厚いと感じる声があります。

課 題

- 教育・保育サービスの認定では、実際の就労時間に基づき保育時間を認定する原則を堅持することで、適正な教育・保育の給付を維持することが求められます。
- 保育人材の処遇改善や働く環境の改善については、国、県、市が共通の問題意識を持って取り組んでいるが、市も独自の人材確保を展開することで他市町との差別化が必要になります。
- 適切で質の高い教育・保育を提供するために、関係機関と連携協力し、保育士等の養成や確保、保育補助者による保育士支援を図る必要があります。
- 保育人材が不足する中、現在働いている保育士等の離職防止のための雇用環境の整備や保育士等の安定的・継続的確保、園の効率的な運営を図るためICT化を進める必要があります。
- 定員の適正化などは法人の経営問題に関わることであり、法人（経営者）と実情に即した協議が必要になります。
- 保幼小、小中、中高の各段階での連携をさらに充実させる必要があります。

取 組

● 充実した教育・保育サービスの提供 【こども支援課】

重点取組

これまで教育・保育の充実と量の確保を目指し、認定こども園等において適切な定員設定や保育士等の研修、保育人材の確保に取り組んできました。同時に、子育て家庭の負担軽減のために一時預かりや延長保育などの子育て支援サービスを提供してきました。さらに、市独自の取組として、第2子の保育料を完全無料化し、第3子の副食費を完全無料化するなど、経済的負担を軽減する支援策を実施してきました。

また、保護者と保育士等の負担軽減と保育サービスの向上を目指し、公立・民間の全園でおむつ持ち帰りゼロを実現し、公立園で保育業務支援システムを導入しました。

これからも安全で安心な教育・保育環境を維持し、教育・保育の充実と量の確保、業務の効率化に取り組むと同時に、保育人材の確保に向けて関係機関との協力を進めます。

新たに健康と成長・発達をサポートするため、認定こども園等で3歳以上の主食（ごはん）の提供に取り組みます。

さらに、児童数の減少に対応するため、認定こども園等の定員設定などの在り方について、法人（経営者）と実情に即した協議を行います。

取 組

● 幼小接続の推進 【教育総務課】

これまで認定こども園等の公開保育や学校の授業参観、幼小連絡協議会の開催などを通じて、幼児教育の段階と小学校段階の接続・連携に取り組んできました。

これからも幼児教育の段階と小学校段階の接続・連携に関する取組を推進することで、こどもの学びをつなぐ基礎となる幼児期の教育を充実させるとともに、幼児教育と小学校教育のスムーズな移行を図ります。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 認定こども園等における教育・保育の提供
- 市内全ての認定こども園等における「おむつ持ち帰りゼロ」の実現
- 第2子の保育料を完全無料化
- 第3子の副食費を完全無料化
- 一時預かり、延長保育の実施
- 保育所等における3歳以上児への主食（ごはん）提供の推進【新】

施策の方向性

(3) 地域における子育て支援

現 状

- 地域子育て支援センターを利用することで、他の保護者や保育士との情報交換ができています。
- こどもの居場所づくりに関する活動に主任児童委員の協力が得られており、こどもなどにも好評を得ています。

課 題

- 地域における子育て支援情報の発信強化が必要です。
- レスパイトサービス（子育ての疲れやストレスを軽減するためのサービス）を提供しながら子育てを楽しめる環境の整備が必要です。
- ボランティアやピアサポートなど様々な人材の発掘が必要です。

取 組

● 地域による子育て支援 【こども支援課】

これまで認定こども園等における園開放や地域子育て支援センター、子育て交流ひろばちっく・たっくにおける相談支援や交流促進を図るとともに、大野市シルバー人材センターが行う家事援助や訪問型一時預かり、子育て交流ひろば「ちっく・たっく」が行う預かり型一時預かり、市内事業所が行うリフレッシュサービス・レスパイトサービスを提供してきました。

これからも子育てに関する相談支援や子育てライフをサポートする取組を継続するとともに、地域や社会全体で子育て支援に取り組んでいることを見える化した「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を活用して、子育てにやさしいまち大野の情報発信を強化し、地域が子育てを応援する機運の醸成に努めます。

新たに未就園の低年齢児の健やかな成長につなげるこども誰でも通園制度については、本市の実情と受け皿の確保について十分な検討を行い実施します。

取 組

- こどもまんなか応援サポーターの市内展開 【こども支援課】

重点取組

これまで「こどもまんなか応援サポーター」宣言を行い、「結婚・子育てハンドブック」協賛事業所や市制施行70周年記念事業への協力団体、「こども連れで利用しやすい飲食店」登録店舗を「こどもまんなか応援サポーター」と位置づけ、地域全体で子育て支援に取り組んできました。これからもさらに「こどもまんなか応援サポーター」の活動を拡大するため、おおの天空パークOSORAの活用やOSORAと連携した、地域における子育て支援に努めます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- こどもまんなか応援サポーターの紹介【新】
- 子育てライフサポート事業【拡充】

施策の柱 5 学童期の支援

施策の方向性

(1) 児童・生徒の生きる力の育成に向けた教育環境の向上

現 状

- 探求的な学習を推進し、ふるさと大野の未来を創造する力と自己の生き方について考える力を育成する必要があります。
- ICT 機器の整備と活用力向上のため、教員研修の充実に取り組む必要があります。
- 児童生徒の教育環境の向上を図るため、一定規模の学習集団が必要であることについて、保護者をはじめとした市民に対する学校教育への理解を深める必要があります。

課 題

- 学力向上研修会の実施や外国語授業でのALT（外国語指導助手）配置など、授業の質の向上や、小中学校のDX化の推進による教育環境の向上が求められます。
- 総合的な学習の時間などにふるさとについての探究的な学習を推進することにより、地域への理解や関心を深める必要があります。
- 中学校での休日の部活動に代わる環境を整えることにより、生徒が適した環境でスポーツや文化活動を行えるようにするための対策が必要です。
- こどものスポーツ活動の充実に取り組むことにより、スポーツの楽しさを知ることが求められます。
- 文化活動の底辺の拡大と担い手の掘り起こしが必要です。
- こどもたちのふるさとを思う心や人を思いやる心を育てる必要があります。

取 組

● 豊かな学びと育ちの推進 【教育総務課】

重点取組

これまで学力向上研修会を実施したり、外国語の授業でALT（外国語指導助手）を配置するなど、教職員の授業改善に取り組んできました。また、小中学校のDX化を進めることで、授業の質の向上を図りました。さらに、総合的な学習の時間には、ふるさとに関する探究的な学習を推進してきました。

これからも将来の時代を生き抜くための能力を持った市民を育成するため、教育と教育環境の向上に取り組むとともに、教育理念の具現化や18年間をつなぐ教育の実現を目指し、大野らしさが生きる教育に努めます。また、児童生徒や教職員が安全・安心な学校生活が送れるよう学校施設を適切に維持管理し、必要な改修及び補修を実施します。

新たに中学校の休日部活動の地域移行に伴い、生徒がそれぞれの適した環境でスポーツや文化活動を行えるよう、地域クラブなどと連携し、取り組んでいきます。

● スポーツの推進 【スポーツ推進課】

これまで「大野市スポーツ推進計画」に基づき、こどもたちのスポーツ活動の充実に取り組むとともに、全国大会などの出場経費の助成を行ってきました。

これからも引き続き、「大野市スポーツ推進計画」に基づいて、スポーツによる青少年の健全育成やさまざまなスポーツを楽しみ、活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したスポーツ環境づくりに取り組んでいきます。

新たに中学校の休日部活動の地域移行に伴い、生徒がそれぞれ適した環境でスポーツ活動を継続できるようにするとともに、地域クラブが生徒の活動の受け皿となるために、優秀な指導者の確保と育成を図っていきます。

● 文化活動の推進 【地域文化課】

これまで文化活動の全国大会などの出場経費の助成を行ってきました。

これからも全国大会などの出場経費の助成を継続するとともに、文化活動の底辺の拡大と担い手の掘り起こしにつなげます。

新たに中学校の休日部活動の地域移行に伴い、生徒がそれぞれ適した環境で文化活動が継続できるよう受け皿の確保を図ります。

● 地域の伝統と文化の継承 【生涯学習・文化財保護課】

これまで公民館などで児童や親子を対象にふるさとを知り、家庭や地域のきずなを深めるための講座を開催してきました。

これからも公民館などで、歴史や食文化、伝統芸能の継承を目的とした講座を開催するとともに、こどもたちのふるさとを思う心や人を思いやる心を引き続き育てるため、ふるさと芸能の伝承活動が継続する取組を行います。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- スポーツ・文化活動を応援（全国大会などの出場経費を助成）
- 中学校休日部活動の地域移行

施策の方向性

(2) 不登校、いじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応

現 状

- 不登校の子を見過ごさず、丁寧なサポートが必要です。
- 学校でいじめや生活に関する声掛けが必要です。
- 学校再編により学校が変更になることによるいじめや不登校に対する不安の声があります。

課 題

- 不登校やいじめに関しては、小さなことから困難な事例までも、教育委員会事務局内の情報共有と連携を図り、手遅れになる前に専門家の協力を得た適切な対応が求められます。
- いじめや不登校は教職員と児童・生徒の日々の関わりの中で早期に発見、初期対応する必要があるが、実際に対応する場合は専門家のサポートが必要です。
- 最近では、家庭環境や学校、友人との関係、学校や集団への不適応を要因とする問題を抱える児童生徒が増加しており、また、児童生徒が抱える問題は多様化しています。一人一人を大切に、きめ細かな支援が一層必要となっています。

取 組

● いじめ・不登校の未然防止と組織的な対応 【教育総務課・こども支援課】

これまでいじめ相談カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめ問題対策連絡協議会やいじめ・不登校防止連携会議で組織的な対応を行ってきました。

これからも専門的知識と経験を持ついじめ相談カウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの協力を得ながら、いじめ問題対策連絡協議会やいじめ・不登校防止連携会議などを有機的に連携させることでいじめ・不登校の未然防止に関する取組を充実させます。また、小中学生1人1台に配布しているタブレット端末を活用し、いじめなどの悩みごとに関するSOSをいち早くキャッチできる体制を整えます。

不登校児童に関する適切な対応は、若者のひきこもり防止につながる重要な取組であることから、「学校」、「教育委員会」、「こども家庭センター」、「おくえつ児童家庭支援センターめぐみ」がそれぞれに持つ機能を発揮し、役割分担と連携を図り、未然防止に取り組むとともに、事案が発生した場合も迅速に対応します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

● おくえつ児童家庭支援センターめぐみ

施策の方向性

(3) 放課後の居場所づくり

現 状

- 市街地の児童の放課後の拠点である「放課後児童クラブ」と、市街地郊外の児童の拠点である「放課後子ども教室」において学童保育を実施しています。
- 放課後児童クラブと放課後子ども教室の利用要件が異なることに對し、保護者の一部から疑問の声が上がっています。

課 題

- 「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」の実施に当たっては、安全性の向上と人材確保、サービスの質の向上が必要です。（再掲）
- 「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」のサービスの標準化が必要になっています。
- 児童が安全に過ごすため学校内での居場所づくりが求められています。

取 組

● 安全・安心な放課後の居場所づくり

【こども支援課、生涯学習・文化財保護課、教育総務課、地域文化課】

再掲

これまで市街地の小学校の児童のうち保育を必要とする児童については児童センターにおける放課後児童クラブで放課後の居場所を確保し、市街地郊外の小学校の児童については保育の必要性にかかわらず公民館などにおける放課後子ども教室で放課後の居場所を確保してきました。また、長期休業中においてはエキサイト広場や図書館において学習やスポーツ、読書などのカリキュラムにより居場所づくりにも取り組んできました。

これからは現在の放課後児童クラブと放課後子ども教室による放課後の居場所づくりを継続しつつ、児童の安全性の向上と環境の充実を図るとともに、学校施設を活用した放課後の居場所づくりを進めます。また、図書館や公民館を活用した長期休業中の居場所づくりやこども食堂を活用した高校生までの居場所づくりを継続していきます。

新たに放課後児童クラブと放課後子ども教室に携わる人材のスキルアップを図り、放課後支援に係る質の向上につなげるため、指導員や安全管理員の交流を図ります。

こどもの居場所となる屋内型こどもの遊び場は、天候にかかわらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる施設であり、こどもの健やかな成長や父親の育児参加を促す役割を果たすため、指定管理者と連携を図り、安全性の確保と利用促進を図ります。

こども食堂は地域における見守りの拠点になることから、未実施地区への拡大を目指します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 放課後児童クラブの実施
- 放課後子ども教室の実施（長期休業中：学びと遊びと体験の広場）
- 長期休業中の小学生の活動支援（こどもチャレンジ教室、図書館宿題支援、B G 塾）
- 長期休業中の居場所づくり（公民館無料開放）
- おおの天空パークO S O R Aの運営【新】
- こども食堂の実施

施策の方向性

(1) 経済的・精神的負担の軽減

現 状

ニーズ調査の結果として、

- 就学前児童の保護者で、「こどもに関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「こどものしつけ」、次いで「こどもの心の様子」、次いで「食事や栄養」となっています。
- 就学前児童の保護者で、「保護者に関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「ストレスなどからこどもにきつくあたってしまう」、次いで「仕事や自分のやりたいことに時間が十分取れない」、次いで「教育にかかる経済的な負担が大きい」となっています。
- 就学児童の保護者で、「こどもに関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「こどもの心の様子」、次いで「こどものしつけ」、次いで「こどもの友だちづきあい」となっています。
- 就学児童の保護者で、「保護者に関することで悩んでいること、気になること」で最も多い回答は「教育にかかる経済的な負担が大きい」、次いで「仕事や自分のやりたいことに時間が十分取れない」、次いで「ストレスなどからこどもにきつくあたってしまう」となっています。

課 題

- こどもの医療費にかかる負担の軽減や児童手当の給付など、現在の経済的支援の維持・継続していく必要があります。
- 女性の家事や育児の負担が大きくなっているため、女性の精神的負担を軽減するためには、「共に家事を分担し、共に育児をする」という取組が重要です。
- 「こどもまんなか」「こどもとともに」の姿勢で、将来に向かっての明るい見通しができ、こども、保護者がウェルビーイングな状態になるためにサービスの提供、相談支援、情報発信を行っていく必要があります。

取 組

● 子育てにかかる経済的負担への支援 【こども支援課】

これまで国の「子ども・子育て支援事業計画」に基づいた事業や県の補助事業を実施し、第2子以降の保育料無料化や家庭育児応援手当の所得制限を撤廃することで対象者を広げるなど、市独自の支援を加えて経済的な支援を行ってきました。

これからも国の「こども未来戦略加速化プラン」や「子ども・子育て支援事業計画」、県の「福井県こども・子育て応援計画」に基づき、経済的な支援を強化していきます。また、市独自の経済的支援として、全国トップクラスのこども医療費の無料化や第3子以降の小中学生の給食費無料化などを継続していきます。

取 組

● 子育てにかかる精神的負担への支援 【こども支援課・総務課・産業政策課】

これまで妊娠期から出産を経て子育て期に至るまでの子育てライフを切れ目なくサポートするとともに、子育てにかかる負担感の軽減や心身のリフレッシュを図るため、預かり型または訪問型の一時預かり、家事援助、リフレッシュサービスの提供を行ってきました。

これからも子育てをしながらも保護者が自分らしさを失わず、ウェルビーイングな状態で子育てができるよう、子育てにかかる負担感の軽減や心身のリフレッシュにつながるよう子育てライフをサポートしていきます。特に子育てと仕事の両立に対する負担や育児に対する負担が母親に偏っていることから、男女共同参画の推進や子育てしやすい職場環境づくりに引き続き取り組んでいきます。

新たに子育てに悩みや不安を抱える保護者のうちハイリスクな家庭については、こども家庭センターにおいてサポートプランを作成し、総合的な支援を行います。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 妊婦支援給付金
- こども医療費の助成
- 家庭育児応援手当の支給
- 第2子以降保育料無料化料
- 第3子以降小中学校給食費無料化
- 子育てライフサポート事業
- 一時預かり事業、病児デイケア事業、子育て短期支援
- こども家庭センターによる相談支援

施策の方向性

(2) 子育てと仕事の両立支援

現 状

- 就学前児童の保護者で、子育てと仕事の両立に関する課題の問いに対し、家事、育児の負担が大きいとの回答が最も多く、次いでこどもと過ごす時間が短い、病児保育の施設不足の順になっています。
- 子育てと仕事の両立を支援する既存制度の利用実績は低いですが、今後、制度を利用したいとする希望は多くあります。
- 職場において、子育て世代への理解があまり得られず、辛い思いをしている従業員が多くなっています。企業全体で子育て中でも働きやすいように、そして今後もこどもを育てながら働きたいと思える職場環境づくりが求められています。
- 病児保育の充実と利便性の向上を求める声が多くあります。

課 題

- 現在の認定こども園等による教育・保育サービスの提供や一時預かりの実施、放課後児童クラブや放課後子ども教室による児童の放課後の居場所づくりの確保が求められています。
- 病児保育施設の確保とサービスの向上に取り組む必要があります。
- 子育てと仕事を両立する支援は、企業の人材確保や消費者の獲得につながるなど、大きなメリットがあるので、企業を巻き込んだ取組が必要です。
- 男性の家事や子育てへの参加を促進し、女性の負担が偏る状況を解消し、女性と男性が共に子育てと仕事を両立できるような環境整備が求められています。

取 組

● 働きながら子育てしやすい預かり環境の整備 【こども支援課、生涯学習・文化財保護課】

重点取組

これまで保護者の就労環境を整備するための保育の受け皿として、認定こども園等における教育・保育サービスの提供や一時預かり・延長保育を行うとともに、放課後児童クラブ、放課後子ども教室における小学生の放課後対策に取り組んできました。また、病児保育についても市内医療機関の協力を得て実施してきました。

これからも教育・保育サービスの提供や一時預かり、放課後の居場所づくりを継続するとともに、児童の安全と安心を高めるよう取組の充実を図ります。また、市民ニーズに対応するため、病児保育を担う施設の確保・維持に努めるとともにサービスの充実と利便性の向上を図ります。

新たに小学生の放課後対策については、小学校の空きスペースの活用や、指導員の確保と質の向上に取り組めます。

● 子育てしやすい就労環境の整備 【産業政策課】

これまで市内での就業を促進するために働きやすく魅力ある職場環境づくりを推進するとともに、子育てと仕事が両立できる職場環境づくりに取り組んできました。

これからは働きやすく、子育てしやすい職場環境づくりを継続するとともに、労働者が安心してこどもを産み育てられる職場環境を創出することで、出産しても仕事を続けることができる環境を整備するため、「働く人にやさしい企業」「子育て世代にやさしい企業」の認定企業の取組内容の充実に努めます。また、男性の育児休暇取得や子育てと仕事の両立を支援する既存制度の利用を促進するため、事業所と従業員双方に対して周知を図ります。

● 女性にかかる負担の軽減 【総務課】

これまで男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画推進プランに基づいた取組を進めてきました。

これからも特に子育てと仕事の両立に対する負担や育児に対する負担が母親に偏っていることから、男女共同参画を推進し、女性にかかる家事や育児にかかる負担を軽減する取組に力を入れます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 教育・保育サービスの提供
- 家庭育児応援手当の支給
- 放課後児童クラブ、放課後子ども教室の実施
- 一時預かり事業、病児デイケア事業、子育て短期支援
- 働く人にやさしい企業・子育て世代にやさしい企業を応援
- 産後パパ育休取得促進補助金の支給
- 共家事・共育児の推進

現 状

- ニーズ調査では、就学前児童の保護者で、子育てと仕事の両立の課題で最も多い回答は、「家事・育児の負担が大きい」となっています。特に母親の家事負担を減らし、精神的、身体的余裕を求める意見が多くあります。
- 様々な世代における固定的な性別役割分担意識の解消に資する取組に関する啓発や情報発信を進める必要があります。
- 家庭内において育児負担が女性に集中している現状を変え、夫婦が相互に協力して子育てを行い、それを職場が応援し、地域社会全体で応援する社会をつくるため、共働き・共育てを推進する必要があります。

取 組

● 女性にかかる負担の軽減 【総務課】

再掲

これまで男女共同参画社会の実現に向け、男女共同参画推進プランに基づいた取組を進めてきました。

これからも特に子育てと仕事の両立に対する負担や育児に対する負担が母親に偏っていることから、男女共同参画を推進し、女性にかかる家事や育児にかかる負担を軽減する取組に力を入れます。

● 多様化する働き方への支援 【産業政策課】

これまで市街地での創業や既存店舗の事業承継などについて、女性への支援を拡充してきました。

これからは引き続き起業・創業の支援を行うとともに、多様化する働き方への支援として、在宅勤務体制の導入、勤務時間の選択化、時間単位での有給休暇取得制度といった、働く人・子育て世代にやさしい企業の取組を紹介するなどの情報発信を行います。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 共家事・共育児の推進
- 起業・創業を支援

施策の柱 7 配慮を必要とする支援

施策の方向性

(1) 障がい児(配慮を必要とするこども)に対する支援

現 状

- 臨床心理士など専門職を各学校に配置したり、教員に対する研修等を通して発達障がいのこどもたちに対する知識、理解を深めてほしいとの要望があります。
- 小学校に上がっても引き続き、くれよん教室のような発達障がいの専門の機関で、定期的に本人を交えた相談を希望する声があります。
- 障がいのある人が過ごせる場所も少なく、障がいのある子の親が仕事を辞めたり、仕事を制限したりするという話をよく聞くので、子育て、就労両面での十分な支援が必要です。

課 題

- 特別な配慮を必要とするこどもに対しては、専門的な支援が必要です。
- 障がいのあるこどものライフステージに合わせて、障がい福祉、保健、保育、教育、就労支援などの分野で連携し、継続的な支援の提供が必要です。
- 障がいのあるこどもが円滑に通所支援などを受けられるよう、相談支援体制の充実と受け皿の確保が必要です。
- こどもと関わりを持つ機関が配慮を必要とするこどもへの対応を学び、それぞれのこどもの背景に寄り添った対応が必要です。

取 組

● 障がいのあるこどもへの適切な支援 【こども支援課】

これまで幼児健診や認定こども園等での巡回発達相談、児童デイサービスセンターとの連携を通じて、障がいの早期発見・早期支援に取り組んできました。また、認定こども園等では障がいの有無にかかわらず集団教育・保育を実施し、対象児童の社会性の健全な発達を促進してきました。特に医療的ケアが必要な児童につきましては、公立保育園を市内全域の受け皿として整備してきました。

これからも現在の体制を維持し、障がいのあるこどもへの適切な支援に繋げるために、関係機関との連携に取り組んでいきます。また、インクルーシブ保育の実施や医療的ケアが必要なこどもの受け入れを継続します。配慮を必要とする児童の現状を考慮し、保護者への相談支援やこどもに関わる大人の研修を充実させ、それぞれのこどもと家庭に寄り添った対応を行っていきます。

● 福祉サービスなどによる包括的支援 【福祉課】

これまで経済的支援の一環として手当の給付や医療費助成を実施し、障がいのあるこどものいる家庭の経済的負担を軽減する取組を行ってきました。また、家族の悩みや不安に寄り添った相談支援や、日中の活動場所の提供などを通じて、介護を担う家族の就労支援や一時的な休息を図ってきました。

これからも経済的負担の軽減や相談支援の実施、介護の一時的な軽減を図ることで、障がいのあるこどもを持つ家庭を支援します。また、障がいのあるこどもの家族がお互いの悩みを共有したり情報交換をする活動を支援するため、障がいのあるこどもが参加しやすい取組について検討していきます。特に、平日や長期休業中のこどもの居場所に関しては、必要な受け皿を確保します。

新たに医療的ケアが必要なこどもの相談援助、保健や障がい福祉など多くの分野の支援を総合調整するため、医療的ケア児等コーディネーターを配置し、包括的に支援します。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 障がい児・医療的ケア児の保育
- 認定こども園等での巡回発達相談の実施
- 児童デイサービスセンターにおける障がい児支援（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）
- 障がいのあるお子さんの移動を支援

施策の方向性

（2）ひとり親に対する支援

現 状

- フルタイム、正社員で働きたいが、ひとり親であるため周りの協力もあまりなく、正社員として働けない現状があります。
- 母子・父子自立支援員を配置し、相談支援体制を確保しています。

課 題

- ひとり親の困り感や悩みごとに対応するため、母子・父子自立支援員の存在をしっかりと発信し、きめ細かな相談対応を行う必要があります。
- ひとり親家庭に対する経済的支援については、現行の制度を維持する必要がある。
- 子育て支援サービスに係る負担金の軽減策についても、現行制度を維持する必要がある。

取 組

● 相談支援と生活支援 【こども支援課、教育総務課】

これまで母子・父子自立支援員を配置し相談支援を行い、さまざまな助成などの支援情報の提供を行ってきました。また、児童扶養手当の給付や母子・父子家庭の医療費の助成、ひとり親家庭の学習支援、学用品費や給食費の援助など経済的支援を行ってきました。

これからも母子・父子自立支援員やこどもと関わりをもつ、認定こども園等や小中学校などの関係機関を含めた相談体制を維持するとともに、ひとり親家庭の生活を支援するための有用な情報の提供、経済的支援を継続することでひとり親の安定した生活を確保していきます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 母子・父子自立支援員による相談支援
- 児童扶養手当の支給
- 母子・父子家庭の医療費の助成
- ひとり親学習支援
- 低所得世帯習いごと支援【新】

施策の方向性

(3) 生活困窮者(世帯)に対する支援

現 状

- 非課税世帯に対しては、国の子育て支援特別給付金を支給するなど、昨今の物価高騰に対する経済的支援を行ってきました。
- 非課税世帯に対しては、サービスの負担金の免除なども行っています。

課 題

- 非課税世帯など、生活困窮者に対しては、しっかりと必要な支援が受けられるようなつなぎを行う必要があります。
- 非課税世帯に対する経済的支援については、現行の制度を維持する必要があります。
- 子育て支援サービスに係る負担金の軽減策についても、現行制度を維持する必要があります。

取 組

● こどもの貧困対策 【こども支援課・教育総務課】

これまで非課税世帯を対象に教育・保育サービスなどの無償化や低所得世帯の児童習い事の支援などの経済的負担の軽減や保護者の就労を支援するための給付金の支給に取り組んできました。

これからも市が取り組むこども医療費の助成や教育・保育サービスの第2子以降の無料化などの経済的支援、学用品費や給食費の援助などの教育的支援に取り組めます。また、貧困対策は経済的な問題だけでなく、貧困を背景としたさまざまな家庭問題の要因になり得ることから、生活困窮者に対する自立支援とこども家庭センターにおける支援を連携させることで、より効果的な支援を行います。

● 自立支援の充実 【福祉課】

これまで自立相談支援センター「ふらっと」を開設し、経済的に困窮し、最低限の生活を維持できないおそれのある市民に対し、自立に向け、仕事や生活に関する相談対応、個別の支援プランに基づいた自立支援策を促進することで、家庭で養育されるこどもを健全に育成につなげてきました。

これからも自立相談支援センター「ふらっと」による自立相談、就労準備支援、家計改善支援、ひきこもり等の居場所づくりに取り組み、課題がより深刻になる前に早期に支援を行うことにより、保護者の自立を促進し、困難な環境にあるこどもが安心して生活できるよう支援していきます。

大野ですくすく子育て応援パッケージに掲載する取組

- 低所得世帯への就学援助費の支給
- 低所得世帯習いごと支援【新】

第4章 子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策

子ども・子育て支援法では、市町村は国の基本指針に基づき、5年を1期とする子ども・子育て支援事業計画を策定することが定められています。

現行の第2期子ども・子育て支援事業計画が令和6年度で終了することから、令和7年度から令和11年度間までの5年間の計画期間として、子ども・子育て支援法に定める各事業の量の見込みと、その確保方策について定めます。

1 教育・保育について

(1) 教育・保育の提供区域の設定

地域の実情に応じた適切な子育て支援を提供するため、地理的条件、人口、交通事情、現在の教育・保育の利用状況、教育・保育を利用するための施設の状況などを総合的に勘案し、保護者やこどもが居宅より容易に移動することが可能な区域（以下「教育・保育提供区域」という。）を設定することとしており、今回の計画においても、第1期及び第2期の計画に引き続き、大野市全体で1区域とします。

(2) 教育・保育の量の見込みの考え方

平成24年度から平成30年度までの出生数は200人前後で推移していましたが、その後、コロナの影響もあり、出生数は令和3年度末からは140人台で推移し、令和5年度末には120人台に減少しています。

将来の出生数（各年度末の0歳児の数）の推計については、15歳～49歳までの女性1人当たりの出生数の令和3年度から令和5年度までの3カ年の平均を用いて令和6年度～令和11年度の推計を行いました。また、保育所の入所児童の推計については入所割合の実績を、経年の人口の推移については過去3年の人口の変化率を用いて推計しました。

(3) 教育・保育の量の見込み

年度	実績（受託含む、委託抜き）					見込み									
	令和5年度					令和7年度					令和8年度				
	1号	2号		3号		1号	2号		3号		1号	2号		3号	
認定区分・年齢区分		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳
区分別	33	0	537	315	105	28	0	489	261	94	23	0	486	246	91
小計	33	【実績】 957				28	844				23	823			

年度	見込み									
	令和9年度					令和10年度				
	1号	2号		3号		1号	2号		3号	
認定区分・年齢区分		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳
区分別	18	0	426	248	88	13	0	406	240	86
小計	18	762				13	732			

(4) 教育・保育の量の確保方策

	実績（受託含む、委託抜き）					見込み									
年度	令和5年度					令和7年度					令和8年度				
認定区分・年齢区分	1号	2号		3号		1号	2号		3号		1号	2号		3号	
		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳
教育・保育施設	70	620		294	77	70	490		270	95	70	490		250	95
地域型保育事業	-	-		6	3	-	-		6	3	-			6	3
小計	70	【実績】 1,000				70	864				70	844			

年度	見込み									
	令和9年度					令和10年度				
	1号	2号		3号		1号	2号		3号	
認定区分・年齢区分		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳
区分別	18	0	426	248	88	13	0	406	240	86
小計	18	762				13	732			

第2期期間中においては、令和4年度から令和6年度にかけて保育定員の弾力運用の適正化を図ることで、認定こども園等の入所児童の偏りをなくし、運営する社会福祉法人及び学校法人の経営の安定化を図ってきました。

今後は、児童数の減少に対応するため、公立保育所だけでなく、民間認定こども園の定員設定の在り方を検討するため、法人と経営問題を含めた、実情に即した協議を行っていきます。

2 地域子ども・子育て支援事業について

地域子ども・子育て支援事業は、子ども・子育て支援法で定められており、地域の実情に応じて実施する事業です。

(1) 利用者支援事業

ア 事業内容

子育てに関する総合的な相談支援を行う事を行い、こどもや保護者が抱える様々な課題に対して、情報提供や助言、関係機関との調整を通じて支援していきます。

イ 取組状況

令和6年度からは「大野市こども家庭センター」において、妊娠期から子育て期までのさまざまな相談について、保健師や社会福祉士、保育士などの専任職員による相談業務を実施しています。

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所
確保方策	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所

利用者支援事業は、基本方針に示す「将来の見通しを立てられる必要な支援の提供」、「将来の見通しを立てられる、適時適切な情報発信」、「不安に寄り添ったこども、若者、子育て世帯を主体とした相談支援」の基本事業として取組を進めます。

(2) 地域子育て支援拠点事業

ア 事業内容

地域における子育て家庭を支援するための拠点施設を整備・運営する事業で、子育て親子の交流の場の提供や情報の提供、子育て家庭を支援する事業の実施や子育て等に関する相談、助言や関係機関との連絡調整を行うことで、地域における子育て家庭の孤立防止や育児不安の解消を図り、子育てしやすい環境づくりを推進します。

イ 取組状況

実施施設数 2カ所（大野市地域子育て支援センター、子育て交流ひろば「ちっく・たっく」）

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	12,900人日	12,900人日	12,500人日	12,200人日	11,800人日
確保方策	12,900人日	12,900人日	12,500人日	12,200人日	11,800人日

地域における子育て家庭の孤立防止や育児不安の解消を図るため、引き続き、大野市地域子育て支援センター及び子育て交流ひろば「ちっく・たっく」の2カ所を拠点として事業を実施します。

大野市地域子育て支援センターは大野市こども家庭センターとの連携による、より専門的な支援が可能であり、子育て交流ひろば「ちっく・たっく」は商業施設内に設置され、土日の利用も可能であることから、それぞれの拠点のメリットを活かした取組を進めます。

(3) 妊婦健康診査

ア 事業内容

妊婦の健康の保持増進を図り、安全・安心な出産のために健診を行う事業です。母子健康手帳交付時に、妊婦健康診査受診票（1人当たり14回）を交付し、受診勧奨を行い、疾病の予防や妊娠中の異常を早期に発見し、適切な治療や保健指導につなげています。

イ 取組状況

実施場所 県医師会に加入する病院や県外の契約医療機関にて実施

ウ 量の見込みと確保方策

年 度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	人数	130人	125人	123人	121人	116人
	健診回数	1,100回	1,050回	1,033回	1,016回	974回
確保方策	人数	130人	125人	123人	121人	116人
	健診回数	1,100回	1,050回	1,033回	1,016回	974回

妊婦健康診査は無料で受診できることから、母体や胎児の健康確保と併せて経済的負担の軽減につながっていることを情報発信します。

(4) 乳児家庭全戸訪問事業

ア 事業内容

「こんにちは赤ちゃん訪問」として、生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境などを把握し、子育てに必要な情報提供や助言を行います。支援が必要な家庭に対しては、関係機関と連携し支援を行います。

イ 取組状況

実施体制 大野市こども家庭センターの保健師及び助産師など

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	135人	130人	127人	124人	119人
確保方策	135人	130人	127人	124人	119人

本事業の実施により、予防的支援が必要と判断された家庭には、大野市こども家庭センターにおける妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行います。

(5) 養育支援訪問事業

ア 事業内容

育児ストレスなどの問題によって、子育てに対して不安や孤立感を抱えている家庭やさまざまな原因で養育支援が必要となっている家庭を訪問し、家庭児童相談員と保健師などが相談支援を行うとともに、保護者の育児、家事などの養育の手助けとなるサービスへつなぐことで、保護者の身体的・精神的負担を軽減するため支援を行います。

イ 取組状況

実施体制 大野市こども家庭センターの保健師及び家庭児童相談員など

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	86人	86人	86人	86人	86人
確保方策	86人	86人	86人	86人	86人

要保護児童又は要支援児童の早期発見又は早期対応につながるよう、家庭訪問において把握した情報を大野市こども家庭センターにおいて共有し、必要に応じて母子保健と児童福祉とが連携して対応します。

(6) 子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)

ア 事業内容

保護者が疾病、看護、就労、育児不安など身体的又は精神的理由で、家庭での養育が一時的に困難な場合、また平日の夜間や休日に不在で家庭での養育が困難な場合に、児童養護施設や乳児院でこどもを預かります。

イ 取組状況

事業の種類 ショートステイ（宿泊を伴う利用）
トワイライトステイ（平日の夜間や休日の利用）
実施場所 2カ所（偕生慈童苑、済生会乳児院）

ウ 量の見込みと確保方策

年 度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
ショートステイ	量の見込み	24人	24人	24人	24人	24人
	確保方策	24人	24人	24人	24人	24人
トワイライトステイ	量の見込み	12人	12人	12人	12人	12人
	確保方策	12人	12人	12人	12人	12人

こどもの預かり目的以外にも、保護者のリフレッシュ（レスパイト）目的やこどもとの関わり方で悩んでいる保護者に対する相談目的で利用できることを情報発信し、保護者の子育てを支えます。

(7) 一時預かり事業(子育てライフサポート事業)

ア 事業内容

一時預かり事業（一般型）は、家庭において保護者の就労、疾病、冠婚葬祭などにより一時的に家庭での育児が困難となった乳幼児について、認定こども園等で保育を実施します。一時預かり事業（幼稚園型）は、教育時間の前後や長期休業期間などに、主に在園児を対象に認定こども園等で保育を実施します。

あわせて、大野市シルバー人材センターにおける訪問型一時預かりや子育て交流ひろば「ちっく・たっく」における預かり型一時預かりを実施し、子育てライフをサポートします。

イ 取組状況

事業の種類 一時預かり事業（幼稚園型）
一時預かり事業（一般型）
子育てライフサポート事業（すみずみ子育てサポート事業）
実施場所 認定こども園等、大野市シルバー人材センター、子育て交流ひろば「ちっく・たっく」、子育てライフサポート受託事業所

ウ 量の見込みと確保方策

(幼稚園型)

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	84人日	69人日	54人日	39人日	24人日
確保方策	84人日	69人日	54人日	39人日	24人日

(幼稚園型以外)

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	967人日	967人日	931人日	907人日	878人日
確保方策	967人日	967人日	931人日	907人日	878人日

事業実施に関する受け皿の確保とあわせて、情報発信の強化と利便性の向上に努めます。

(8) 延長保育事業

ア 事業内容

保育認定を受けたこどもについて、保護者の就労形態の多様化などに伴うやむを得ない理由により、認定こども園等で、通常の保育時間を延長して保育を実施する事業です。

イ 取組状況

実施場所 市内の全保育所・認定こども園

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	70人	68人	62人	60人	57人
確保方策	70人	68人	62人	60人	57人

既存の認定こども園等において、保護者の働き方の多様化や就労環境に柔軟に対応していきます。

(9) 病児・病後児保育事業

ア 事業内容

病気又は病気回復期のため集団保育が困難、かつ、保護者の就労や疾病などの事由により家庭で保育ができない乳幼児などを病院・保育所等に付設された専用スペース等において看護師等が一時的に保育を行います。

イ 取組状況

実施場所 市内の病児デイケア事業受託施設

市外の病児デイケア促進事業相互広域利用受託施設

ウ 量の見込みと確保方策

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	225 人日	225 人日	225 人日	225 人日	225 人日
確保方策	225 人日	225 人日	225 人日	225 人日	225 人日

市内の病児デイケア事業受託施設及び市外の病児デイケア促進事業相互広域利用受託施設において事業の実施体制を確保とあわせて、情報発信の強化と利便性の向上に努めます。

(10) 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ事業)

ア 事業内容

保護者が就労などにより昼間家庭にいない児童を対象として、放課後や長期休業期間において適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全育成を図ります。

イ 取組状況

実施場所 市内全児童センター（5カ所）

ウ 量の見込みと確保方策

年 度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	1年生	96 人	82 人	101 人	83 人	80 人
	2年生	93 人	80 人	67 人	83 人	68 人
	3年生	48 人	51 人	43 人	37 人	45 人
	4年生	25 人	24 人	25 人	22 人	18 人
	5年生	6 人	6 人	6 人	6 人	6 人
	6年生	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人
確保方策		269 人	244 人	243 人	232 人	218 人

放課後の児童の安全性の向上と環境の充実を図るとともに、学校施設を活用した放課後の居場所づくりを進めます。併せて、こどもに関わる人材のスキルアップを図ります。

(11) 妊婦等包括相談支援事業(新規)

ア 事業内容

妊婦などを対象に、妊婦支援給付金の給付にあわせて、面談や情報提供、相談援助を行うことで、妊婦の心身の状況や生活環境を把握し、母子保健や子育ての支援を行います。

イ 取組状況

実施体制 大野市こども家庭センターの保健師など

ウ 量の見込みと確保方策

年 度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の 見込 み	妊娠届出数	130 件	125 件	123 件	121 件	116 件
	1 組あたりの 面談回数	3 回	3 回	3 回	3 回	3 回
	面談実施 合計回数	390 回	375 回	369 回	363 回	348 回
確保方策		390 回	375 回	369 回	363 回	348 回

面談は、妊娠届出時、妊娠後期のアンケート実施又は希望者に面談時、乳幼児家庭全戸訪問時の3回実施します。把握した情報を大野市こども家庭センターにおいて共有し、必要に応じて母子保健と児童福祉とが連携して対応します。

(12) 産後ケア事業(新規)

ア 事業内容

産後の母と子の健康のために、助産所や医療機関でのショートステイ（宿泊）やデイサービス（日帰り）、アウトリーチ型（訪問）を行い、心と体を休めながら育児相談や授乳指導などを行います。

イ 取組状況

実施体制 県が集合契約する医療機関や助産施設など

ウ 量の見込みと確保方策

年 度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	234 人日	225 人日	222 人日	219 人日	210 人日
確保方策	234 人日	225 人日	222 人日	219 人日	210 人日

市として産後ケア事業に初めて取り組むことから、事業内容等の周知を図ります。

(13) 特定乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)(新規)

ア 事業内容

保護者の就労の有無や理由を問わず、0～2歳の未就園児が保育施設等を月一定時間利用できる制度で、集団生活を通じてこどもの社会性を養い、こどもの健やかな育成を図ります。

イ 取組状況

実施体制 令和8年度から始まる「乳児等のための支援給付」により実施する予定です。実施に当たっては、低年齢児（0～2歳）の認定こども園等への入所率などの実情を踏まえ、認定こども園などに過度な負担が掛からないように配慮します。

ウ 量の見込みと確保方策

年 度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
量の見込み	0歳児	—	3人	3人	3人	3人
	1歳児	—	1人	1人	1人	1人
	2歳児	—	1人	1人	1人	1人
確保方策	0歳児	—	3人	3人	3人	3人
	1歳児	—	1人	1人	1人	1人
	2歳児	—	1人	1人	1人	1人



令和6年2月実施

大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童)

- 住んでいる地域、家族の状況、育ちをめぐる環境 P1(問1)～P4(問16)
- 保護者の就労状況 P4(問17)～P6(問19)
- 教育・保育事業、子育て支援事業の利用状況(希望) P6(問20)～P9(問26)
- 小学校就学後の放課後の過ごし方(希望) P10(問27・問28)
- 子育てと仕事の両立支援 P10(問29)～P13(問30)
- 子育て全般に関する満足度や課題 P13(問31・問32・問33)
- 自由意見(問12、問34) P14～P18、P19～P30

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



実施状況

アンケート項目

就学前児童

- 実施期間 令和6年2月2日～2月16日

○調査対象 住民登録のある就学前児童の保護者（無作為抽出500人）

○調査地域 大野市全域

○回答数 411件（回答率82.2％） ※未就学児のいる世帯936世帯
- 住んでいる地域、家族の状況、育ちをめぐる環境

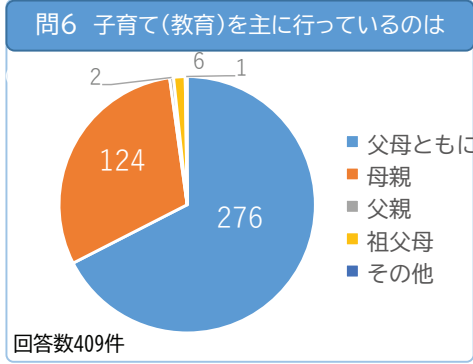
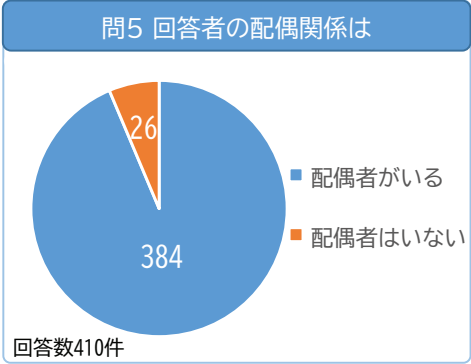
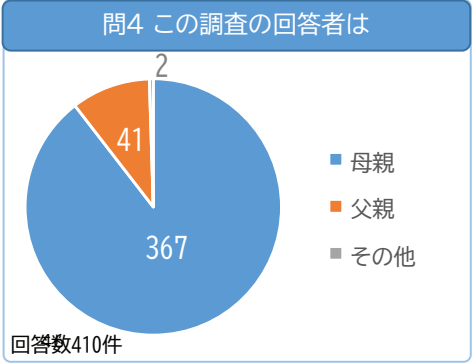
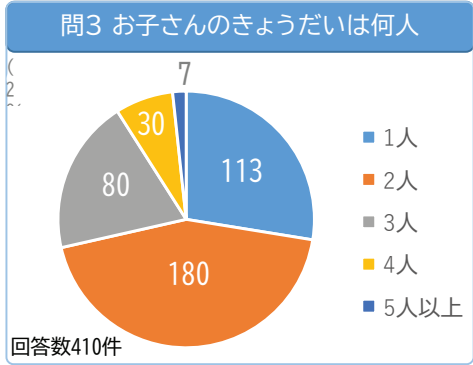
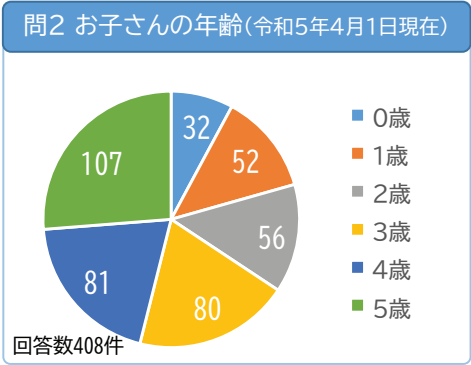
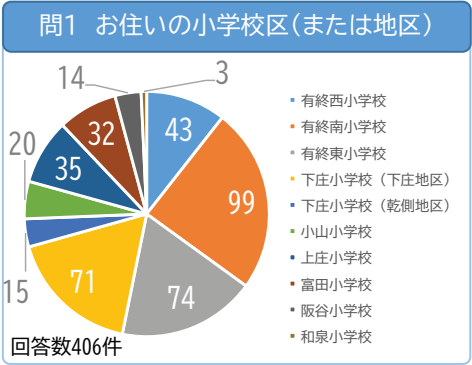
○保護者の就労状況

○教育・保育事業、子育て支援事業の利用状況（希望）

○小学校就学後の放課後の過ごし方（希望）

○子育てと仕事の両立支援

○子育て全般に関する満足度や課題



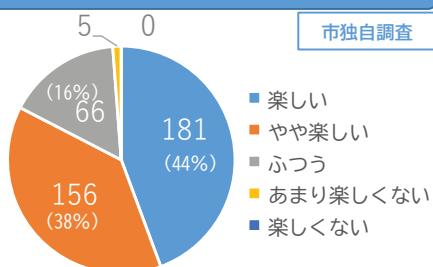
令和6年2月実施

大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



問7 あなたにとっての子育ては(楽しさ)

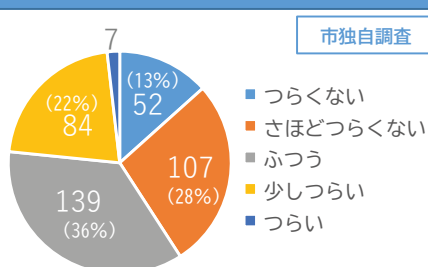
市独自調査



回答数408件

問7 あなたにとっての子育ては(つらさ)

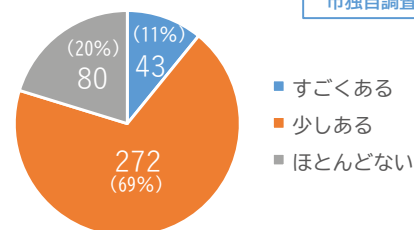
市独自調査



回答数389件

問8 子育てをしているの不安や悩み

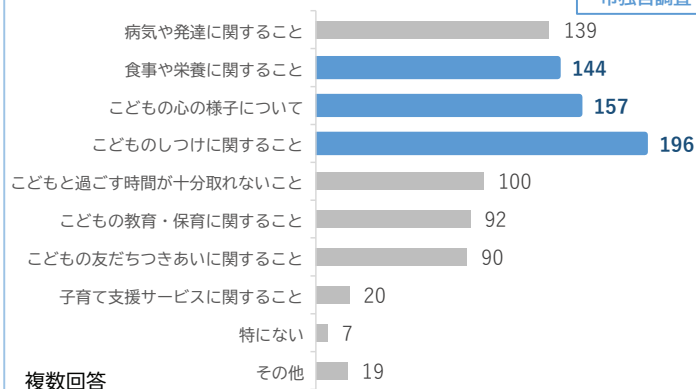
市独自調査



回答数395件

問9 子どもに関することで悩んでいること、気になることは

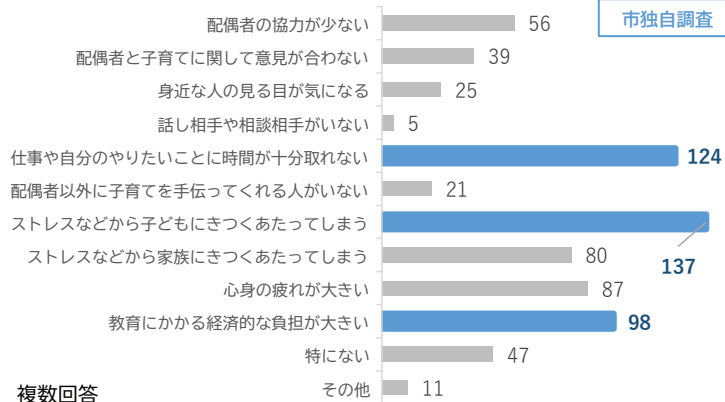
市独自調査



複数回答

問9 保護者に関することで悩んでいること、気になることは

市独自調査

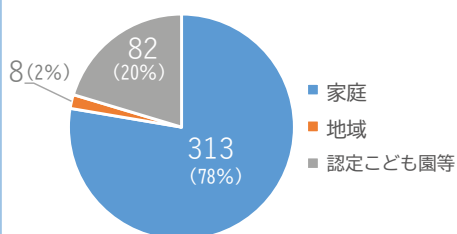


複数回答

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

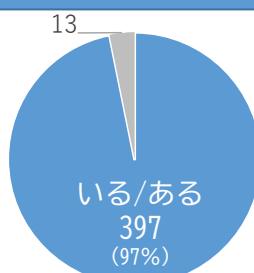


問10 子育てに最も影響する環境は



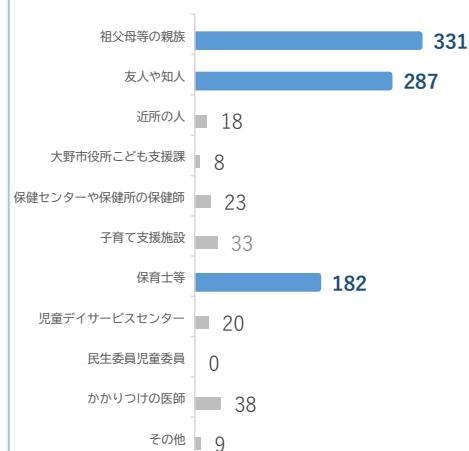
回答数395件

問11 子育て(教育)で気軽に相談できる人(場所)の有無



回答数410件

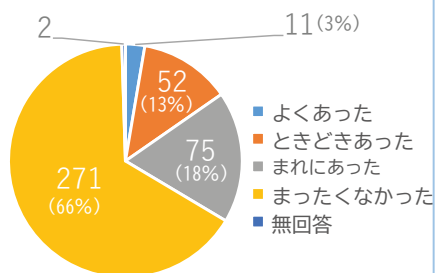
問11-1 気軽に相談できる人(場所は)



問12 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

P14～P18に自由意見をまとめました

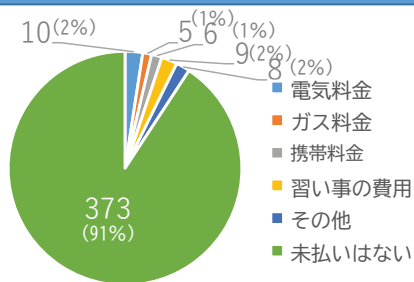
問13 家族が必要な物を買えなかったことは



回答数409件

市独自調査

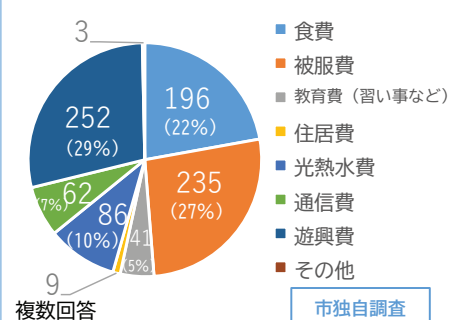
問14 過去1年に未払いになった料金は



回答数411件

市独自調査

問15 節約するとしたらどの費用



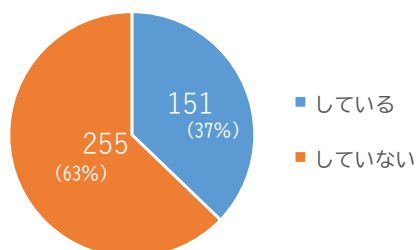
複数回答

市独自調査

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



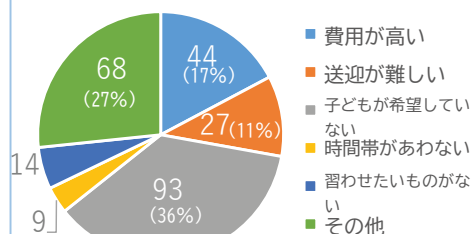
問16 子どもは習い事をしているか



回答数406件

市独自調査

問16-1 習い事しない理由は



回答数410件

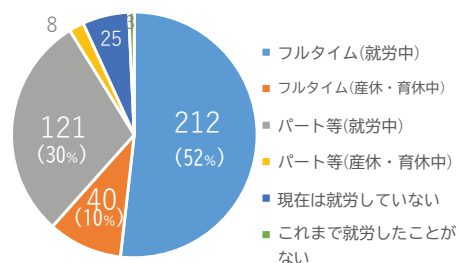
市独自調査

問16-1 その他の理由

その他の理由のほとんどが「まだ幼いから」でした。それ以外の理由は次のとおりでした。

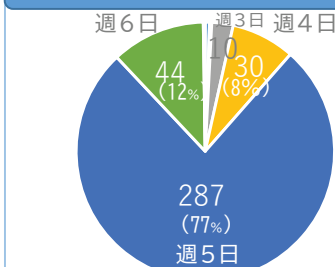
- ・検討中
- ・大野になにがあるのか知らない。同世代の子がしていることを知らない。
- ・健康上の問題で思いきって習い事に行かせられない。
- ・何を習わせた方がいいのか分からないし、どこがいいのかがいまいち分からない。したいもの(ゴルフなど)があっても大野だからスポーツできる場所がない
- ・どのような習いごとがあるかあまり知る機会がない
- ・習い事をして、子どものメンタルが崩れないか心配

問17 母親の就労状況



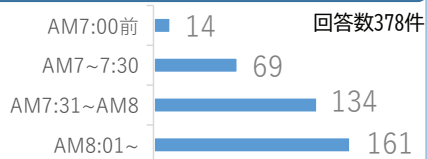
回答数409件

問17-1 母親の就労日数(1週間)



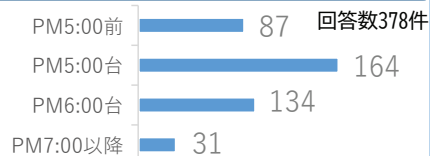
回答数375件

問17-2 母親が家を出る時刻



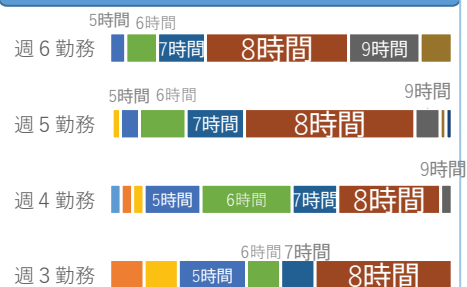
回答数378件

問17-2 母親の帰宅時刻



回答数378件

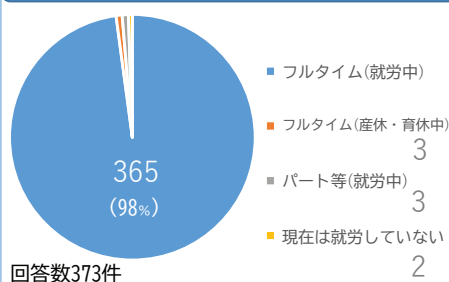
問17-1 母親 1日当たりの就労時間



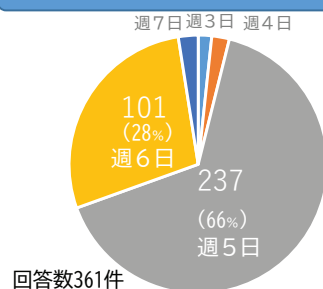
令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



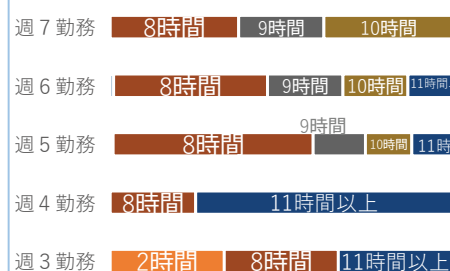
問17 父親の就労状況



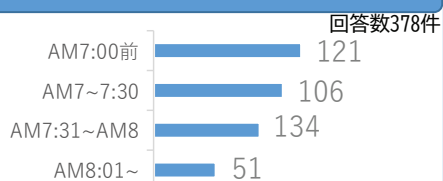
問17-1 父親の就労日数(1週間)



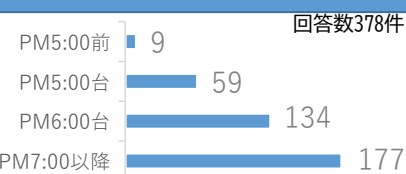
問17-1 父親 1日当たりの就労時間



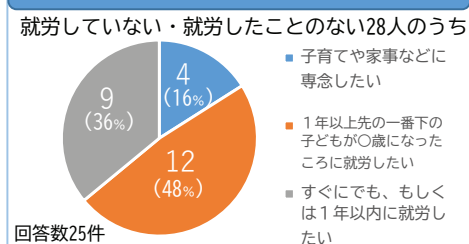
問17-2 父親が家を出る時刻



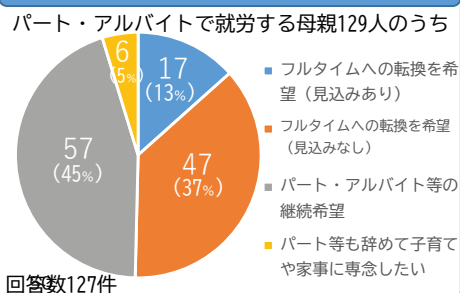
問17-2 父親の帰宅時刻



問19 就労希望(母親)



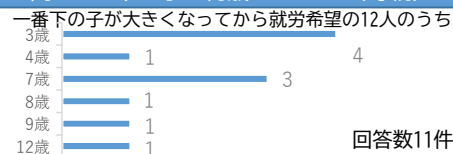
問18 フルタイムへの転換希望(母親)



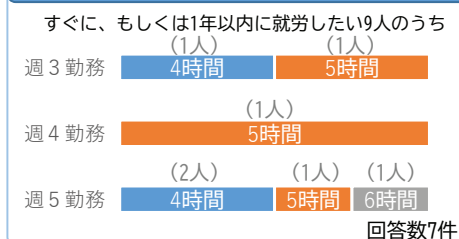
問18 フルタイムへの転換希望(父親)

パート・アルバイトで就労する父親3人のこの設問の回答者は0人でした

問19-1 下の子が何歳になったら(母親)



問19-2 すぐに就労するならどの形態



令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

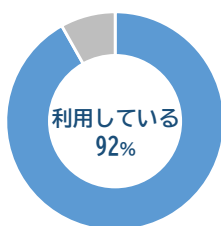


問19 就労希望(父親)

就労していない2人ともに
フルタイムで「いますぐにでも、もしくは1年
以内に就労したい」と回答

問20 定期的な教育・保育事業利用の有無

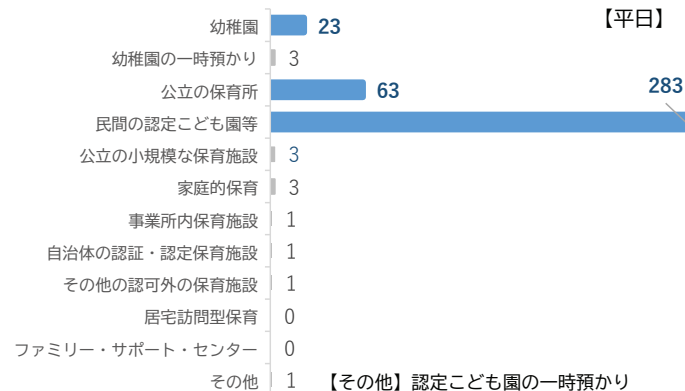
【平日】



回答数407件

問20-1 定期的にご利用している事業は

【平日】

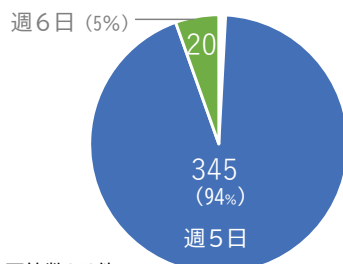


複数回答

【その他】認定こども園の一時預かり

問20-2 定期的な教育・保育事業 利用状況

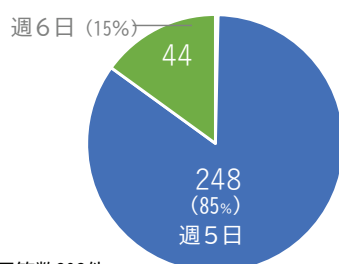
【平日】



回答数368件

問20-2 定期的な教育・保育事業 利用希望

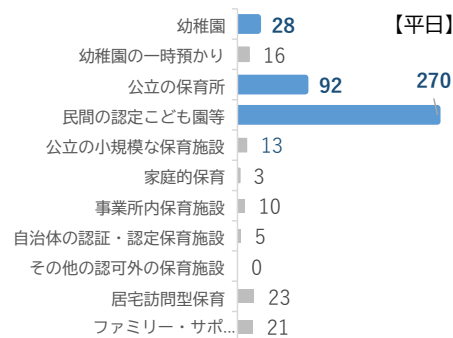
【平日】



回答数293件

問20-3 定期的にご利用したい教育・保育事業は

【平日】



複数回答

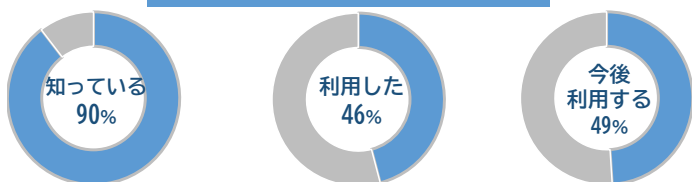
【その他】病児・病後市保育

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

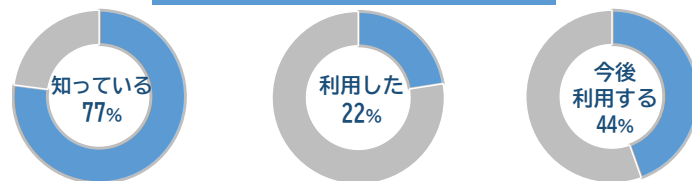


問21 地域子育て支援事業(認知度、利用実績、利用希望度)

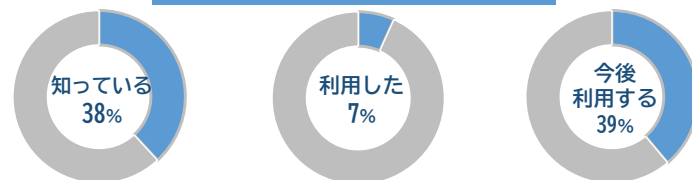
保健センターの育児相談



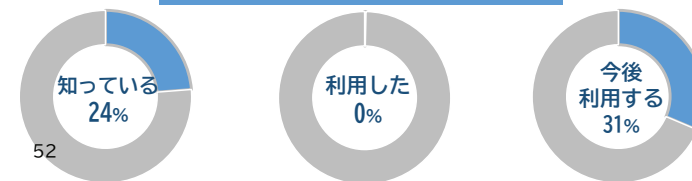
保健所や市役所の発達相談



家庭教育に関する学級・講座

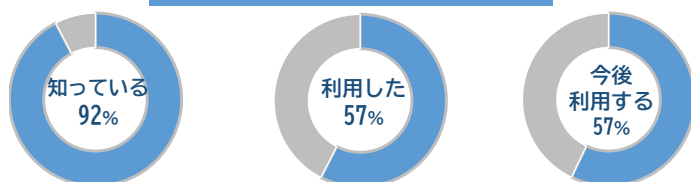


教育委員会の教育相談

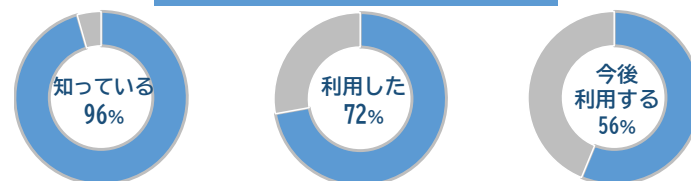


問21 地域子育て支援事業(認知度、利用実績、利用希望度)

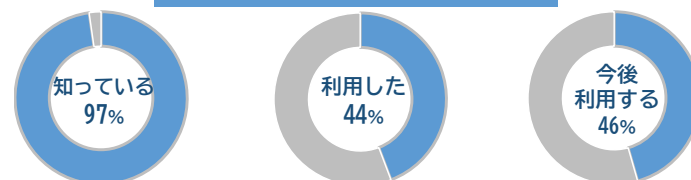
認定こども園等の園開放や子育て支援



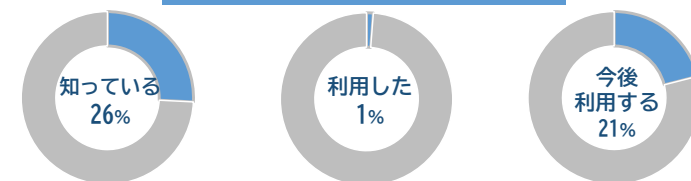
地域子育て支援センター



子育て交流広場ちつく・たつく



子育て短期支援(ショート・トワイライト)

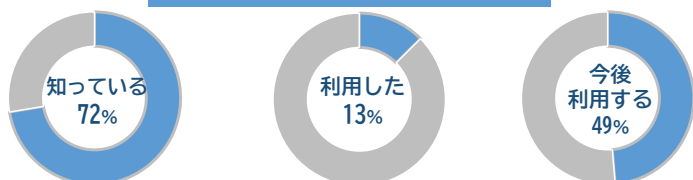


令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

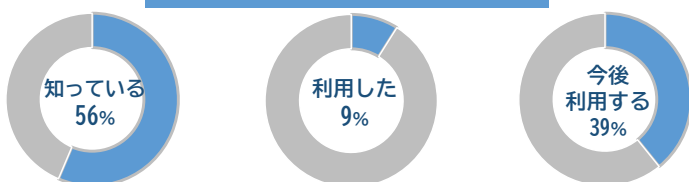


問21 地域子育て支援事業(認知度、利用実績、利用希望度)

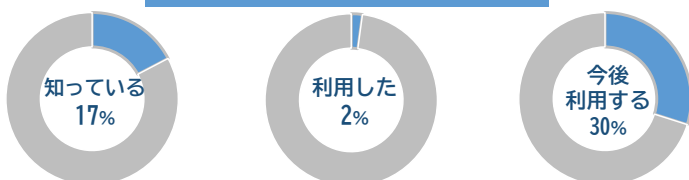
病児デイケア(病児・病後児保育)



休日保育



すみずみ子育てサポート



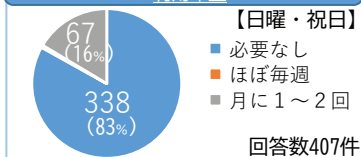
問22 定期的な教育・保育事業
利用希望

【土曜】



問22 定期的な教育・保育事業
利用希望

【日曜・祝日】



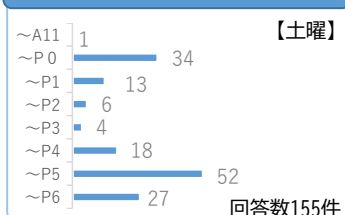
問22 利用したい時間(始)

【土曜】



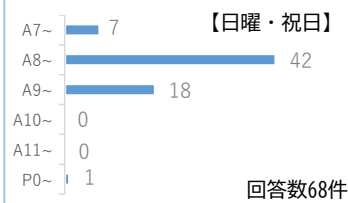
問22 利用したい時間(終)

【土曜】



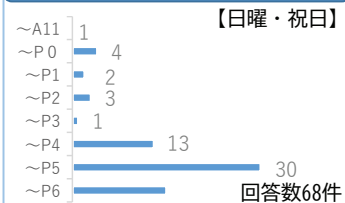
問22 利用したい時間(始)

【日曜・祝日】

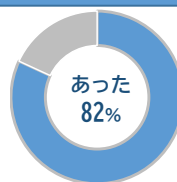


問22 利用したい時間(終)

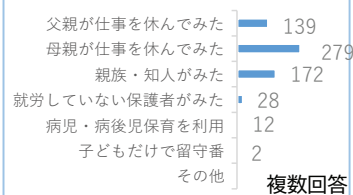
【日曜・祝日】



問23 病気やケガで認定こども園等を利用できなかったこと



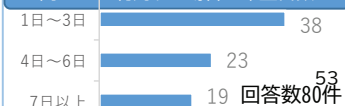
問23-1 対処方法



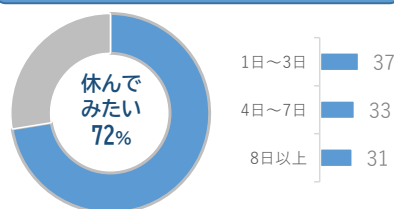
問23-2 病児・病後児保育の利用希望



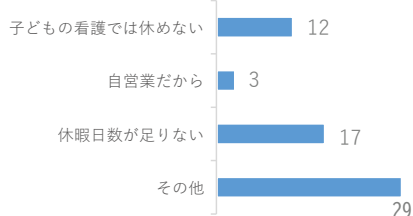
問23-2 利用する場合の希望日数



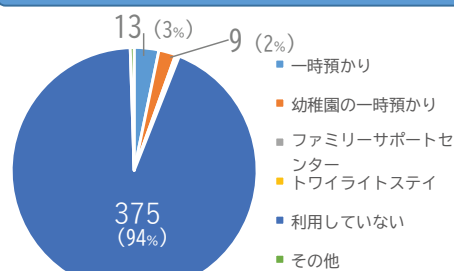
問23-5 父親または母親が仕事を休んでみなかった家庭の希望(年間)



問23-6 休めない理由



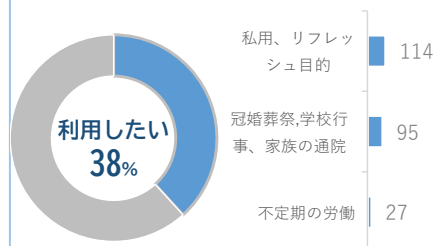
問24 不定期に利用している一時預かり等の事業は



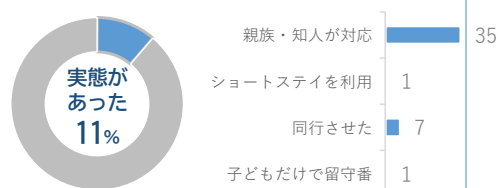
問23-6 その他の回答

- ・忙しい
- ・教員の仕事をしている以上、教育を受けている子どもたちの学習が進まなくなるため休みたくないという思いもある。代わりに授業をしてくれる先生がいたらいいなと思う
- ・人員不足で休めない
- ・仕事の期限もあるから
- ・仕事の内容で休めないときがある
- ・子どもの病気の程度と仕事の緊急度を比べて
- ・業務量が多い職場だから。上司達に迷惑を掛けたくないため
- ・看護休暇はあるけれど無給だと休みづらい
- ・休むのが非常に難しいわけではないが、職場に迷惑がかかると思うと休みづらい。職場の雰囲気
- ・年休があるはずなのに上司から振り替えにされてしまう。
- ・同居の祖母が看ると言うので
- ・休みが続くと自分の気持ち的に申し訳なくなる
- ・父親では看病がうまくできないので仕事をしてほしい
- ・カゼ程度なら、祖母が看病してくれるため

問25 一時預かり等の事業の利用希望



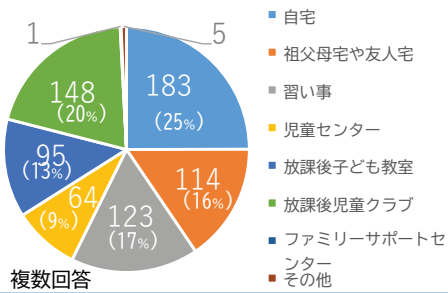
問26 宿泊を伴う預かり等の実態



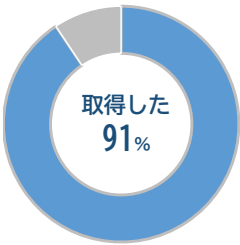
令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



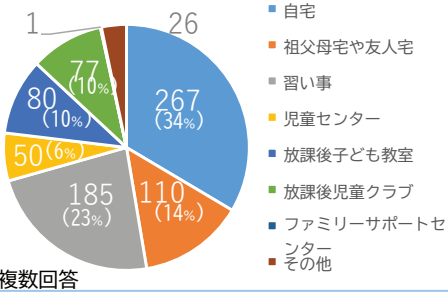
問27 小学校就学後の放課後の過ごし方の希望(低学年時)



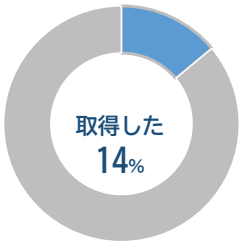
問29 育児休業取得状況(母親)



問28 小学校就学後の放課後の過ごし方の希望(高学年時)



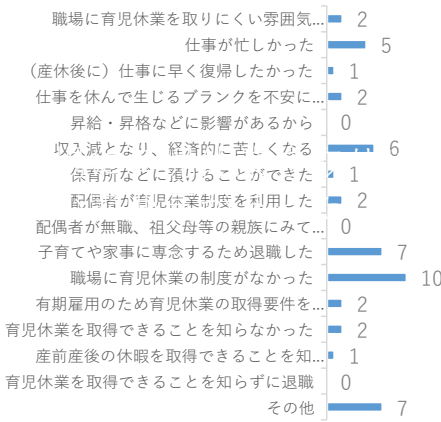
問29 育児休業取得状況(父親)



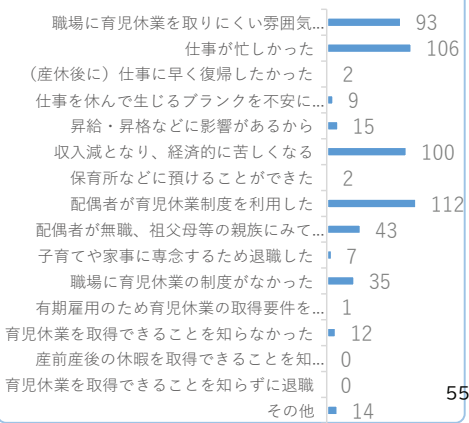
問29 育児休業取得しなかった理由(その他)

- 【母親】・自営業なので自主的に仕事をセーブした
・育児休業の取得要件を満たさなかった(入社1年未満のため)
・アルバイトだったので育児休業はないが、1年間休みはもらった。
【父親】・役職のある仕事で取得すると事業が回らなくなるから。
・会社が取る習慣がない(前例がなかった)
・休まなくても充分サポートができた
・祖母と妻の2人で子育てできているため
・有給消化で休んだ

問29 育児休業取得しなかった理由(母親)



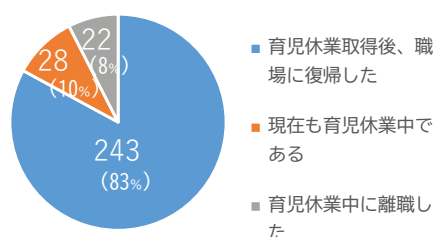
問29 育児休業取得しなかった理由(父親)



令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

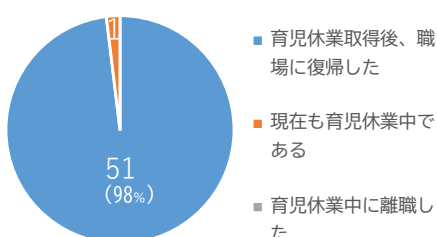


問29-1 育児休業取得後の状況(母親)



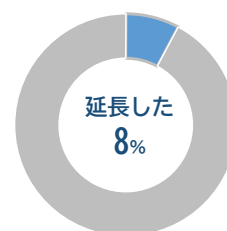
回答数293件

問29-1 育児休業取得後の状況(父親)

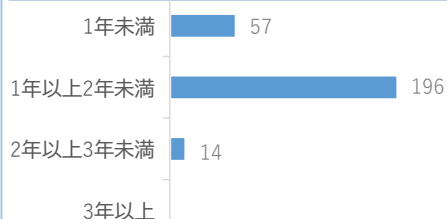


回答数52件

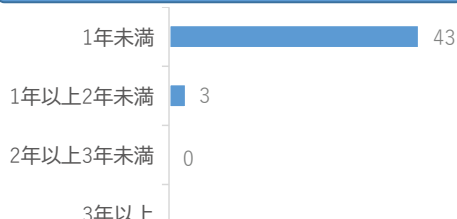
問29-2 第1希望の園に入所できず
育児休業を延長したか



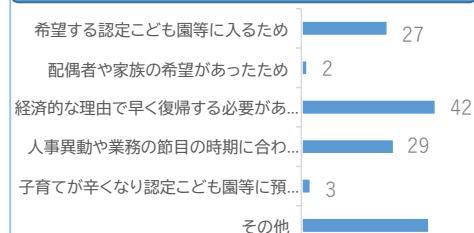
問29-3 育児休業取得期間(母親) ※実際



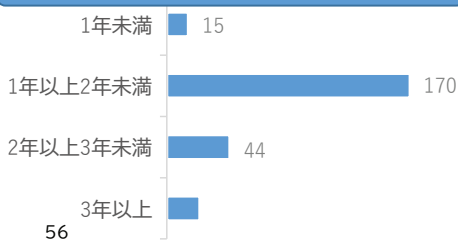
問29-3 育児休業取得期間(父親) ※実際



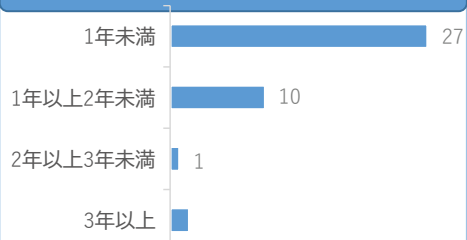
問29-4 希望より早く復帰した理由(母親)



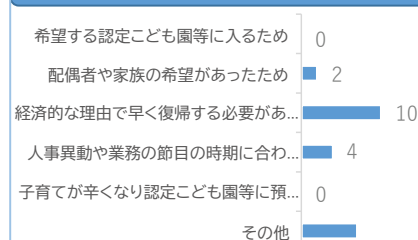
問29-3 育児休業取得期間(母親) ※希望



問29-3 育児休業取得期間(父親) ※希望



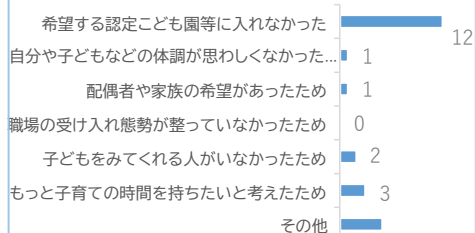
問29-4 希望より早く復帰した理由(父親)



令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



問29-4 希望より遅く復帰した理由(母親)

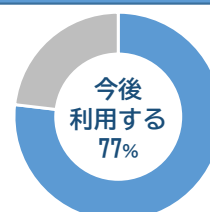
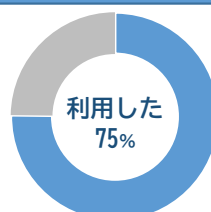


問29-4 希望より遅く復帰した理由(父親)

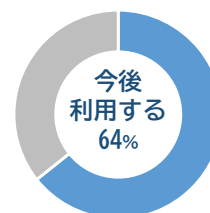
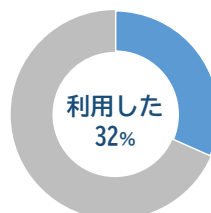
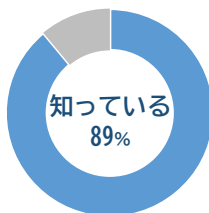
希望より遅く復帰した父親はいませんでした

問30 子育てと仕事の両立支援制度(認知度、利用実績、利用希望度)

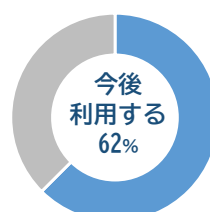
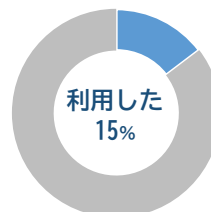
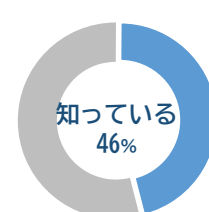
育児休業制度



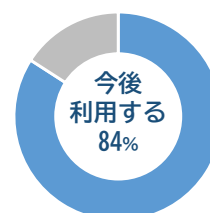
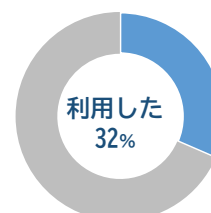
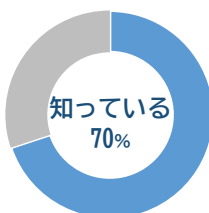
短時間勤務制度



所定外労働の制限

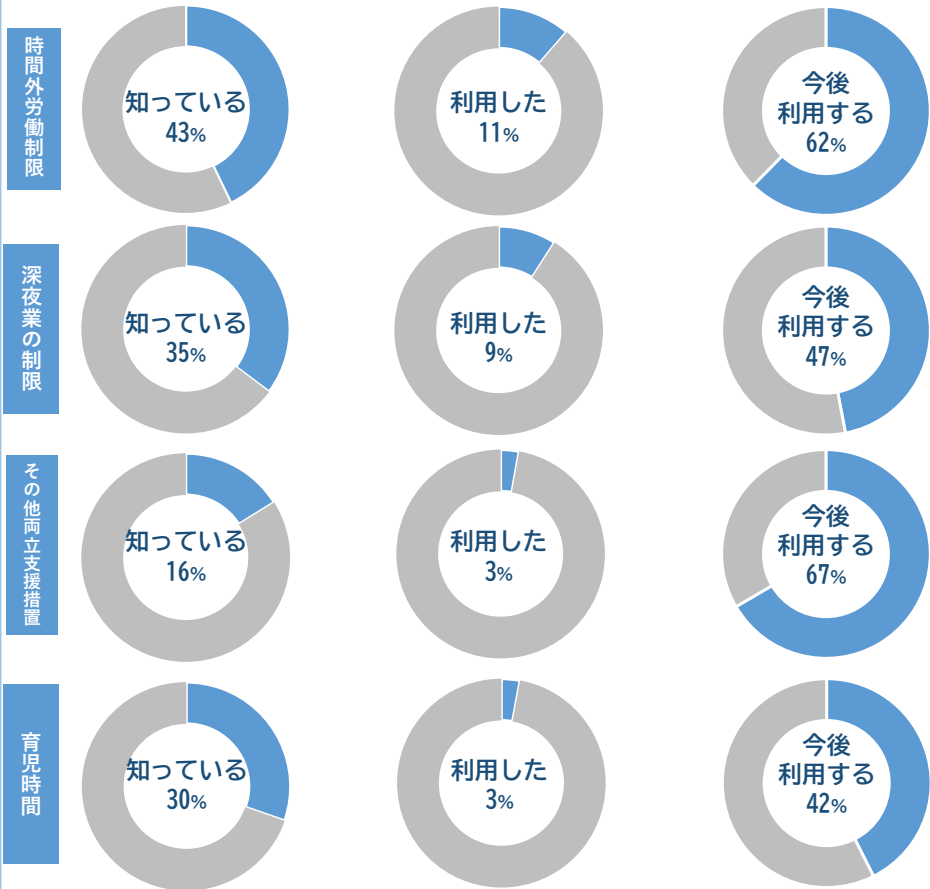


子の看護休暇制度

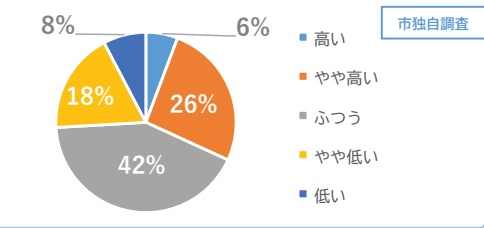




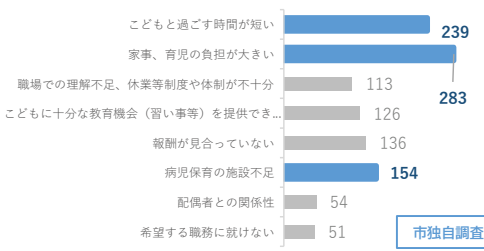
問30 子育てと仕事の両立支援制度（認知度、利用実績、利用希望度）



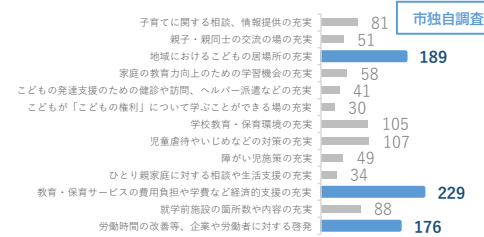
問31 市の子育て環境や支援の満足度



問32 子育てと仕事の両立の課題



問33 子育て支援策に期待すること、重要なこと



問12 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

【子どもの居場所、預かり】

・18歳までは休みを(仕事の)取りやすく、かつ日数が増えるといいなと思います…サポート面で言えば、夏休み等の子供の(あずかり)行き先が増えるといいなと思います。

・仕事の都合や体調不良時に子どもを預かってくれたり、手伝ってくれたりするとありがたい。

・土日に子供を預かってくれる無料チケット

・病児保育の拡大

・緊急時、突発的な子どもの預け先がない。(冠婚葬祭、学級閉鎖等)(ふく育さんは1週間以上前からの予約とあり、通夜・葬式の際、非常に困りました。)ため、すぐ連絡して預かってくれるところがあると良い。気軽に預けられる

・病児保育をもっと充実させてほしい。

・学校内に児童館があれば移動などの心配がなくなる。

・兄弟を病院に連れて行かないといけない、習いごとの送迎の時などに短時間でいいから預かってくれる場所があると助かるなあとと思います。

・病児保育時間の延長(8:30~17:30勤務のため)

・寺子屋のような、集まって勉強を見てくれる所があるとよい

・病気の子を預かってくれる場が増えるとうい

・子供が風邪等の病気をしたときに保育士のいる病児保育施設を利用したいが、コロナ感染者がクラスにいと利用できない等ある。保育士のいる病児保育施設が市内にあるとよい。親が病気を持っていて、あまり長時間子どもを預けることができないため。

・子どもを少しの間でも見てくれる(親不在でも、側についていなくても)人や場所があるとかなり助かる。☆面倒な手続きなしで自分の体調が悪い時など、病院へ行く間だけでもみてもらえたら助かるかなと思います(特に月れいが小さい時)

・子ども食堂みたいな場がほしいな

・急な病気に対する対応(仕事を休む、看病、病院の受診)

・一時預かりのサービス

・病気の時に預かってくれるサービス(施設があるとうい)

・短時間でも保育(子供を預かってもらえる)してくれる施設・制度(家庭環境関係なく)

・土曜日の保育園での保育が原則12時までとなっていますが、平日同様に預かって頂けるとありがたいです。土日仕事している親はいますので。

・仕事を休めない時の保育支援(祝日など)

・子どもがが熱を出した時に、見てくれる人がいることは助かる。

・夏休みなどの長期休暇時に、子供をみてもらえるサポートを充実させてほしい。仕事をしていると祖母の負担が多すぎる。

・風邪をひいた時や感染症にかかった時の預け先を探すのが大変なので(病児保育も利用しにくいです。遠い、人数制限など)、なにか支援して頂けるとありがたいです。

・急な発熱等の体調不良時に病児保育等の一時預かりしてくれる場所があると助かります。

・数時間預かってくれる人がいると助かる

・休みたいときに子どもを見てもらえる

・小学校児童館利用申請にあたり、祖父母の就労証明・診断書を不要にしてほしい。病気治療中で、診断書をとるにも毎年費用がかかる。完治するものではないので毎年提出が負担となる。また、公になることに抵抗もある。薬の明細等で判断できないか。

・罪悪感なく預けられるサービス。現状は仕事が休みの日(土・日・祝日)は基本預かりNGなので、どんな時も安心できる相手(保育士さんなど)に預けられるサービスがあると嬉しい

・外で遊ぶ時等に一緒に遊べる人がいると良いと思う。

問12 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

【健康・発育・発達】

- ・1年ないし、半年ごとくらいで子の発達や発育についての状況報告(グラフとかで)があると安心する。(こんなことができているや、年相応なのか少し遅れがあったり苦手なことなど)
- ・育休中に、市から子どものしつけや子育てに関する勉強会などがあればいいと思う。かんしゃくに悩み、医大に受診し、対応を習いました。
- ・個人差はあると思いますが、子どもへの対応について、知識があれば、そこまで困らなかったと思います。今は怒らない教育とか言われていますが、結局しかることは必要で、意味をとらえ違えたり、まどわされたり(情報があすぎて…)3歳児検診とかで、希望制で子どものしつけや困った対応など、教えてくれるといいなと思いました。
- ・(行政担当者)健診時の栄養相談、いつもありきたりでテキストのような返事しか返ってこず、食事で悩んでいても全く参考にならないもっとアドバイスできる人にきてほしい
- ・祖父母世代は薬を使用しない方がいいという考えの方がいるため、祖父母世代対象に薬の服用、ぬり薬(アレルギーなど)の新常識を理解してもらえるようなサポートをしてほしい。
- ・簡単に栄養のあるご飯の献立を教えてほしい。
- ・トイレトレーニングの実践方法を教えてほしい
- ・自分の子どもがほかの子どもと比べて何が苦手で、どのように接していけばいいのかが分かるサポート
- ・小児の病院をもっと充実させてほしい。
- ・子供は色々な病気になるので、おすすめの医者をそれぞれ教えてほしい。病院選びが大変でした。
- ・幼児の食事について知れるところがあると助かる。
- ・3人目の病気や発達に関していつも親身になって相談にのって頂きすでに沢山の制度を利用させてもらっています。
- ・病気時の病院紹介、いざという時の対応

【家事や育児の援助】

- ・買い物配達
- ・家事代行もしくは家事の間、子どもをみていてもらえるようなサポート
- ・朝・夜の時間に子どもの世話を一緒にしてもらえる(身近な人)
- ・母親の家事負担を減らし、精神的、身体的余裕を作る
- ・家事代行
- ・料理の作り置き等の家事代行サービスが気軽に利用できるようになってほしい。(対象地域になっていなくて頼める業者がない)
- ・食事の用意等家事援助。働いているので…。
- ・子どもが風邪をひいて病院に連れて行くとき、元気な兄弟を家で見ていてほしい。
- ・子守り
- ・毎日の買い物をしてもらえるサービス。
- ・双子なのでふたり同時に連れて買い物に行けない。病院に行けない。など、困ったときに手伝ってもらえる環境。シッターなどはどんな方が分からないので家で子どもを見てもらうというのは不安で利用しなかった。プロフィールなどがあったらよかった。

【子育てと仕事の両立】

- ・仕事と家庭の両立 ワークライフバランスへの支援
- ・こども食堂、児童センターのような共働きがしやすい施設

【情報発信】

- ・病院の紹介(発熱した際、近所の病院に断られることが多い)
- ・どのようなサポートがうけられるのかを知りたい。ラインなどで気軽に非対面で相談や話を聞いてほしい。行政などで相談したくても知り合いがいるとづらい。
- ・子育て・教育に関する情報提供。どこにどんなサポートがあるのか

問12 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

・育児や教育等のサービスやサポートを知らせてほしい。
・子どもが参加できるイベントのチラシ告知(最近SNSのみの情報しかないことも多く、知らないこともあるため)週末になると土日何をしようか悩みます…。

【経済的支援】

・2人目を生む際、上の子を保育園に入れる際、生後半年分だけでもいいので保育料を補助していただくと、一人目と二人目を間をあけず生みやすいかな?と思う。
・金的手当、お金で解決できることがほとんどだから
・食費との上手な付き合い方、とにかく高い
・支援金
・金銭面でのサポート
・金銭面の補助
・物価高なので金銭面のサポートがもっと必要
・オムツ代など消耗品の援助
・金銭面です。行政からはしっかり金銭サポートして頂きたい。
・金銭面の補助があるととても助かります
・経済的支援

【自分のため、リフレッシュ】

・仕事で休みは取れても、子供の風邪や保育園の行事などで休みが終わってしまい自分だけの時間が欲しいのもっと有休を気軽に取れるようにしてほしい。
・平日仕事、土日は家のことで心のリフレッシュができない
・母親の心身の状態を癒やすサポートや、その面で、体は栄養不足から、イライラ、つかれ、ストレスが起こるので、そういう話を聞いたり、発信してほしい。

・友人がたくさん集まり家みたいにするレンタルスペースがあると助かる。時々お弁当配達サービスとかも助かる。
・親がリフレッシュできるようなサポート。兄弟がいれば一緒に預かってもらえるようなところが多いといい。(例えば0歳と2歳を一緒に預けられるような子育て交流広場等)お茶を飲みながら他のママさんたちと話せる場所づくり
・少し預かってくれるところが欲しい。たまに周りが忙しくて、一人で1才2才の子供+15才の反抗期の相手をしていっぱい泣いてしまう時がある。お茶一杯でいいので一人になる時間が欲しい時があるため
・産後ケアのホテルのようなものが欲しいです。

【子どもの習い事】

・習い事の送迎サービス
・仕事と子供のしたい事(習い事)の両立ができない。送迎サービスがあると嬉しい。
・習い事に関する情報がほしいと思う。(良し悪し、金額等)
・幼児向けの習い事やイベントの開催
・習い事が市内で何があるか分からない
・いろんな事にチャレンジさせてあげたいので体験できる所を作ってほしい。(ピアノ、プール、英語etc)何に興味をもつか分からないので…
・大野には習い事が何があり、どのような内容なのか一覧などがあれば選択肢が広がり子どもの未来が広がると思います。
・習い事の費用を助成してくれる制度

問12 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

【送迎・移動支援】

- ・送迎(園)があると、下の子が病気の時に助かる
- ・習い事のそうげいサービス
- ・仕事と子供のしたい事(ならいごと)の両立ができない。送迎サービスがあるとうれしい。
- ・送迎サービス
- ・こども園への送迎
- ・保育園の送迎サポート
- ・習い事の送りむかえの支援(まちまで遠いため)
- ・私の家は近くに祖父母がいるお陰で特に保育園や学校のお迎えや習い事への送迎に協力してもらえて助かっています。そういった協力が無い方にも何かしらのサービスがあれば助かるのでは…と感じます。
- ・学校や習い事の送迎で大忙しです。
- ・習い事の送り迎えが難しくて習い事をさせられないことがある
- ・習いごとをさせたいが、金銭的なサポートや送迎のサポートがあると助かります。

【その他】

- ・小学就学での区域指定が柔軟に対応してほしい。(サポートというより制度の見直し)。有終東→開成中へ行く子供も少ない。
- ・教育に関する費用(教材、制服等)をもっと支援してほしい。支援の方法も分かりやすく簡単にできる方法を考えてほしい。
- ・子どもと一緒に学んで遊べるようなところの案内があるとよいと思う。
- ・スポ少や部活動の試合に行く際、親ではなく地域のサポート(バスなど)があると助かります。マイクロバスの免許がないと運転できない。
- ・子供の遊び場が少ないので充実していると有難い
- ・市の男女共同参画、ジェンダー平等に関する事業を充実させると良いと思います。

このページ以下余白

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援についての意見(自由記載)

【見守り、相談支援、交流】

・実家に妊娠中帰省した時に、姉と生活が合わず家を出る事となりました。極度な健康志向で携帯をポケットに入れても電磁波が子供に良くないやスーパーで買った物は全く食べさせてもらえなかったりしました。相談相手がおらず困っていた時に、大野市の保健師さん達には助けられました。産後に訪問して下さった方には、今でも会うとお話したりしています。実家の父がもう少し、産後、産前の事などに理解があれば、守ってくれたのかなと思いました。

・私は小さな子どもが2人いる中、単身赴任でいない夫のため、ほとんど1人で子育てをしているので保育園の役員を免除してもらい助かっている。しかし、コロナ禍で生まれた2人なので、園で他の親との関係がほぼない。送り迎えで顔を合わせる程度でこの5年間、他の母親との交流はない。子どもたちも2人で遊ぶ以外、友達の家に遊びに行ったことがない。

・昔すごく悩んでいたことを、子どもの定期検診の時に保健師さんに相談したときに「そんな気にしなくてもいい」というような発言をされたり、はっきりした対策・アドバイスももらえず「あ、言っても無駄だな」と感じたことがあります。私はその後もずっと悩みましたが、なんかそれ以来、相談するのが嫌になりました。もっと寄り添って話を聞いてくれる環境があるといいのかなと思います。心に寄り添うのが難しいなら、もっと経済的な支援がほしいですね。

・父親が育児休業を取った際に、同じ悩みを抱えている人の集まりの場のようなものがあると良い。

・子どもが産まれる前に知っておくと良かったと思うことが多々あるので、事前学習ができる講座や講演会(オンライン可)、動画等があると良い。

・子ども自身が相談できる人や場所(家庭や学校以外)の充実、子どものセルフケア教育

・市の育児相談会や健診などスタッフが素晴らしい対応をしてくれている。消防署の方が子どもの病気やケガの対応を教えてくれた。夜間や119番の判断などとてもありがたかった(参加した妻より)2ヵ月児の時の相談会？

・教育相談をしても、結局、話を聞いてもらえるくらいで、具体的な対策や合理的配慮がなにもなされていない。

・母乳外来など助産師から受けられるサービスや相談先がないので作ってほしい。

・子育て支援センターは土・日・祝も開いてほしい。

【子どもの居場所、預かり】

・難しいとは思いますが、病児保育を大野市で充実してほしいです。施設はあっても受け入れが難しく、勝山まで通っているのでも...

・病児保育が出来る施設をもっと増やしてほしい。

・児童センターの利用について、祖父母が75歳未満の場合でも申し込みを許可して欲しい。その上で優先度が高い家庭が多く定員で入れないのなら納得できる。定員に余裕があるなら祖父母のいる家庭でも利用を認めて欲しい。

・共働きなので、小学校に進学したとき、放課後教育、夏休み等の長期休業中の、子どもの居場所が心配。家庭でみたくても働かなければならない場合、子どもが安心して過ごせる場所がないと、母親である女性が活躍できる社会にはならない。祖父母も高齢になる中、低学年の子どもの居場所がほしい。(有料でも)

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・1歳～3歳くらいの目が離せない歩ける、走れる子どもと買い物が非常に大変で、短時間見ていただけるサービスがあると嬉しい。また、“土日は利用できない”“事前に予約が必要”などは働く親にとって不便です。子どもがもっと小さい時に配布していただいたチケットで短時間子どもを見てもらおうと思いましたが、予約が必要だったので電話したところ、今日は人手不足で…と断られたこともありました。せつかくのサポート体制なので充実させていただければもっと利用できたのになと思います。

・小学校就学後、児童クラブに入るには「祖父母も働いている」「同じ地区に住んでいない」などの条件があると聞きました。世帯は別の場合、父母が主に子どもの面倒を見ているので、条件の改善をお願いしたいです。仕事復帰後が不安です。

・放課後児童クラブについて、低学年の頃から利用回数を減らすことや保護者の休みの時等について圧があるように感じます。親も自分の受診等の用事もありますし、校区外に祖父母がいても支援を得られない環境もあります。もう少し延長していただけるともっと安心して働けるのにと感じます。フルタイム勤務で園とクラブのはしごは結構厳しい時があります。

・学校から児童館まで道のりが不安です。学校内に児童館のような低学年の子が17時～18時まで滞在できるようにしてほしいです。

・長期休暇の時の児童館利用で4年生までと言われた。6年生まで児童館を利用したい。子供を1人家に残して仕事に行くのは不安。

・大野市の病児保育を利用しようとしても「コロナ」じゃないとなっても熱があるとみてくれなくて、勝山まで行かないといけない。1日2～3人なので、入れない時ばかりで、仕事休むことが多いので、なんとかしてほしいと思います。それが一番困っています。

・(保育料無料なのに) 病児保育も無料にしたほうがいいと思う

・小学校入学後、長期休みの時に児童センターに入れないのは困る。保育園じゃないから全員は無理なのは分かるけど、義実家に預けるのも気が引けるし自分が嫌。

・保育士がいる病児保育サービスを市内で受けたい。
(保育園は18時すぎまでみてもらえるが低学年は昼すぎに帰ってくることもあり、「小学校の壁」といわれているくらい仕事との両立が難しい)

・1年生の夏休み、冬休み、春休みをどう過ごさせるか不安。

・放課後児童クラブは利用したい人はだれでも利用できるようにしてほしい。祖父母も就労しているが、利用条件をわずかに満たさない時間に帰宅するので、利用できず、困る。祖父母も時期によっては農業もしているの、実際下校時みてもらうことがむずかしいこともある。また、仕事が遅くなったり、子供の下校が早い日などがあると、必ずしも子供をみていられないときもでてくる。もっと誰でも児童クラブを利用できるようにしてほしい。学校に併設してほしい。

・下の子(0歳)、上の子(5歳)で働きたいと思うが、病気で休むとなると、2～3日休むだけでは治らない。咳の症状が長引くことがあり、2週間休まないといけないこともあり、職場に迷惑を掛けると思うとどうしたらよいかと思います。実親は県外、義親は仕事をしている。病児保育もそう何日も預かってもらえないと思う。上の子と下の子と病気が移ったりすると、また休む日が増えたりと、申し訳ない気持ちになる。無理なく働けるとありがたい。

・小学2年生の子どもが北部児童センターを利用していますが、学校から結構距離があるので、できれば小学校の空き教室を利用して頂けると良いと思います。以前1年生の時に児童センターから「来ていない」との連絡あり、その時は寄り道して遊んでいたそうで、学校の先生にも児童センターの先生にもとても心配されていました。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援についての意見(自由記載)

・児童センターは、低学年の時に利用することが多いので、校外への児童だけの移動はできるだけ最小限にして、道中でのケガや事故を防ぐためにも検討して頂きたいです。

・大野・勝山に病児保育がどこにあるのか。どのように対応しているのかをチラシ又はHPでおしえてほしい。

・土曜、祝日休みがなかなかとれない中で、土曜保育や土曜日児童館を利用する他の子がいなくてとても気をつけてしまう。利用料も払って毎回お弁当も作っているのに毎回嫌な感じがする。・児童センターの利用をもっとしやすくしてほしい。家に祖父母が在宅しているなら利用できない等々、縛りがきつい気がします。

・祖母に子供を預けることが多いのですが、公民館などの施設で勉強、遊び、いろんな交流のできる場がもっと多くの子供が対象になって連れて行きやすくなるといいと思います。

・下庄小学校から北部児童センターまで遠すぎます。まだ通っていない今は毎日無事にたどりつけるか不安しかありません。経済的にも今後の事を考えても共働きで働くしかありません。児童センターに行ってもらえないのです。

・病児保育が充実してほしい。栃木医院での1日2人制限や昼食は冷えたおにぎりを食べているのはかわいそうだと思う。

・コロナ禍でなかなか病児保育の利用ができなかった。連続して仕事を休む事にストレスを感じてしまうため病児保育などの支援を充実させてほしい。

・夏休みや冬休みの長期休暇期間の子どもの預け場所のようなものがほしい。小学校低学年、中学年までは家にひとりで居させることができない。仕事の都合もあり、長期の有給休暇は難しい。保護者の親(祖父母)についても高齢で対応が難しい。なので、夏・冬休み期間に子どもが安心できる居場所が欲しい。

・気軽に一時的でいいので子どもを預ける施設があるといい。あるのかもしれないが情報がなく、よくわからない。

・いつでもすぐに利用できる病児保育園を設置してほしい。

・現在、まだ育休中です。週に2～3回結とびあの子育て支援センターへ伺っており、他のお母さんや保育士の方と情報交換できています。ありがとうございます。ただゆくゆくは小学生になると午後6時頃まで学童に入れてもらう必要が出てくるかもしれないので、その点が不安ではあります。

・児童館の長期休暇中の利用も料金の負担なしにしてほしいです

・祖父母もフルタイムで働いていて、父母もフルタイムで働くしかないので、子供を家庭で見ている時間がない事への不安 物価高、電気料金高もあり、支出ばかりが増え、働くしかない現状に、小学生になったら子供(ひとりっ子)は、どのように平日、長期休日を過ごすかの不安がある制度しかない

・下庄小学校の近くに児童館を作してほしい。道中、川があたり線路があたり距離が長すぎる。

【健康・発育・発達】

・大野市には放課後デイサービスの制度が少ないように感じます。通常の児童センターに行くのが困難な子供の放課後、夏休み等の長期休みに利用できる施設がもう少しあってくれたらと感じます。

・土曜日の午後に開いている小児科があると助かります。子供がぜん息になった時に福井まで行かなければならなく、サチレーションが低いときに困っています。

・あと関係ないですが、大野市に小児科専門があつたらなあ…といつも思います。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

- ・子育て環境として病院が少なく急な発熱時等では診てもらえず福井市の病院まで行ったことが何度もあった。
- ・本人の兄が障がい児です。放課後に預けられる施設が勝山で本人が学校に行きだすと大変だなと思っています。(迎えの時間など)「えがおの教室」のような所が増えるとよりいいなと思います。
- ・小児科医が大野市、勝山市でも数か所しか病院がない。また大野市、勝山市の小児科医も高齢な方が多く、病院やクリニックをやめてしまうと、子どものかかりつけ医がなくなる。将来を見すえて、今からでも小児科医の招致等に力を入れてほしい。
- ・関係ないかもしれませんが、奥越地区の病院のお医者様が皆さんご高齢なので、将来の医療環境をどう整えるのか非常に心配しています。
- ・子供の発熱外来の受付可能時間、人数、医療機関を増やしてほしい。
- ・急患センターの内科の先生の診療時間の延長
- ・予防接種の集団接種希望
- ・安心して診てもらえる専門の小児科のDrがない。日曜日の休日急患センターの小児科Drの方が安心できていい。
- ・夜間に対応してくれる小児科がほしい(休日急患は休日しかやってないため話にならない)平日の夜でも対応してくれる病院。
- ・とにかく大野で子どもが病気、ケガをした時、どこに連れて行けばいいかわからない。少し体調が悪かったり皮膚科に見せたい時、病院がないことに困りました。市外でもいいので具体的にこのような時に行くとい病院など教えてほしい。市外から来た人は特に分かりません。
- ・市に小児科専門の病院の充実。大きな総合病院が市にあると安心して生活していける＝保育環境の充実につながる結果。人口も増え子供同士の競争が生まれ教育の充実につながる
- ・小児もみてもらえる皮膚科や小児科などが少なすぎ、また信頼できないところが多くある。

- ・大野市にもっと良い小児科ができるといいと思います。難しいでしょうが…医療費が無料は本当にありがたいですが、子供が急に熱を出して診てもらいたくても診てもらえず、勝山や福井まで行くと診てもらえます。なぜ??大野ではダメなのか?周りのお母さん方にも同じような方が沢山いました。期待はしていませんが、大野市に良い小児科ができたらな。と思っています
- ・小児科の数も少なく不安。現在、かかりつけの病院の医師も高齢で今後が心配
- ・子どもをたくさん産んでもらう政策や支援をして頂いているのはありがたいですが、その一方で小児科の減少や発熱外来の予約制限等で体調の悪い子が長い時間またされたり、その日に診てもらうことができず、翌日になったりと子ども(小児)を診て下さる病院がなく都合が悪いなと思うことが多々あります。
- ・平日の夜に体調不良になった時に、福井市の急患センターまで行かなくてはいけないので、大野の方でそういう診てくれる所があるといいと思う。
- ・夜間対応の病院・総合病院が大野にあれば急な時に助かります。子どもが出産の時に大野から福井まで行かなければならなかったのが、3度経験しても大変だなと思いました。子どもが頭をケガした時に、大野の病院では診られないと言われた時はショックでした…救急隊の方が福井まで運んでくださって助かりましたが、近くに受け入れ場所があればいいのと思いました。

【保育】

- ・3人目を産んでも希望の保育園に入れない。
- ・お盆や正月、長期休暇も保育してもらいたい

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・第2子の育児のため育児休業を取得していますが、それにより上の子が短時間保育となっています。自宅にはいますが乳児の面倒を見ることが手いっぱいでもあります。夫が仕事から帰るまで1人で2人の子どもを見るという負担が大きいので、育児休業中でも通常の保育時間で対応していただくと大変ありがたいです。

・保育後(16時以降)に外部講師による習い事のサービスが各園であったらいいのと思う。フルタイムで仕事をする予定だが、そうすると平日の習いごとは不可能になるので…フルタイムでも仕事をしやすいのと思う。

・昨今、教育者や保育者の職につく方のニュースで「人が足りない」というのをよく見ます。大野市の教育・保育環境の「人材」は充実しているでしょうか。息子が入園している先生方はいつもあたたかく息子に接して下さり、細かく見てくださっています。いろいろな行事をさせてくださいます。本当にありがたい限りです。けれどもおそらく大変な準備が必要なのはです。それをいつ準備しているのか。日中は保育業務があるはずなのに。超有能なのか、はたまた持ち帰られて仕事をなさっているのではないかと。休みも取れているのでしょうか？そうであったら申し訳なさすぎます。

・こども園の方では、私が仕事中は安心して見てもらえるので保育教員への何かそういうものを考えてもらえると保育の質等もさらに上がるのかなと思います。市外から大野へ来たので保育の質や教員さんへの子どもの関わり方は市外より手厚いと感じております。(子どもの量の違い)市内の小学校へ通うのも楽しみです。

・保育士に対する専門的な知識の研修等を行ってほしい。ベテランが多いが知識等がアップデートされているかどうか気になります。研修したことを保護者に伝えることで保護者も安心するのではと思います。

・保育士さんが余裕をもって、子どもに対応できるよう、人や給料を充実させてあげて下さい。園での時間が長いので、子どもたちにとっていい環境にすべきです。先生も研修や勉強に十分行けるように、先生たちの環境を整えてあげて下さい。

・保育所のパンフレットには朝7時～夜7時まであずかり可能と書いてあるが、実際は夕方6時までには来てほしいと言われた。(友達が帰り、うちの子どもが1人になってしまう為)フルタイムで福井市まで仕事に行っていると、帰りがまにあわない。働きたくても働き方を変えるしかなくなってしまう。子どもが1人になろうがあずかってほしいと思った。

・保育園の土曜日の利用も通常化して頂けると親も働きやすくなります。保育所、朝から数えて8時間しか預けられず、仕事を変わりました。昼から夕方にかけて働いていたため、時間的には短時間保育とされ、実際には迎えに行かなくてはいけない時間にはまだ就労時間のためです。就労時間を加味して預けられる時間を考えてもらいたい。

・保育園で預かっている時間が短いため少しでも自分の時間が作れない。保育園でも認定こども園のように自分でなんでもできるように自分で茶碗にご飯をよそうことや自分で今、何をしないといけないのか考えて行動するような生活になるといいなあと思います。

・保育園でおむつを持って帰ってくるのやめて保育園で捨ててほしいです。

・保育園のことで不安が多い。子どもが風邪をひきやすいことでちょっとしたことで連絡があったり、先生の言い方に不安を感じる。下の子の面倒もあるので、ちょっとしたことなら連絡されても大変

【家事や育児の援助】

・色々支援はあるがお金が掛かると利用しにくいので無料だと利用しやすいです。支援を受けたいと思うがどういふものか分からないので利用しにくい。(家事代行、ベビーシッターとか)

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援についての意見(自由記載)

・ベビーシッターの方がいると助かります。私は双子を育てていて、大野にも結構双子いるんですけど、公園が危なくて、行きたいのに行けない。木とかで囲いはしてありますが、1人で遊ばせようと思っても2人の小さい子は1人でみれない！！柵などで囲ってあると、あぶなくなくて、助かります。大野＝安全でなくて、小さい子でも遊べるようなスペースがあってほしい。どこも行けない。行くなら福井になってしまう。

・友人のことでありますが県外に在住していましたが母親が病気になる、余命あとすこし。子どもが3人いて実家に戻り母親との時間を過ごしたかったが子ども3人を1人で育児しながら母親の介護は負担が大きくて断念したことがありました。何かしでも援助できることがあったらよかったと思いました。

【子育てと仕事の両立】

・もう出産は最後なので遅いかもかもしれませんが、育休期間を1歳半～2歳までのばせると良いと思います。1歳では早すぎます。

・育休の手当があるのは1年で、その後、3年まで延長することができるが、経済的なことを考えると長く取得するのは難しい。しかし、仕事柄、年度途中で(1年びったりで)復帰する人はあまりいない。そのことを考えると保育園の入所は希望していないが、育児休業給付金延長を認めていただきたい。他の市町ではそのような申請を柔軟に対応してくれていると聞いたので第2子以降を考えるにあたり大野市でもご相談に乗っていただけたらと思います。

・子育て世代への理解があまり職場で得られず、辛い思いをしている方は多いと思います。企業全体で子育て中でも働きやすいように、そして今後子供を育てながら働きたいと思うような環境になればと思います。仕事と子育ての両立は本当に必要ですか？育休はもっともっと必要。1年～3年じゃ少ない。

・年間休日120日以下の労働環境の改善、労働相談所の曜日を増やしてほしい。

・子供が病気になると2・3日休まざるをえないことへの理解がない。仕事も休みずらく、一時預かりが出来る施設を増やしてほしい。子育て世代に働きやすい会社を市のとりくみでもっと増やせるように企業とのかけはしになってほしい。

・フルタイム、正社員で働きたいです。子どもに十分な教育や生活をさせてあげたい。義務教育が終わった後の大学等のための貯金をしたい。しかし、ひとり親であるため、まわりの協力もあまりないため、正社員が厳しいです(休むことが多くなったりするため。家事育児を1人でやっている。)。親が働きやすくなるための支援をお願いします。

・子どもが体調不良の時に仕事を休みやすい環境作りをしてほしいです。

・子どもが病気になった際の休みやすい職場環境づくりを支援してほしいです。

・子ども1人1人のことをみてあげたいが就労で時間がとれていない。自分の休み希望は子どものことに使っている。自分の時間が持てないのも仕方ないし、子どものことをしているのも楽しいが、時々自分がかかっていることに気づく そんな日々です 子育てや教育にはお金がかかるし、就労の必要性もあるのが現実……。子どもとの時間をもっとつくりたいと思う時に仕事とのパワーバランスが悪いことに気づくが転職にふみきれない。

【情報発信】

・大野市はコレ！的な部分を市民にアピールしてほしい

・まず大野市が何をしているのか分かっていない市民が多すぎる。

・習い事をするに当たり一部補助してもらえたり、子育てや教育に関してHPなどそこを見ればいろいろな情報が載っていると助かります。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・子連れに優しい店舗や施設の情報を発信してほしい。
・神奈川県から大野市へ移住してきました。子どもを連れて遊ぶ施設が分からず、子育て支援センターとちつくたくしか行けていません。もっと色々な施設が分かるように教えてくれるところなどがあればすごく助かります。

【経済的支援】

・収入が少ないため、子どものやりたいことができない、買えないなど困ることがある。経済的支援があったらと思う。医療費がかからないことは、とても助かっている。しかし新しい土地で仕事を始めるには難しく失敗。多額の借金と税金の支払いに追われています。Uターンしても、開業しても、どの補助金にも丁度当てはまらず大変きびしいです。東京生まれの夫が大野で一緒に子育てしてくれるのは本当にありがたいと思います。大野は他県と比較するとまだまだ閉鎖的だと思います。
・保育料無償化や医療費の無償化の取組も継続してほしい。
・勝山市では第1子から保育料が無償化され、東京都では高校授業料無償化と聞かため、大野市もそのように取り組んでほしい。
・国の大学授業料無償化についても、18年以上先持続可能な施策を行ってほしい。
・給食費も3人目から無料ではなく2人目からだとならうれしいです。
・習い事も制限なくさせてあげたいので支援があると助かります。
・保育料を安くしてほしい、ワクチン代無償など、出産費用を安くしてほしい、習い事助成などで経済負担減
・保育園の無料化
・学校の制服、体操服の値段が高すぎる。児童手当を増やしてほしい。
・子育てに対するたくさんの支援や補助があり大変助かっています。ここ数年は感染症で負担が大きくなっているため、もう少し落ち着くと子育てしやすい環境になると思います。

・ひとり親家庭ですが祖父母と同居のため、助成がうけられず、生計が一緒と見なされ困っている。世帯分離はしており、生計も全く別なのに、キッチン、お風呂が同じだと助成の対象にならないとのこと。収入もパートなので10万円以下。(子どもとの時間を確保するために16:00までの勤務にしています)同じひとり親でも同居者がいることでここまでの差があるのはかなり苦しく思います。
・もっと子育てをしている家庭へ金銭的な援助をどんな形でもしてもらえるとありがたい
・低所得世帯や一人親世帯以外でも子育てにはとてもお金がかかります。物価も高騰して家計も厳しいです。金銭的理由で子どもたちの「やってみたい」ことをつぶしてしまう未来にはしたくないと思います。
・子育て世帯の減税(住民税、年金等)、所得税の減税、保育料無償化
・たくさん子どもを産んで育てようと思うとお金も体力もいります。経済面はもちろんのこと、子育てがしやすくなる環境を整えて頂けると嬉しいです。
・特に双子はお金がかかります。何らかの補助、援助して頂きたいです。2人のうち1人は制服、体操服無料など。(ランドセルも大野みんな同じでいいと思います。差別もなく重たくない黄色のランドセルで。)4月は特にものいりになります。節目節目で何かしら頂けると子育てしやすいのかなと思います。
・うちの子は第4子ですが上の子と歳が離れているため第1子となってしまいます。それがとても残念です。年が離れた子供にもきちんと手当がもらえるようになってほしいです。
・育休、時短の時の給料を増やしてほしい。
・市の子育て支援には充分助けていただいており、感謝しております。子供がふえると、家計にも負担があり、心配な部分もありましたが、保育料無料化や医療費の無償化には助けられています。時代の変化とともにみんなが住みやすく、助けあえる地域をめざせたら…と思います。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・子どもが熱を出した時、有給を使用するが、有給がなくなると欠勤になってしまい、給料がへってしまい、生活が苦しい時があった。看病休暇もとれるが無給だと言われ、去年は有給がなくなってしまった。子どもが3人いるので毎回休んでいると有給がたりない。自分しか休むことができないのもっと金銭面や休日面、土曜祝日いろんな面でもっと支援してほしい。土日祝日が休みな人ばかりではないことを理解してほしい。子どもが増えるたび多方面で負担が大きい。

・子供手当の金額を上げてほしい。

・子育て応援の給付金が勝山は多いのに大野は少ない。

・物価高で賃金が上がらず苦しいので、もっともっと金銭面の問題を助けてほしい。

・第2子、3子を産みたいですがやはり経済面が不安です。空き家の一軒家も賃貸を増やしてもらえると嬉しいです。(アパートは手狭なため)

・スーパーなどで使える商品券の充実希望です。

・低所得でもない、ひとり親でもない普通の家庭でも金銭的支援や免除等の改善やサポートも必要だと思う。

・給食の費用を1人目から無償化してほしいです

・子どもの医療費が無料なのはありがたいです。安心して病院につれていくことができます！なるべくながく続けていただきたいです。

・土・日は支援センターなどがお休みになり、遊ぶ場所で困ることがあります。外に連れていくとお金の発生するところが多いので無料で開設している場所や施設が増えるといいなと思います。

・物価が上がる中、多子世帯への補助があると安心です。習い事にも、多くのお金が必要になります。

・非課税世帯ばかり経済援助されているのが不公平で不満。同じ人間ですから皆公平に援助、支援して頂きたい。一生けんめい働いて多額の税をとられている方にこそ減税etcするべき。

・子供が3人以上いる家庭への支援をもっと手厚くして頂きたいです。

・満1才～保育料を無料にしてほしい。(教育)

・経済的な支援があれば、生活だけでなく親の心のゆとりが得られ、子供への対応や学習への参加など(宿題をみるなど)にも影響するのではないかと思います。

【自分のため、リフレッシュ】

・平日はフルタイムの仕事、習い事の送り迎え。休日はスポ少。有給は子どもの行事・看病で消え、なかなか自分の自由時間が取れない。子育て中なので当たり前だが、毎日目まぐるしい日々を送っている。もう少し子どもが大きくなったら、自分の為の時間が作れるのかな～と期待しています。

【子どもの習い事】

・子供の送迎サービスや補助があるとたすかります。仕事が忙しくて習い事をさせられない。

・習い事をさせたいがネットで探してもいまいち情報がないです。まとめて見れるサイトがあればうれしいです。ママ友からの情報しか入ってこずもっと情報がほしいです。

・障がい児(発達障害)が、習いやすい習い事があればと思います。

・習い事の種類の数が少なく、選択肢がない。結局福井市内まで通わせている。

・体操を子供に習わせたいが大野になくとても不便。

・習い事の費用の経済的支援があるとうれしいです。

【送迎・移動支援】

・無料スクールバスを増やす(小学校・中学校)

・子供の送迎サービスや補助があるとたすかります。仕事が忙しくて習い事をさせられない。

・公共施設へのアクセスのしやすさ。子どもの移動の問題

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

【その他】

- ・正直なところ、地域社会と行政がこの街で住民をどのように養っているかについては満足しています。より良い方向に向かうことを期待しています。ありがとうございました。
- ・少子化の中、もう少し子育て世代への支援をしてほしい。
- ・学校での、いじめや生活の声かけをしてほしい。(今の子は、いじめの内容がひどい。)
- ・公園遊具の充実や管理、遊び場の充実
- ・地域ぐるみで子育てをするような行事等の企画をお願いしたい。
- 休みの日、夕方に公園に行きたくても車で行く方法しかなく、ちょっと行けるところに全くない。田舎な所に必要かとなるかもしれませんが、近くにあるとありがたいと何度も感じます。(すべり台1つもありません)
- ・遊び場楽しみにしています。早く完成するといいですね。
- ・兵庫県明石市の取組みを大野市でできることがあればとり入れてほしいです。
- ・大野は子育てしやすい所だと思う。
- ・諸費、絵本代などを現金でなく引き落としにしてほしい
- ・大野市の子育て支援には非常に感謝しております。ただ、人と人の距離が良い意味でも悪い意味でも近いため、「知人がいるかもしれない」「迷惑はかけられない」という思いで公的機関等へ悩みを相談しにくい側面はあるのではないかと思います。こども家庭庁には怒りと失望はありません。子育てのことを考えているとは全く思えない。年少扶養控除を復活させてほしいし、支援金という実質増税は本当に要りません。親(大人)の心の余裕が子の健やかな幸せにもつながると思います。現実的には心の余裕はお金の余裕という面もあると思います。国がまずは減税してはどうかと思います。
- ・屋内遊技場期待してみます。

- ・大野市の子育て支援や教育はとても充実していると思います。
- 20~30年前に今のような支援がなされていたら、昨今の人口減少、少子化も少しは和らいだのではないかと悔やまれます。「こどもまんなか」社会の実現に向けて取り組む市を応援します。頑張ってください。
- ・保育料が高く、早く仕事復帰をしても多く保険料を支払うことで復帰せずに家でみた方がよかったのかと思うことがあります。そうしたら家庭育児給付ももらえるし…勝山がうらやましいです。
- ・市内と市外の子供のあつかが違いすぎる。市内の子は平日も土ようびも長期休みも同じ所へ行けるのに、市外になると土ようびはなし、長期は町へ行き違う所へ行かなくては行けない。うまく適応できない子を持つ家庭は仕事もできないと思う。本当にあずけたい家庭があずけにくい状況になっている。このアンケートもとてもわかりにくいし、長すぎる。
- ・放課後教室も、「スイミングのバスに来てもらうので、出してもらえますか？」と聞いたら、「そんなものの為に放課後教室は利用してもらえません。」と言われました。その少しの時間がむかえに行けないから、放課後教室に行っているんだと思うのですが？結局また、親の負担が増えるだけです。大野市が子育てにやさしい街だと言っていますが、私は全然思えません。
- ・自然をとおして色々なことを学べるイベントがあると大野の良さを感じつつ経験も増えていいな～。
- ・PR不足 問33に出ている策も多すぎて全てを行うってよりも、1つ1つを充実して、そんなたくさんしなくて良い
- ・雨の日などにも利用できる遊び場が増えるとうれしいです。
- ・大野市に頼れる親族がいないので、子育てを気軽に頼れる存在があるとうれしいです。都会では得ることのできない、田舎ならではの環境で生きる力を身につけて、自由な発想、それをアウトプットできる力をつけてほしいです。田舎で育ったけど、日本っぽくない人に育ってほしい。第2子の無償化等、助かっています。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関する意見(自由記載)

・市長含めて、大野の職員に期待はしていない
・年々、大野市の子育て支援は手厚くなっていると感じ、とても心強い
です。ありがとうございます。子育て支援の一つ一つについて、まだ認
知されていないと感じることがあるので、必要とされているママさんに、
丁寧な案内が必要かと思います。もう1人産みたい、でも経済的や子育
ての手が足りないと不安に思っている世帯が安心して子どもを産める
ような支援をぜひお願いしたいです。市の子育て支援について、リアル
な声が聞けるようなママの座談会があるといいです。
・学校区に関する制限、もう少し距離など考慮してもらえるとありがた
かった。校区外の学校の方が近い。柔軟に選べるといいのに…
・特性を理解してくれる専任の方がみてくれる環境があると安心して
まかせられます。
・子育てしやすい環境を整備して子育て世代がすみたいと思えるような
町になるような政策をたくさんやっていって下さい。
・公園、小さい子が遊べる遊具が少ない。公園に駐車場がなく行きづら
い。屋内施設が少ない。
・私は大人になって「自分は幸せだ」と感じられる人間になってほしい。
学校間の競争に子どもを巻き込んでほしくない。もっとおだやかにのび
のびと育てる環境作りをしてほしい。祖父母世代の理解が古い。
・子どものための本当の公園が少ない。
・学校を集約しておいて、一方で、中心外の人口減少を政策課題にする
のはおかしい。もっと外へ外へ町作りを広げるべき。豊かな自然がいっ
ぱいある。学べるものがある。
・子ども用品をそろえた店がなく(西松屋やバースデイなど)福井市まで
出ないと買えないのがきつい。
・仕事をしている母親がほとんどだと思うので、バランスの取れた夕食
を親子で食べに行ける「子ども食堂」みたいなのが大野にもあるとうれ
しい。

・自営業をひとりでしている女性は出産になると育休産休を少ししかと
れないので、(1年取るとなるとかなり収入がなくなる)なにか保証が
あったりすると子作りにも積極的になれるのではないのでしょうか。
・雪が降ると遊ぶ場所が限られてしまうので近々できる室内の遊べる施
設を楽しみにしています。小さい子も安心して遊べる様、年齢ごとに遊
ぶ場所をきちんと分けるなどルール作りもしっかりして欲しいです。
・子どもを連れて外食もしやすい様、おむつ替えスペースやこども用イス
などがおいてあるお店がもっと増えて欲しいです。ファミレスがあると
気軽に行けていいです。
・子どもが県外の病院に通院しているので、大野で高度な医療が受けら
れたら負担が軽くなると感じています。
・通学路の安全確保(特に降雪時)、街灯の充実、監視カメラの設置
・室内の遊び場が少なく、天気の良い日など困るのもっと何かしら
作ってほしい。
・子どもが楽しめる施設を増やして欲しい。
子どもが遊べる所が少ない。子どもの進学先を自由に選べると良い
(小・中学校)
・エキサイト広場が無料開放されているが土日もつかえるようにしてほ
しい(土日は大会などがあり利用を断られた)”
・アンケート結果をしっかり反映してほしい。
・各公園にごみ箱、トイレ
・アンケート項目が多い。時間がない中こんなに多く答えられない
・中部縦貫道が通ったことにより過疎化が進む勝原地区などに自然と触
れ合える施設があるとよい(勝原キャンプ場は近年治安が悪化しており
利用しづらくなってきた)
・小学校を選べる権利。閉校する予定の小学校に入学させて途中から大
きな学校へ入学なんて残こくすぎる。いじめがおきたら責任とってもら
えるんですか？その保障は？

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・子供という割に屋内であそべる施設がない。
・小学校校区について地区ごとにきっちり分けるのではなく、もう少し自由を選べるようにして下さい。地区の関係で、保育園で一緒だったお友だちが1人もいない学校へ6才の子を通わせるのは、不安が大きすぎます。もう少し、各家庭の事情に寄りそって下さい。お願いします。
・誰もが安心して子育て出来る環境づくり・支援をお願いします。他県・市の取り入れている支援・政策も参考にして頂けたらと思います。
・職員の働き方改革は良い事ですがPTAの親負担もまだまだ見直しが必要。いくら前もっての会もあるが、子供の状態によっては欠席したい時がある。小学校も含め、PTA的な活動ももう少し縮小する必要があります。(地区ならびに学校区の集まりも減らしてほしい)
・大野に関心をもち、大野に住むことに誇りを持つような大人になるように、将来大野に住みつづけるような大野市づくりをしてほしい。
・家庭での育児をする上では、手厚いサービスが受けられると思う。ただ、職場社会で”こどもまんなか”が浸透しているとはいえない。子育て家庭だけではなく、社会全体に”こどもまんなか”だというメッセージを発信し続ける必要があると思う。
・小学校、中学校の統合による登校、下校に関してかなり不安あります。・市の中心部は問題無いが、その他の地はどうなっていくのか不安です。
・体育館に出来る全天候型施設楽しみにしています。
・子供達が健やかに成長できる環境づくりはあたりまえです。各家庭でも教えないといけないかもしれませんが、子どもが自分で身をまもらなければいけない時があることを想定した防犯や性への学びの場をしっかりと持つべきかな？と思います。
アンケートをとったところでしっかりと意見は反映されているのか。質問が分かりづらく答えにくいものが多い

・子供の遊び場が少なかったり、規模が小さい。
・仕事などの関係で大野に住むしかないで住みやすい、福井市内に行かなくてもよくなるように発展してほしい。
・阪谷地区在住ですが、いろいろと不便です。子育て世代も阪谷を離れ、子どもも減り、学校をへ閉校せざるを得ない状況になってしまっは、ますます過疎化が進む一方だと思います。大野市街から離れて暮らす子育て世代に支援があると非常に助かりますし、子育て家族が実家に戻ったり移住する可能性もあるのではないかと思います。
・子どもの遊び場を増やしてほしい。
・このようなアンケートがQRコード等でできるとありがたいです。
・屋内遊び場が増えたり、ベビー用品店(西松屋)が増えるとうれしい。結局いつも市外に出て買い物や遊ぶしかない。
・小学や中学校は自分達が行きたいところへ行けるようになると良い。
・子どもが小さいうち(小学校3年生ぐらいまで)は仕事時間の制限がありキャリアアップや昇級が難しい状況です。物価高騰や税金が上がるなか、子どもたちの将来のことを考え貯蓄をしたいなど…。少して生活がうるおえばな!!と思います。
・地域の子供が減っているので子供会とかいらない。特に仲も良くないのでそこで時間費やすより家族で過ごす時間を増やしたい。子供の人間関係なら保育園や学校で自分で作る事が出来る。ストレスでしかない。
・支援学級で各学校に差がないようにしてほしい。臨床心理士など専門職を各学校に配置したり、教員に対する研修等を通して発達障害の子ども達に対する知識を身につけてほしい。娘のクラスにも(現在小3)不登校の子がいるが、全く学校に来ておらず、放置されているように感じる。そういう子ども達も見過ごさず、丁寧なサポートをしてあげてほしい。

問34 教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関しての意見(自由記載)

・各家庭ごとにいろいろ悩みや表面の数字だけでは分からないことも沢山あると思います。でも市の行政のことなので表面で全て判断しないといけないので平等にというのは無理なんだろうなと思います。それなりに幸せだと感じればいいのか～というところに着地しました。自分は少数派だということもよく分かりました。いつもありがとうございます。

・休みの日に子どもと一緒に遊びに行ける場所、一緒に体験できるイベントがもっとほしいです。

・子どもの未来のためにどうぞよろしくお願いします。

・小学低学年で20分以上の通学時間があるのは不安です。

・市内に屋内のレジャースポットを増やしてほしいです。特に冬期は行くところがなく、福井市まで出掛けなければならないです。

・こういった面倒なアンケートはインターネットやアプリを使って回答してもらおうべき。

・オムツを園で回収してくださるようになり、衛生面でもとても感謝しています。来年度からは白ご飯持参もなくなるとのことで、園、保育士さんの負担が大きくなりすぎないか心配です。いつもありがとうございます。

・大野市に小児科がない時点で子育てにおいて優しくない。移住者についての手厚いサポートをして、現に住んでいる子育て世帯へのサポートがないのもおかしい。それではみんなよそへ行ってしまう。県外にあっては大野(福井)にはない遊び場や商業施設がないから、みんな県外に行ってしまうのにそれに気づかないのか？大野市はこどもにやさしくない。よそを見習ってほしい。

・アンケートはもう少し短時間でできるものにして頂けるとたすかります。スマホで5分くらいでできるものがよいです

・中であそべる施設がふえるとうれしいです。

・大野市の子育て支援パッケージは全国的にみても優れたものだと思います。子育てから人口増などの地域振興につながればと思います。

・アンケートをとるだけでなく、ちゃんと実践していただきたい。やっています感のアピールはいりません。

・オムツ台や調乳室などいろんな場所に作ってほしい。

・子供たちの楽しめる施設などをもっと充実させてほしい。雨の日でも楽しめる屋内型や大野の自然を生かしたアスレチックなど。

・室内広場が早くできるといいです。

・家族の中で出産・育児に関する知識の差が多くあると思うので、夫や祖父母に渡せる冊子などがあるといいと思った。母親がしてもらって助かったことや、逆にストレスになったことなど男女、世代間で共有できると助かる。子育てのうつもあるが、そういった家族、親族間に対人うつも多いと思う。ガルガル期、ディーマーなどまわりも母親も知っていれば無知に傷つけたり傷つけられたりすることも減ると思う。

・需要が少ないかもですが…買いもののカート、二人乗りがあると助かると思うことが、多々あります。(1人座る、1人立つ用が他県のスーパーで導入されていて、評判がよいそうです)2～4歳児を3人連れて、スーパーやVIOに行くことがあるのですが、カートでけんかになったり、買いものの出来ずあきらめることもあります…。

・小学生の制服を廃止してほしい。大野市の小学生は登校してすぐに体操服に着替えます。帰日も体操服で帰ることが荷物もふえて洗濯物もふえ、親も子もストレスです。50年ほど前から始まった変な大野文化はよくないです。やめてほしいです。

・農村部に住んでいるので、ルール等で仕方のないことかもしれませんが…。近所に公園とよべるものがありません。車or自転車を使わないと行けない距離なので、子どもは普段、ブランコもすべり台も使えません。ごく近所に小さな小さな公園があってほしいです。



令和6年2月実施

大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学児童)

- 住んでいる地域、家族の状況、育ちをめぐる環境 P31(問1)～P33(問15)
- 放課後の過ごし方 P33(問16)～P34(問19)
- 子育て支援策に期待すること、重要なこと P34(問20)
- 自由意見(問11、問21) P34～P37、P37～P43

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

実施状況

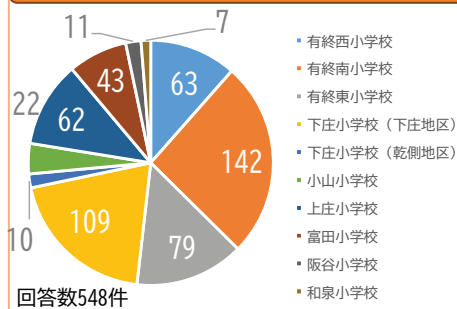
- 実施期間 令和6年2月2日～2月16日
- 調査対象 住民登録のある小学生の保護者（全数調査）
- 調査地域 大野市全域
- 回答数 548件（回答率80.1％） ※小学生のいる世帯684世帯

アンケート項目

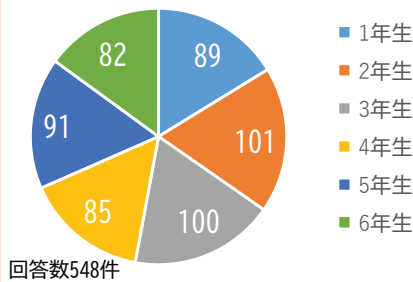
- 住んでいる地域
- 家族の状況
- 育ちをめぐる環境
- 放課後等の過ごし方（希望）

就学児童

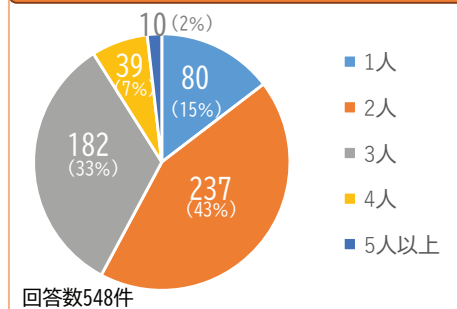
問1 お住いの小学校区(または地区)



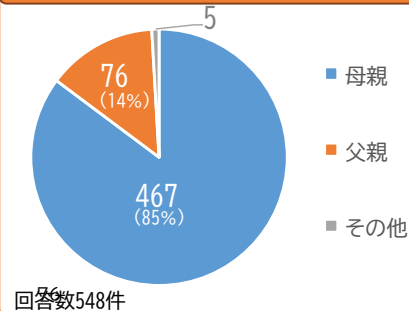
問2 お子さんの学年(令和5年4月1日現在)



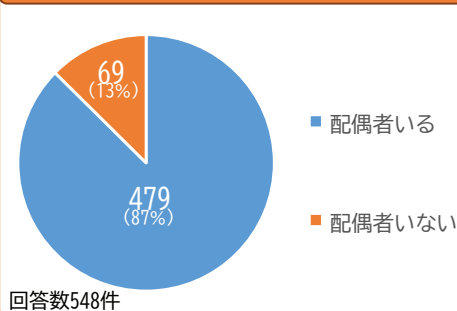
問3 お子さんのきょうだいは何人



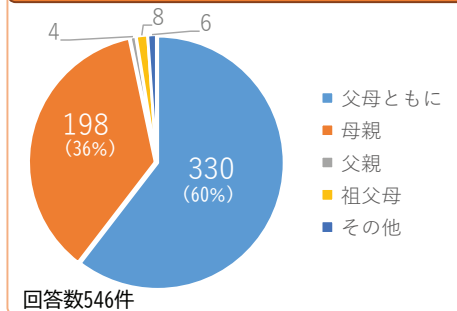
問4 この調査の回答者は



問5 回答者の配偶関係は



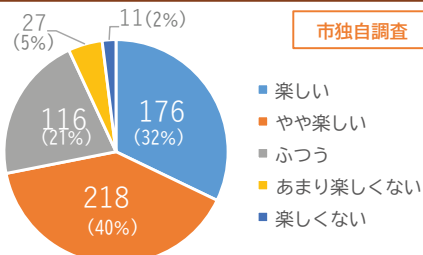
問6 子育て(教育)を主に行っているのは



令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】

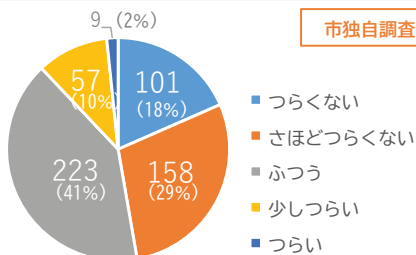


問7 あなたにとっての子育ては(楽しさ)



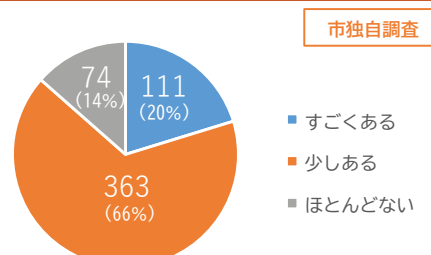
回答数548件

問7 あなたにとっての子育ては(つらさ)



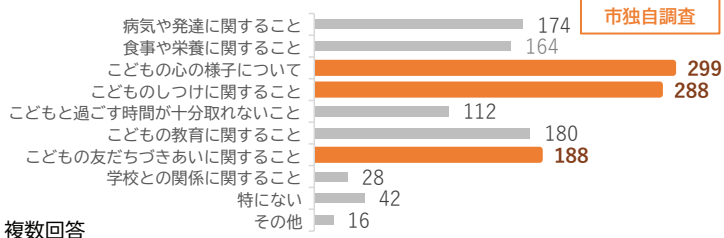
回答数548件

問8 子育てをしているの不安や悩み

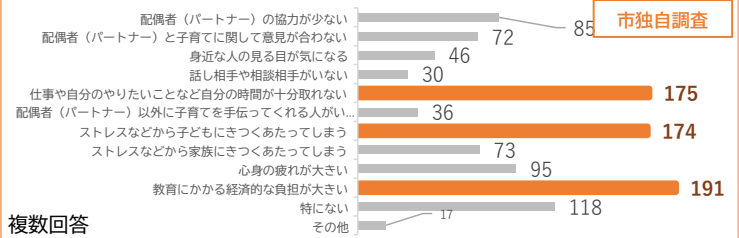


回答数548件

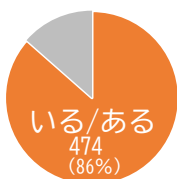
問9 子どもに関することで悩んでいること、気になることは



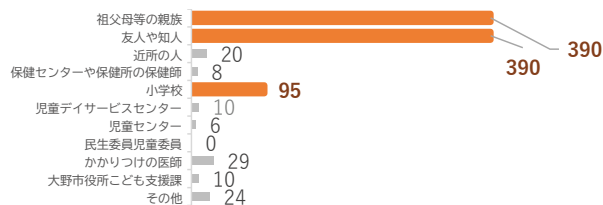
問9 保護者に関することで悩んでいること、気になることは



問10 子育て(教育)で気軽に相談できる人(場所)の有無



問10-1 気軽に相談できる人(場所は)



問11 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか

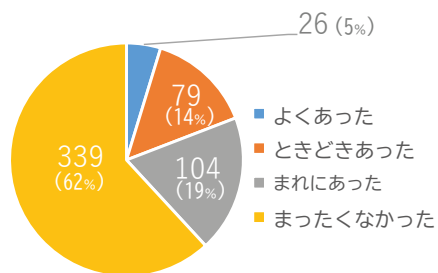
P34～P37に自由意見をまとめました

77

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(結果)



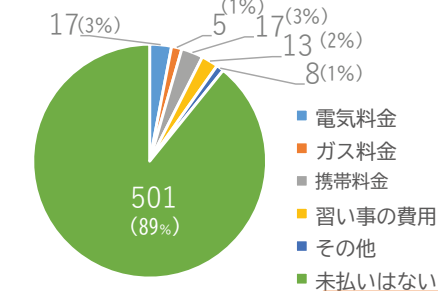
問12 家族が必要な物を買えなかったことは



回答数548件

市独自調査

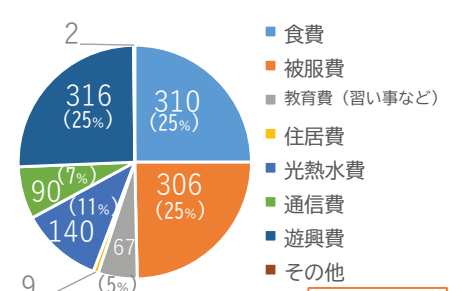
問13 過去1年に未払いになった料金は



複数回答

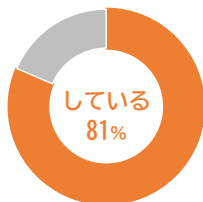
市独自調査

問14 節約するとしたらどの費用



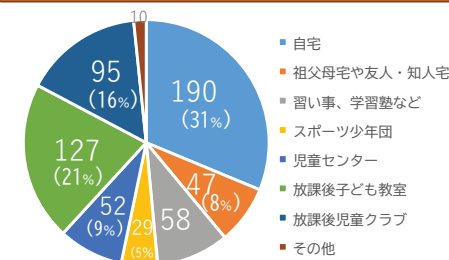
市独自調査

問15 子どもは習い事をしているか



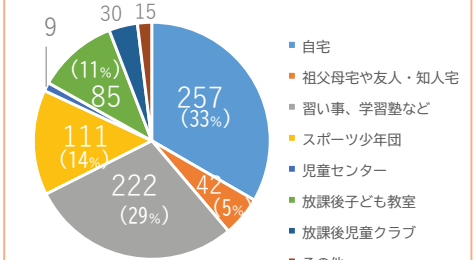
市独自調査

問16 放課後の居場所の希望(低学年)



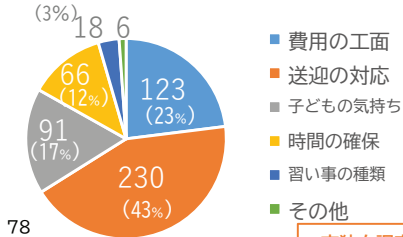
複数回答

問17 放課後の居場所の希望(高学年)



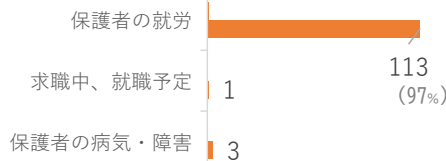
複数回答

問15-1 習い事しない理由は

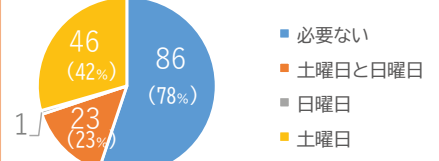


市独自調査

問18-1 放課後児童クラブ利用理由



問18-2 土曜・日曜・祝日の利用希望

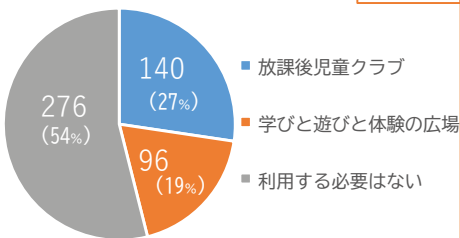


令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(結果)



問19 長期休業中の居場所の希望

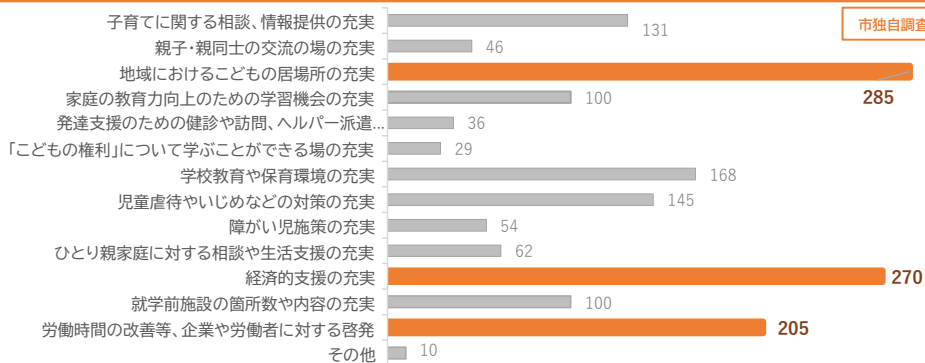
市独自調査



回答数512件

問20 子育て支援策に期待すること、重要なこと

市独自調査



問11 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

【子どもの居場所、預かり】

- ・休日の子供預かり
- ・こども食堂のような、気軽に集まれる場所
- ・長期休みに近場で預かってもらえる場所がないので、長期休みも公民館などで見てほしい。町まで送迎するのは大変なので。
- ・子どもの居場所作り
- ・学校に行かない選択をした場合の居場所
- ・親が都合悪い時の居場所作り
- ・病児保育などの預かり
- ・送り迎え等の親の負担が少なく、子供達だけで通えるような習い事やクラブがあると子供の居場所作りにもつながるため、助かります。
- ・送迎支援や緊急時の預かり支援などがあると助かります
- ・土日など休みのときに有意義に過ごせる行事や場所など 気軽に参加できるイベントのような物があればいいと思う。

- ・学校の体育館や公民館など、子どもが友だちと過ごせる場所を17時まで開放してほしい。今は親同士の付き合いが薄く、近所で子どもが少ないため、保護者の顔や連絡先も把握できていない。公園も近づくなく、児童館も遠すぎるので、近場で子どもが集まれる場所がほしい。遊具はなくてもいいから、ボール遊びとか鬼ごっこができる広場を作ってくれと1番いいと思う
- ・夏休みに就労の有無に関わらず小学生を預かってもらえる場所がほしい。祖父母も体力的に毎日子守は大変そうなので、児童館のような安全なところで朝から夕方まで見てもらえるとありがたい。
- ・土日など子供が気軽に行けるイベントや場所があったらいいと思う
- ・たまに預かって欲しい
- ・長期休み中に過ごせる場所
- ・感染症や体調不良時の預け先

問11 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

- ・支援センターや学童に祖父母が校区内にいる場合も預かってもらえるようになってほしい。
- ・放課後に子どもたちを見守ってくれるサポートがあるといいと思う。
- ・長期の休みの預け場所
- ・長期休暇時に8時前から預けられる児童センターがあるとよい。有料でもよい。
- ・仕事先が市外で17時半過ぎに終わるため、児童センターへのお迎えがいつもギリギリになるか過ぎてしまうため、遅くなりそうな時だけでも代わりにお迎えをしてもらえて、一緒に待ってもらえると助かるなと思う時があります。
- ・夏休みなどの長期休暇の昼ご飯の提供があるとありがたい。
- ・子どもを1人にしない。子どもだけで留守番をさせない。そのために安心して子どもを預かっていただける放課後子ども教室は大変ありがたい場所です。昨今、働き方が変わってきていて、休日も土日とは限りません。そのあたりも考慮していただけると、助かる保護者もいると思います。
- ・土日に子どもだけでも参加可能なイベントを開催して欲しい。
- ・高学年でも児童センターのように土曜日など預かってくれるような場所がほしい。
- ・保育園以外に子供を預かってくれる施設
- ・子供が放課後集まって安全に遊べる場所。過ごせる場所。
- ・365日予約なしで子どもを預けられるサービス
- ・見守り
- ・病気の時に預かってもらえる場所が増えると良い
- ・子供が病気のときに仕事の間みてくれる人がいるといい
- ・自由に学習を見てくれる場所がある
- ・児童館が利用しやすくなってほしい。
- ・子供の風邪などで急に休む時の対応

【見守り、相談支援、交流】

- ・経験談や失敗談などのアドバイス
- ・一緒にレクリエーションなどをすることで、地域の皆さんに子供のことを覚えてもらえて、周りにも助けてもらえるかと思えます。
- ・話を聞いて共感してくれたら嬉しい。

- ・子供の年齢に関わらず経験豊かな相談員に気軽に相談出来る場所があれば良いと思う。
- ・些細なことでもいつでも気軽に相談できる窓口(できればLINEなどのwebのもの?)があると助かります
- ・もっと気軽に子育て中の両親が話し合える場があればほしいし、そういったイベントを行う際に行政の協力を受けやすくしてほしいです。
- ・保育園ごと学校ごとでいろいろ違うので、それぞれの経験談を聞いた時に参考になった事が多かったです。
- ・しつけや子育てのしかたについて、子育て教室みたいに、気軽に相談できるところがほしい。電話でもいい。
- ・気軽にアクセスできる総合相談所
- ・相談 愚痴を聞いてもらえると嬉しい
- ・同じ悩みをもった人が集まり、話せる場所の提供
- ・ちょっとしたことでも気軽に電話など相談できる雰囲気
- ・24時間対応のチャット相談または電話相談
- ・匿名のネット相談
- ・無料窓口、LINEやメールなどで24時間相談ができる場所があれば知りたい。
- ・思春期の病気等の相談
- ・習い事の送迎補助(兄弟がいるので)、出向かなくてもいい気軽な相談窓口(LINEや、気軽に話せる場の提供)とその周知。
- ・気軽に相談にのってくれる人(機関)、LINEやアプリ等も良い。
- ・子供に対する悩み全般について気軽に相談出来る場所
- ・アドバイスや相談
- ・まず、相談するところを教えてください。窓口がほしい。まず、悩みや心配があってもどこに相談してよいかわからない。こんな悩みや心配があります。どこに相談すると良いですかって聞けるところがあるだけでも助かります。
- ・気軽に相談できる場所
- ・小学校に上がっても引き続き、くれよん教室のような発達障害の専門の機関で、定期的に(半年に1回でも)本人混じえて相談できると心強い。情報収集もしたい。
- ・悩み相談の内容と返答の開示
- ・相談相手
- ・相談しやすい雰囲気。
- ・子供の悩みを定期的に聞いてくれる場所があるといいです。

問11 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがあればよいか(自由記載)

【経済的支援】

- ・お金の余裕
- ・教育費
- ・金銭的サポートもしくは、支出の軽減。制服、体操服は高いのでで私服登校が良い。
- ・お金の支援
- ・経済的サポートの更なる充実
- ・金銭面
- ・補助金
- ・教育掛かる費用の補助や医療機関の充実
- ・経済的支援
- ・お金
- ・教育費
- ・経済的支援
- ・学費についての補助金
- ・金銭面の支援を
- ・教育費全額補助
- ・助成がもっとあると嬉しい
- ・習い事に関する経済的支援
- ・補助や助成金など金銭的なサポートが1番助かります。”

【その他】

- ・母親のリフレッシュ講座など(ヨガ、ピラティス、料理)
- ・遊び場が欲しい
- ・学校によって差が出ないように、職員教育。
- ・子供も少ないので体作リスポーツ推進として子供の体育施設利用料が無料になるとありがたい
- ・金銭面
- ・3人っ子ではなく1人目からサポートなど(給食費など)
- ・時短勤務
- ・期待していない
- ・仕事などで休めない時の預かりサービス
- ・収入によって、1人親であっても支援が受けられないことがある。
- ・身近な人→現代での子育てをふまえた上での声かけ(時代によって考えが違う為)
- ・スクールカウンセラー

- ・学校にスクールバスで通って欲しい
- ・リフレッシュできる環境づくり、制度
- ・いつでも、助けてくれる
- ・仕事をする母親が多いので、こども園や学校は集団生活なので風邪や感染症になりやすく、(コロナウィルスが流行して特に)休まないといけなくなる時、親も休まないといけなくなる。大野市は病児保育はあるが環境的にも預けにくい。子どもが病気の時に親も休みやすい環境やあるいはすぐに預けられやすい環境を整えて欲しい。
- ・登下校時の見守り
- ・ゲームのことなど本来なら家庭で話すべきことでも、学校でも言ってもらえるとありがたい。インターネットなど、我が家のルールを決めたとしても、時間の経過とともに、守りにくくなる。
- ・『何かあればサポートがありますよ』という安心感
- ・行政の書類が複雑なので簡素化されてほしい
- ・習い事など民間のサービスが少ない(選択肢が少ない)ので、子供がいろんな体験ができる機会を増やし、その子その子が「好きなこと」を見つけるきっかけができればいい
- ・送迎支援や緊急時の預かり支援などがあると助かります
- ・ゲームを置いて、公園などで外遊びする呼び掛けを全面的にしてほしい
- ・親が助けのアクションを起こさないと無理、ネグレスト対策
- ・教育講演会の開催。都合が合えば、聞きに行きたい。
- ・家族で、家事の分担など協力してもらおう
- ・子供を見てもらって少しの時間でも息抜きができる時間を設けさせてもらおう。
- ・安心して話せる人、場所
- ・子育て世帯 家賃補助制度”
- ・気軽に行ける所
- ・スクールカウンセラーのいる時間を増やしてほしい
- ・集団登校下校のサポート 6年生まで児童館利用
- ・いろいろなスポーツにも触れ合わせてみたいが、場所も時間を取ることもなかなか困難。
- ・行政に対しては、子どもが病気の時に仕事を年休で休める制度を作っていただけるとありがたいです。
- ・祖母、祖父などの協力があるので、やっていけている
- ・子供の冬や雨の日の遊び場

令和6年2月実施
大野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査【結果】



個人に関する内容を除き、原則、原文を掲載しています。

問11 身近な人、行政担当者などからどのようなサポートがほしい(自由記載)

- ・子育てについて雑談ができる環境
 - ・シッターさんのようなサポート
 - ・家でペットが飼えないので、休みの日に子供達行っ動物とふれあえる(餌やりなど)場所が近くにあるといいなと思います
 - ・宿題支援があるとありがたいです。自宅だとなかなかモチベーションが維持できないので、近くの公民館などで宿題会をしてもらえるとありがたいです。
- ハンディキャップがある子どももスムーズに学習ができるような環境の配慮をお願いしたい。
- ・父親がいないので、子供たちの学校や塾、スポ少などの送り迎えが大変で、人に頼ることが多く、申し訳なく思う。クラブチームに入ることを悩んでいる。
 - ・古臭い考え方で子どもや母親自身に接してくることをやめてほしい。
 - ・ちょっとした一言がイラッとすることがある。サポートではなく、男性(リタイヤした老人、働き盛りの主人)も含め、全ての市民で子育てに関わるんだという空気がほしい。スウェーデンのように男性の本当の意味での男性の育児参加と制度が必要だと考える。
 - ・スマホで簡単に質問できるシステムがあると良い。
 - ・夏休み中の宿題のサポート。集まってできる場所等があるとサボらないような気がします。
 - ・子育てが終わった経験者又は子育て中の先輩から話を聞ける機会があったらいいと思う。
 - ・先生方の働き方改革もわかりますが、土日に関が子供たちの様子を見れるチャンスも作ってほしい。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

【子どもの居場所、預かり】

- ・道中で怪我をする子どもたちもいます。大きな事故が起こってからでは遅いと思います。
- ・学校の休みが多く、長期休暇は、親にとっては昼ご飯の準備などが負担。そもそも休みが長いことも問題だと思います。あと、児童センターの方の対応で嫌な思いをしたことが過去にありました。障害のある人が過ごせる場所も少ない。それによって、親が仕事をセーブしないといけなくなる。もっとニーズを聞き、ほしい支援があるといいと思います。
- ・もっと誰しもが利用しやすく、子供がのびのびと過ごせる施設があると、親も子ども安心して生活ができるのにな…と日々感じています。
- ・児童センターや図書館などが古く、こどもが利用したがいらない。整備をお願いしたい。
- ・児童センターに通わせるほどでもないが、夏休みなど大型の休みに通うことができる長期のサマースクールなどの学びの場が大野市にもあれば通わせたいです。
- ・長期休暇の時 放課後児童クラブは8時から子供を受け入れてくれるのですが就業時間が8時なのでもう少し早い時間から受け入れてくれるとありがたいです。
- ・放課後児童クラブの利用条件が厳しい。緩和してほしい。2年からは自主的に留守番練習するように聞いて驚いている。
- ・会社勤めから、自営の仕事になったとたん、放課後児童クラブを利用できないと言われた。福祉課では児童館の先生と相談してくださいと柔軟な対応であったが、児童館からは利用できないの一言であった。自営でも客先に出勤くことがあり、店に商品と現金がある中、子供だけを置いて出かけることになる。事務仕事でも子供が傍にいれば当然集中できない。自営業の仕事を軽く見られているようで悲しかったし、現状でも困っている。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

・放課後児童クラブの条件が、祖父母ありきで設定されているように感じるが、祖父母に頼ること前提では、どこが子育て支援なんだ？！と思う。親世代が祖父母にどれだけ頭を下げているかご存知ですか。祖父母世代も無理をしているのをご存知ですか。最後に、断られる際の児童館の先生の言葉遣いや態度も、とても腹の立つものであった。児童館にはとてもお世話になり、先生方にも感謝しているが、長く勤める職員さんばかりで、先生が偉くなりすぎているように感じた。

・長期休暇以外でもお金を払ってもいいので、親が2人とも働いているな預けられるようにしてほしい。

・有効活用して、阪谷の子の放課後の居場所作りに活用して頂けるとありがたいです。

・学校が放課後も遊び場だったらいいと思う。退職した先生方もたくさんいらっしゃると思うので休みを交代して放課後見れるのでは？と思うのですが。

・退職した先生方や現在の教職員の数に余裕があるのではと思います。休みを交代したりして放課後に学校で遊ばせてもらえると助かりますが。

・放課後こども教室、なぜ下庄はないのですか？遠方なので学校終了後に迎えに行ってます。帰宅後も子供を預ける場所も人もいないので17時頃まで学校にいてくれたら、安心して働けるのかなと思います。

放課後の居場所、遊び場がない

大野市の公共の場所中高生が放課後に勉強できるスペースがあるのは、とてもありがたいと思います。ぜひ、つづけてほしいです。

・スマホが中心となっている社会の中で、スマホの利用時間が増え続ける子ども、スマホ片手に子育てする親、親子でもう一度スマホの取り扱いについて考えなければと思います。

・放課後の居場所、遊び場がない

・大野市の公共の場所中高生が放課後に勉強できるスペースがあるのは、とてもありがたいと思います。ぜひ、つづけてほしいです。

・スマホが中心となっている社会の中で、スマホの利用時間が増え続ける子ども、スマホ片手に子育てする親、親子でもう一度スマホの取り扱いについて考えなければと思います。

・放課後の為の周遊バスのようなものがあったら助かる。

・放課後児童クラブの職員の対応が悪く子供達を安心して預けられなかった経験がある。

・どこに行くにも家の人がいなくて遊びに行く場所までの距離が遠い子どもたちは結局家でゲームなどして、引きこもる。よくないと思います。

・放課後児童クラブで、仕事が休みの日にも子どもを預けている親がいると知り腹が立ちます。スイミングのバスに乗せるためだけに利用している人もいると聞きました。うちは共働きですが校区内の祖母が働いていないという理由で対象になりません。習い事の送り迎えは祖母含め家族内でやりくりしています。それなのに同じ税金を払っているのが納得できません。子ども教室とは違って全家庭が平等に使えるサービスでないのに利用料を無料にしているのが納得できません。無料にしているから調子に乗ってルールを無視する親が増えるのではないですか？

・知人の話ですが、放課後デイサービスでえがおの教室を利用したいのに、就学直前になってもういつまでも担当相談員が決まらず、受給者証を取得できないのは重大な問題だと思います。結局くれよん教室がサービス計画の代わりを書いて市に提出しています。くれよん教室への負担も大きいです。「相談員が決まるまで待っていてください」から半年経っても決まらないのは、発達に気がかりさのある子どもを育てる保護者にとっても見通しが持てず不安が募るばかりです。早急な対応をお願いしたいです。相談員の労働条件の改善と併せた増員をお願いします。

・民営の習い事や遊び場が少なく放課後の過ごした方が限られてしまう。特に長期休暇中はいろんなイベントを実施してほしい。

・長期休暇中の児童クラブの開館時間が、8:00からだ仕事に間に合わない。せめて7:30からだ助かる。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

【その他】

- ・無償化や補助などの経済的支援をどんどんしてほしい。
- ・何かあった際に子供をみるために仕事を休むことも多い。祖父母がいない家にはせめて経済的援助があると助かる。
- ・ひとり親家庭の経済的負担を減らすようにもっと大野市独自で支援してほしい
- ・経済的支援が1番うれしい
- ・少子化を防ぐために、児童手当のような独自の支援があれば尚よいと思います。
- ・医療費の支援を長く(高校生まで)していただいていることは大変ありがたいです。
- ・子供の病気や臨時休校など緊急時の職場の理解
- ・みんな色々な悩みを抱えていると思いますが、子育て中、1番不安になるのは病気や怪我をする時だと思います。
- ・大野市の病院に受診しても、福井の病院へ行くよう指示され、福井の病院ではこんなとこまでわざわざ来なくても、、、と言われます。小児科の先生が1人でもいたらな、と思ってしまいます。”
- ・子育てするにあたって、大野市で必要なものは病院だと思います。小児科がないことは、とても不安です。
- ・大野に病院が充実してほしい
- ・子どもが夕方発熱した際に行く病院(断られて)がなく困った。辛い子どもがいながら受け入れてくれる病院を探すのはかなりつらかった。
- ・大野市に小児科がほしい。
- ・遊ぶ場所より小児科だと思います。
- ・発熱外来、予防接種、急患センターなど医療機関を充実させてほしい。
- ・医療機関の充実

- ・親は精神的、体力的、経済的に無理な家庭もある
- ・地区があって、県があって…いくつもかけ持ちしなきゃ存続できないなんて何のためなのか。みんなが仕事してて、核家族で、時代も変わってるのだから、まとめるなり小規模にするなり見直すべき。
- ・市内の体育館(まちなか)が幼児の遊び場になってしまうことで、これからさらに小学生以上のスポーツをしている子供のためにスポ少だけでなく個人でも体育館予約の争奪戦が予想されるので、令和6年度の練習場所の確保状態がどうなってゆくの…日々毎日少しでも練習して成長したいという子供のやる気はあるものの体育館の確保が出来ず断念することも多々あり意欲を叶えてあげることが出来ず残念に思えるこの頃です。
- ・支援が足りないので、もっと増やしてほしい
- ・高齢者優遇よりもっと子育てを重視して欲しい。
- ・学校後の送迎がすごくてビックリしました。
- ・子育てがしやすい職場が少なく、子供の体調不良や行事で仕事を休む場合休みにくいと感ずることがあります。女性が働きやすい職場だけでなく、子育てしやすい職場を増やしてほしいです。また、子供を出産後しばらくは他のママ達と話す機会がありますが、子供が大きくなるにつれてその機会が減り、でも悩みが増えるママは多いと思います。そんなときに気軽に話ができたり、相談できる場所やイベントを作りたいと思っていますが、個人では限界があります。そういったときに市に協力いただける方法はなどがほしいです。
- ・子どもの困った行動に対して、気軽に相談できる場所があるといいなと思います。
- ・夏休み冬休みの児童館について無料で利用できると良いと思います。給食費も3人目から無料ではなくてできれば2人目、理想は1人目だとありがたいです。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

- ・発熱外来、予防接種、急患センターなど医療機関を充実させてほしい。
- ・医療機関の充実
- ・子どもに関して教育相談をしても、話はしっかり聞いてもらえるが、結果として具体的な対策はなされず、合理的配慮もしてもらえない。
- ・図書館をもっと活用できる場にしてほしいです。今の規模では、学習環境が狭いように思うため、小学生だけでなく中学生や高校生など幅広く子供たちが学習などできる設備に整えてもらえるとありがたいと思います。
- ・障がいや気掛かりさを抱えた子どもを産んだり、育てたりされている保護者への必要な情報提供や保護者同士の交流の場の提供など、支援を拡充していただきたい。
- ・アンケートを求める時は郵送で各家庭に配布していますが、アンケート結果はとどきませんよね。
- ・障害のある子の親が仕事を辞めたり、仕事時間を制限したりするという話をよく聞くので、子育て、就労両面での十分な支援が必要だと思います。
- ・夏休み中学童で体育館を使用したくても熱中症の危険があるため使用できないことがあるので体育館にクーラーをつけてほしいです。
- ・双子は特にお金がいっぱいにかかります。なので、何かしら援助してもらえると助かります。特に学校に入学する時など、準備しなければならないものが2倍になり、費用もいっぺんに2倍かかります。その他の兄弟とも歳が近いと使いまわしもできず、お金がかかります。良いものを買ってやりたいと思っても2倍となると、実際は質を落として安いものを選ぶしかなくなります。そうならないためにも援助して頂きたいです。また、ランドセルも大野市内、統一して黄色の軽いランドセルで良いと思います。そうすれば差別も少なくなるといいますし、軽いし、安いし。統一されてしまえば親も選んだりする必要もなく楽かと思います。
- ・歩いて登校する風土になってほしい。

- ・陽明校区にもふれあい公園や明治公園のような大きな公園がほしいです。自転車で安心して通行できるよう、道路の幅を広げて専用レーンを確保してほしいです。大人の自動車運転のマナー向上も必要だと思います。
- ・人口の減少と時代の流れにより、地域の中でも人と人との繋がりが減ってきているように感じるので、運動会や祭りとは別に区民が主体となったイベントが増えると、子育てしやすい環境が自然と育つのではないかと思います。
- ・祖父母に頼むにも限界がある。
- ・なにより子どもを産める産婦人科がないと、若い家族は住みつかないかなあとします。私は予定帝王切開だったので不安はありませんでしたが、そうでない妊婦さんは不安で仕方ないと思います。
- ・出産し、育児をしているからこそ、上の子を少しでも長く保育園で見てもらえると、育児がしやすい。
- ・大野市は廃校などがすすみ、場所はいっぱいあるのに、使い方がもっていないなあと思うところが多々ある。せっかくある施設をもっと有効にうまく活用してほしいなあと思う。
- ・子供に関わる専門職の知識向上
- ・学校の体操服、制服が高すぎる。男の子の場合、体操服は破れや汚れで買い替えたいと思っても高いため躊躇する(長袖体操服の上下1組で1万円近くする)。補助やリユース制度など必要
- ・富田地区にも子供達で移動して遊べるような施設がほしい
- ・結論として、大野市の未来、教育の方向性が見えないため、将来的には、福井市への移住もやむを得ないと私は今のところ考えています。(考えている人も多いのではないのでしょうか。)
- ・電車の本数、車両を増やしてほしい

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

- ・教育だけでなく、友達関係や授業以外の事についての対処が苦手な方が多いように感じます。
- ・早い時期から職業体験をしたり、将来の夢や目標を見つけることができる機会を増やしてほしいです。
- ・制服と集団登校の廃止を検討お願いします。
- ・障害をもつ子の受け入れサポートを手厚くしてほしい。
- ・また、2人目、3人目を考えていても、教育費など金銭的な面で躊躇すること多いと思うので、より多子世帯に向けたサポートの充実とその周知があれば、大野でもっと子供を産んで子育てしたいという方が増えるのではないかと感じました。
- ・4人以上の多子世帯にもっと経済支援をしてほしい
- ・共働きを推進する必要はないと思う。子どもを預けられる施設を増やすより、給料の手当を増やして、両親が早く家に帰れる体制を作るべき。育児休業ももっと長く必要。人間としての土台を作る時に、保育所に長く預けるべきではない。保育時間の長時間化は目先の利益のみ考えている。
- ・若い人が思い切り育児に関われる方法、または、在宅ワークでも仕事を続けられる環境づくりが必要。否が応でも母親だけに必然的に育児の責任がついて回るような育児環境は好ましくない。母親はもっと一人の人間として尊重されて育児時代を過ごせるようになってほしい。育児の分担だけでなく、家庭内の細かな仕事の分担をできるような世の中にならなくては、日本は後進国になっていく。人を育てることはそんなに簡単ではない。
- ・学校後の居場所をもっと充実させてほしい
- ・とにかく、大野市には習い事が何があるのかわからなく、人伝いに聞かしかないのが困ります。子育てに関して気軽にスマホで聞けるようなシステムがいいと思います。

- ・学校に安心して通わせられる大野市でいてほしい。このままでは大野で子育てをしたい、教員をしたいと思う人はいなくなるでしょうね。
- ・ひとり親にだけ対する支援がありすぎる。自分たちの都合で離婚した人もいる。子供の為に我慢して夫婦生活している人もいるのに差別に感じる
- ・以前に市役所の方に家庭に介入されて、ひどい目にあい人生がくるいました。支援の方法がいきすぎていたりずれていたりおかしいと感じる点がたくさんあります。自宅にくる時はいつも連絡もなくいきなりおしかけてくる感じでした。そしてこちらとはほぼ面識のない他の職員をつれてきます。所内のきまりもあると思うし、職員だからそれが当然と思っているのでしょうかいくら市役所の職員だからといって、こちらの気持ちを無視していてあまりに失礼ではないでしょうか？あるいは訪問時に関わらず、そういった決まりごとが今の時代にあっていないのではないかなと思うので、一度見直された方がいいのではないのでしょうか。最初は信頼して相談していましたが、そういった事があって、もう恐怖だし信用できないので、失礼ですが市役所関係には相談したくないですし、極力関わりたいくないと思っています。大野市役所そのものに不信感をもっています。
- ・仕事と子育てで自分の時間がない。でも子供との時間も貴重で削りたくない。会社が子育て世代に平日の特別休暇が欲しい。また、土・祝日の休みを優先的に回すや、子供の風邪など休みやすい環境にしてほしい。また、そこへ子供が自由に行くための公共交通機関の整備わが家だけだと思ったが、ちらほら同意見を聞いた事があり評判が悪かった。
- ・就労のために預けて、有料だと意味がない。
- ・スクールカウンセラーの時間を増やしてほしい
- ・中学や高校へのバス通学があるといい。特に冬。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

・帰りは体操服で帰って来ます。なのでナプサック？という物にぐしゃぐしゃになった制服が毎日ストレスしかありません。体操服で登校すれば子供達も荷物が減って学校で着替えの無駄な時間がなくなると思いますが。登校してすぐに体操服に着替えるのムダだと思いますそして制服や教材などのいろんなムダをなくして欲しいです

・大野市の事はネットで調べてもよくわからないこともあり電話で問い合わせすることもあります。学校の情報や雪の捨て場など日常生活の困り事などずっと大野にいる人はどこで買い物するなどどんな店があるなどもう少し情報があると助かります

・夏休みに、冷房の効いた公民館を子どもたちみんなが利用できると有り難い。お弁当可、学習スペースや工作部屋があり、走り回るのは外で、出入りは自由、ルールは最低限作って安全に。

・親が就業中などで送迎できない時に、子どもだけでも利用できるような交通機関をつくってほしい

・校内にあればいいのになと思います。

・協力し合える仲間がいることや、育児について学ぶことが当たり前の社会になるといいなと思います。

・コロナ禍だったのでしかたがなかったかもしれないが、児童館の対応が非常に厳しく子供が行きたがらなかった。夜勤明けや入りの日も預かってもらえず、仕事が大変でした。お迎えも時間内に迎えに行けたにも関わらず、家族中に電話され、苦情をいわれた。預けたくなかった。

・制服で学校に行きすぐに体操服に着替える意味がわからない。帰りは体操服です。それなら体操服で登校したら良いのではないのでしょうか？荷物も毎日の洗濯物も減ります。大野市の小学校はどこもそのようだと聞きました。制服を廃止して体操服だけでも子供達は困る事は無いと思います。困るのは繊維組合や見栄えを気にする大人だと思います。大人の都合で朝の着替えなど無駄な荷物や作業、時間が増えるのは良くないと思います。

・子育てしやすい環境を作ってくださいありがとうございます。上の子の時から、支援センターや保育園などでたくさんお世話になってきました。大野市で子育てができて幸せだと思えます。

・大野市で子育てして「大野に帰ってきて家庭を持って」と言いたくなるような市に早くなって欲しい。

公園や屋内遊具施設などの充実対応をお願いしたいです。

・子育てに関して相談したい気持ちはあるが、他の保護者の相談例を聞いてどこに相談すれば良いか、情報も少なく担当者の方の専門性なども明確ではない場合に相談に迷う時がある。

・子供だけで行ける遊び場が少ない。もう少し自由に遊ばせてあげたい。シェアオフィスの子供版があるといいと思います

・いつもいろいろな支援を考えて下さっていると思います。ありがとうございます。学校の合併時の心配が大きいので、子ども達のメンタル面のサポートをお願いしたいと思います。

・福井市のように長期休暇に預けられる有料の児童館があるとよい

・子どもの数が減り、家に帰ってきてから遊びに行くとか友達と遊べる環境でなく、公民館などで過ごす時だけがあそべます。迎えに行くと、新しい本とか遊べるグッズがもう少し充実してるいいと思ったことがあります。例えばぬいぐるみがボロボロだったり、そういう備品等は、支援があるのかな？と思いました。学校まで遠いのでバス。毎日歩くこと比べると、6年間班長になって引っ張っていく責任感だったり寒くてもいく根性だったり、足腰の丈夫さに少なからず差がありそうです。スポーツ教室に行っていることも、差が出そうで、中学からの部活がもし絶対でなくなると、ずっとそういう頑張ったりする経験があまりしなくてもいい子も出てくるのかなとおもいました。

・ギリギリの中、何とか1つ習い事はできてますが、子どもが将来の夢のために、他にも習い事をしたくても余裕がないので、我慢してもらっているのが現状です。

問21 子育て環境や支援に関する意見(自由記載)

両親そろって頑張っている世帯に恩恵がなさすぎる！！！税金取られてばかりで納得できない。
いつもありがとうございます。子育てしやすい大野です！

こ の ペ ー ジ 以 下 余 白

こ の ペ ー ジ 以 下 余 白

こども まんなか

大野市は県内の市町では一番最初に、
県と同時となる令和5年8月3日に
「こどもまんなか応援サポーター宣言」
を行いました



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。